

「少年の生活意識と行動」の実態調査

報告書



令和7年3月

小牧市少年センター
(小牧市こども政策課)

目 次

第1章 調査実施の概要	1
調査の目的 調査の内容 調査の方法	
第2章 調査結果	
I 6年間の調査結果からみられる少年の意識傾向と変化等	
1 家庭生活に関すること	2
2 スマートフォンに関すること	3
3 本人に関すること	4
4 家庭・家族に関すること	6
5 学校や勉強に関すること	7
6 地域に関すること	8
7 将来に関すること	10
8 少年非行や社会認識に関すること	10
9 ヤングケアラーに関すること	11
II 調査項目ごとの結果と考察	
1 家庭生活に関すること	13
問1 就寝時刻 問2 勉強時間 問3 通塾日数	
問4 趣味の時間 問5 読書量 問6 休日の過ごし方	
2 スマートフォン（以下スマホ）に関すること	16
問7 スマホの所持率 問8 スマホの所持開始時期	
問9 スマホの利用時間 問10 スマホの夜間利用	
問11 スマホでの出会い 問12 インターネットの利用方法 問13 SNSへの投稿	
3 本人に関すること	19
問14 悩みごとの内容 問15 悩みごとの相談相手	
問16 「死にたい」と思ったこと 問17 友人の数 問18 友達関係	
問19 ネット上の友人の数 問20 ネット上の友達関係 問21 自分にとって大切なこと	
4 家庭・家族に関すること	23
問22 家族として大切なこと 問23 家にいるときの気持ち	
問24 注意をしてくれる相手 問25 注意の内容	
問26 お手伝いの内容 問27 父親像 問28 母親像	
5 学校や勉強に関すること	27
問29 先生との信頼関係 問30 教えてもらいたい先生 問31 不登校への思い	
問32 不登校の理由 問33 学校のきまりや規則 問34 勉強する理由	
6 地域に関すること	30
問35 自分のまちへの愛着 問36 公共施設の整備状況 問37 地域の安心度	
問38 安心して外出できない理由 問39 隣人の認知度 問40 声かけの頻度	
問41 隣人からの注意 問42 行事への参加 問43 行事への協力	
問44 近所付き合いの大切さ 問45 大切にしたい地域行事 問46 理想の地域	
7 将来に関すること	36
問47 希望の最終学歴 問48 希望の仕事 問49 夢への努力	
8 少年非行や社会認識に関すること	37
問50 非行の理由 問51 非行の防止策 問52 社会の問題点	
9 ヤングケアラーに関すること	39
問53 ヤングケアラーへの認知 問54 ヤングケアラーへの該当	
問55 お世話の内容 問56 お世話の日数、お世話の時間	
問57 お世話をすることへの辛さ 問58 助けてほしいこと、必要な支援	
第3章 調査資料	
質問用紙	43

第1章 調査実施の概要

I 調査の目的

大きく変化する社会情勢や4年近くに渡るコロナウイルス感染症の影響で、少年を取り巻く生活環境や人との関わり方なども大きく変化してきました。その中でSNSを発端とするトラブルや性被害、不登校の増加などの様々な問題が生じています。

時代の流れとともに変化する少年たちの生活意識や行動の実態を把握するためのこの調査は、学校・地域を中心に小牧市全体で取り組んでいる青少年健全育成活動をより一層充実させるための資料として活用してもらうことを目的としています。

調査対象年齢は、小学校5年生、中学校2年生、高等学校1年生とし、性別・年齢による特質と経年変化に注目することとしました。調査内容は、本人、家庭・家族、学校や勉強・地域等に関することなど、少年の生活全般に関わるものとし、少年の意識や行動の傾向を幅広い視点から把握することを意図しました。また、一昨年度から設問に加えた最近大きな問題となっている「SNSへの投稿」「ヤングケアラー」については、引き続きその実態の把握に努めました。

この調査結果から、少年の生活意識と行動傾向の変化を的確に把握し、少年たちを見守る大人が、少年たちの気持ちに寄り添いながら自信をもって適切な支援やアドバイスができるようになることを期待します。

II 調査の内容・・・第3章 調査資料 参照

III 調査の方法

1 調査対象者

小牧市内の小学校5年生（1または2学級）、中学校2年生（それぞれ2学級）、高等学校1年生（小牧高校6学級、小牧南高校6学級、小牧工科高校2学級、誉高校4学級）の男女

2 標本数

調査Ⅰ、調査Ⅱとも各学年300名程度

3 抽出方法

各学校の各学年から指定数の学級で調査（学校による選択）

4 調査方法

市内の小学校、中学校、高等学校を通じて児童・生徒に配布・回収
質問紙への直接記載方式

5 実施時期

令和6年9～10月 調査実施（令和6年10月4日 回答回収）

6 処理方法

「株式会社 名豊」に集計・データ処理を依頼

（各項目について学年・男女別、学年別、男女別の集計依頼）

本報告書の調査結果は、学年別集計表を中心に、学年・男女別集計も参考に考察する。

7 回答数及び処理数

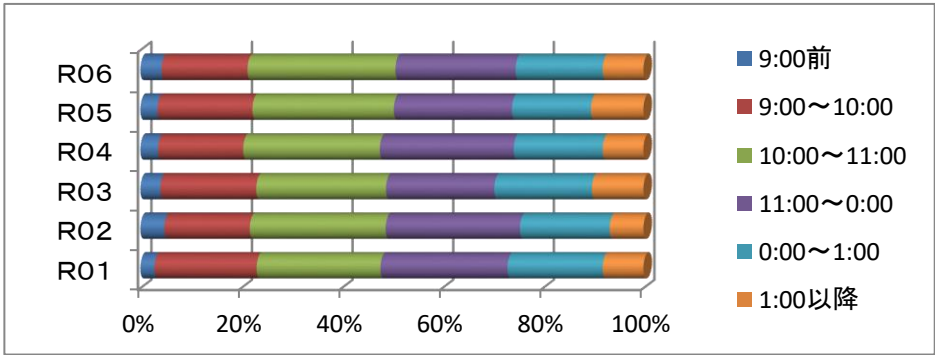
調査Ⅰ	小5年	303名（男子147名、女子156名）
	中2年	285名（男子149名、女子136名）
	高1年	313名（男子181名、女子132名）
	合 計	901名（男子477名、女子424名）
調査Ⅱ	小5年	295名（男子144名、女子151名）
	中2年	286名（男子148名、女子138名）
	高1年	319名（男子156名、女子163名）
	合 計	900名（男子448名、女子452名）

第2章 調査結果

I 6年間(令和元年度～令和6年度)の調査結果からみられる少年の意識の傾向と変化等
* 各設問のグラフは、小学校・中学校・高校の児童・生徒合計割合(%)の6年間の推移を示したものです。文中の[]内の数値は、01年度→02年度→03年度→04年度→05年度→06年度の調査の割合(%)を示したものです。

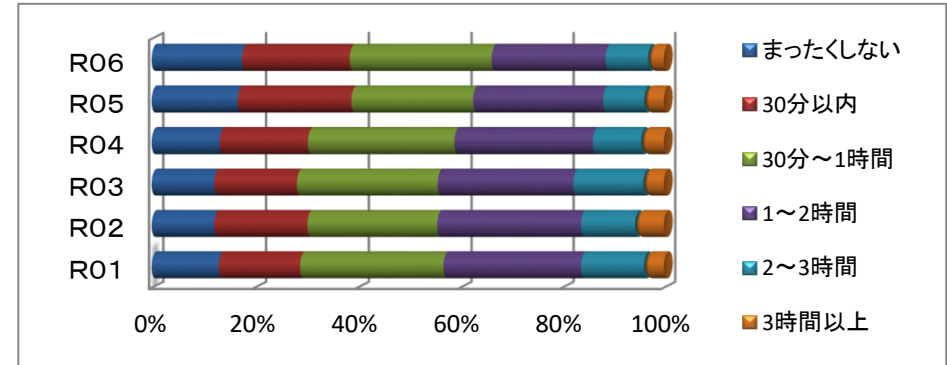
1 家庭生活に関すること

問1 ふだん(月曜日～金曜日)、何時ごろに寝ていますか。



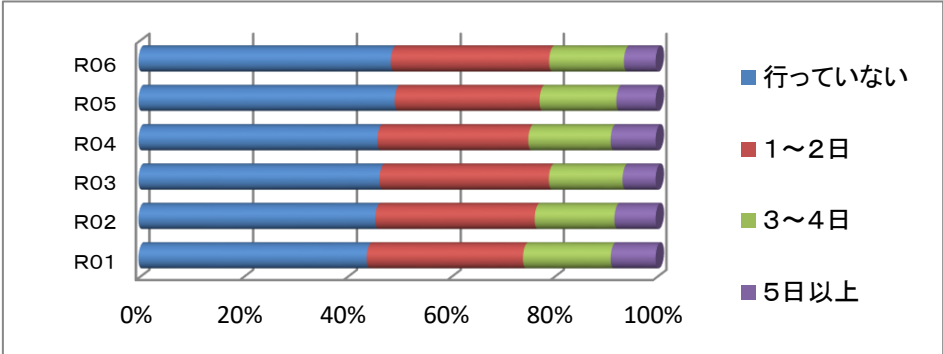
令和4年度まで午後11時までに就寝する子どもの割合が50%を下回っていたが、昨年から50%を上回り、今年も51%だった。午前0時以降に就寝する子どもの割合は[27→24→30→26→26→25%]と推移しているが、その中で1時以降と回答した割合は、昨年度10%だったのに対して本年度は8%とわずかなではあるが減っている。しかし近年子どもたちの就寝時間が遅くなっていることに変わりはなく、睡眠不足による健康や学校生活への影響が心配される。

問2 ふだん(月～金)学校の授業以外に、どれくらい勉強しますか。(塾・家庭教師も含む)



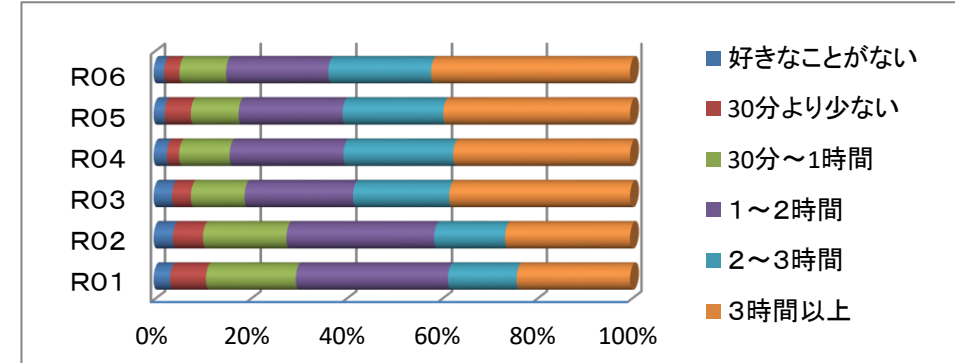
平日勉強を、「まったくしない」「30分以内」「30分～1時間」と回答した割合の合計は[56→56→59→62→66%]と推移し、この6年間で勉強時間が1時間以下と回答した割合が66%と最も高くなった。その中で「まったくしない」と回答した割合は昨年度の17%をさらに上回る18%となり、この6年間で最も高くなった。経年変化のグラフからも、学校の授業以外での勉強時間が徐々に減少してきていることがはっきりとわかる。「2時間～3時間」「3時間以上」と回答した割合はわずか11%となり。授業以外の学習時間の減少が進んでいる。

問3 1週間に何日くらい塾(学習・習い事など)へ行っていますか。



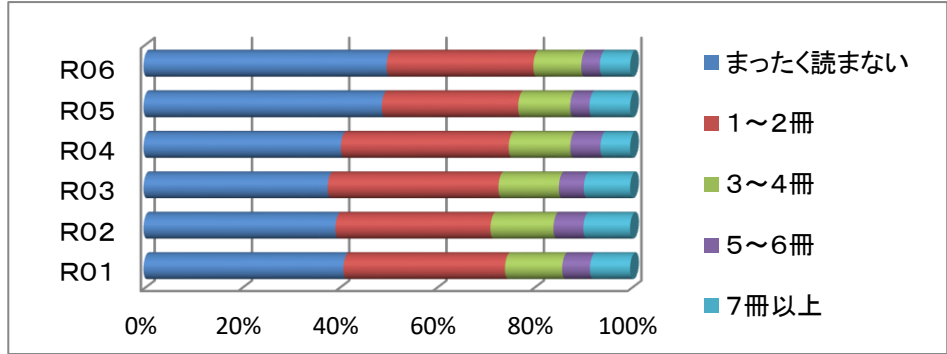
塾へ「行っていない」と回答した子どもの割合は[43→45→45→46→49→48%]と推移しており、昨年度と大きな変化はない。一方「5日以上」と回答した割合の推移は[9→8→6→9→8→6%]となっており、わずかなではあるが減っている。「3日～4日」と回答した割合も、14%から17%の間で推移しており、通塾状況全体に特に大きな変化はなかった。

問4 ふだん(月～金)、1日あたりどれくらい家で好きなこと(趣味)をする時間がありますか。



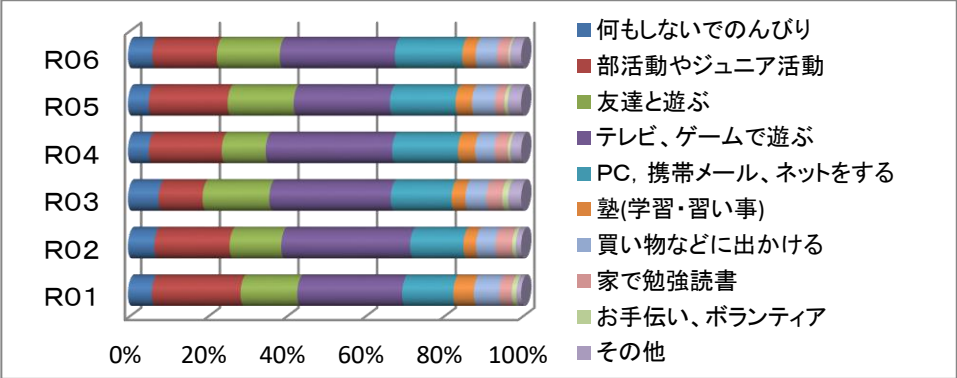
家で好きなことをする時間が「1時間以上ある」と回答した子どもの割合は[69→71→81→84→82→85%]と推移し、コロナウイルス感染症による影響を大きく受けた令和3年以降80%を超え、過去最高の割合となっている。コロナウイルス感染症による自粛を機に行動様式や学校での行事や部活動などのあり方の変化が、子どもたちの生活に大きな影響を与えたことがわかる。中でも3時間以上と回答した割合は[24→26→38→37→39→42%]と令和元年度と比べると18ポイントも増えている。

問5 1か月に平均で何冊ぐらいの本(漫画や雑誌類を除く)を読みますか。



本を「まったく読まない」と回答した割合は[40→39→38→40→49→50%]と推移し、5割の子どもたちが本を「まったく読まない」ようになってしまった。インターネットの様々なコンテンツや教科書のデジタル化などが読書離れの一因となっている事が想像できる。その中でも月に3冊以上本を読む子どもは20%、そのうちの7冊以上読む子どもが6%ほどいるので、読書の重要性を再確認し読書教育の充実を図りたい。

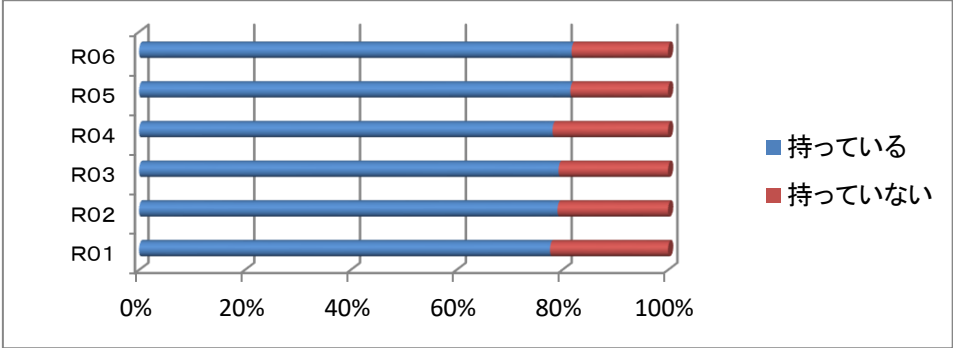
問6 休みの日の過ごし方で、一番多いものはどれですか。



休日の過ごし方で最も多いのは「テレビ、ゲームで遊ぶ」で、[26→33→31→32→25→29%]と推移している。令和元年から「部活動やジュニア活動に参加する」を抜き、以後最も高い割合となり、昨年度は25%と減少したが本年度は再び増加に転じている。コロナ禍で令和3年度に11%と過去最低となった「部活動やジュニア活動に参加する」は、通常通り実施できるようになったにもかかわらず、昨年度の20%から16%へと減少している。

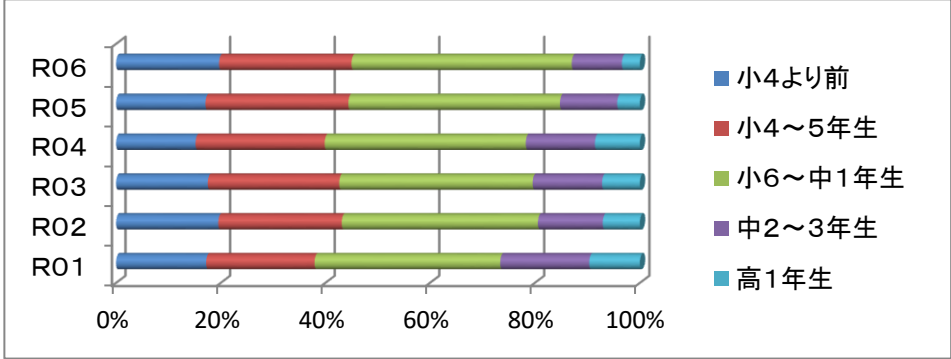
2 スマートフォンに関すること

問7 自分専用のスマートフォンを持っていますか。



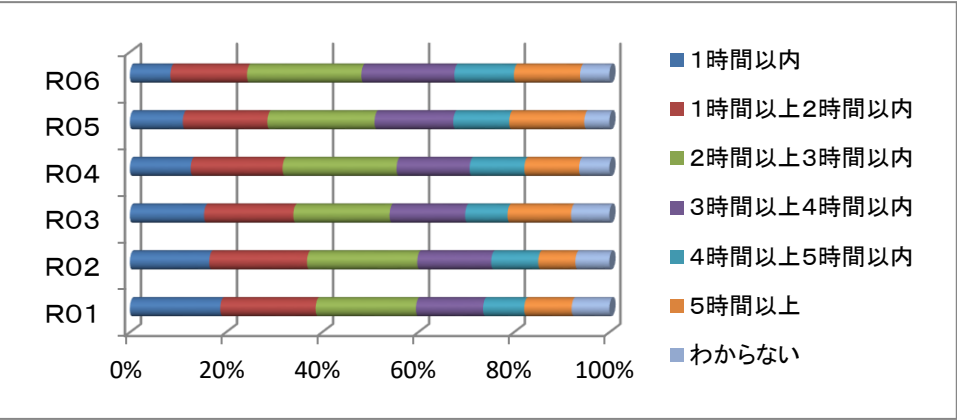
自分の専用のスマートフォンを「持っている」と回答した割合は、[75→76→75→71→80→82%]と推移し、所持率が過去最高となった。スマートフォンは今やコミュニケーションツールとしてだけでなく、ゲーム、動画視聴、公的手続き、ネット銀行での取引、買い物の支払いなど生活のあらゆる場面で必要なものとなっている。スマートフォンを使いこなせないと生活に支障をきたすことも多くなっていることから、今後は子どもたちにいかに正しい使い方を身に付けさせるかに注力する必要がある。

問8 スマートフォンを持ったのは、いつごろからですか。



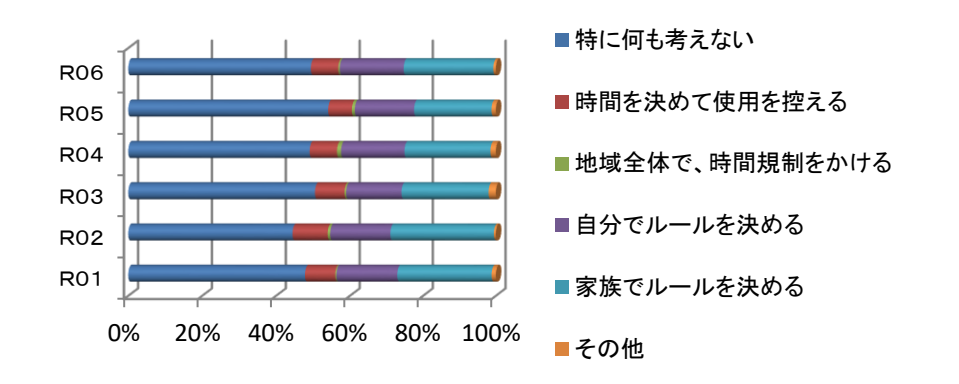
スマートフォンを所持した年齢は、「小6～中1年生」が最も多くその割合は[35→37→37→38→40→42%]となっており、今年度中学校1年までにスマートフォンを所持したと回答した割合は、所持者全体の約87%となっている。また、所持したのが「小4より前」と回答した割合は[17→19→17→15→17→20%]と増えており、小学校高学年から持たせるのが妥当だと考えている保護者が多いことがわかる。近年スマートフォンでのSNSを通してのトラブルや性犯罪などの被害に巻き込まれることが後を絶たないので、持たせるときに子どもの命と安全を守るために、使い方や約束事など十分話し合うことが大切になってくる。

問9 ふだん(月～金)、1日あたりどれくらいスマートフォンを使っていますか。



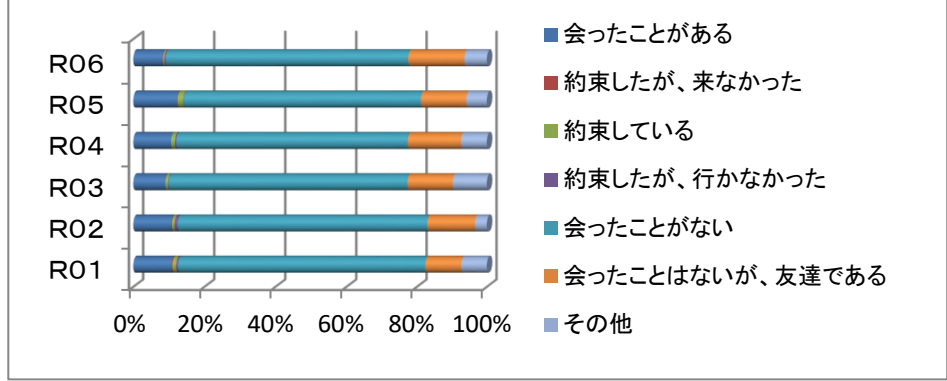
スマートフォンの利用時間を1時間以内にとどめている割合は[19→16→15→13→11→8%]と年々減少し、逆に3時間以上利用するという割合は、[32→33→38→38→44→46%]と推移し、令和元年度から14ポイントも増加している。このことから、近年子どもたちのスマートフォンの長時間利用が常態化してきていることがわかる。その中でも14%の子どもが毎日5時間以上利用していると回答し、スマートフォンへの依存性が心配される。

問10 スマートフォンなどを夜間に利用することについてどう思いますか。



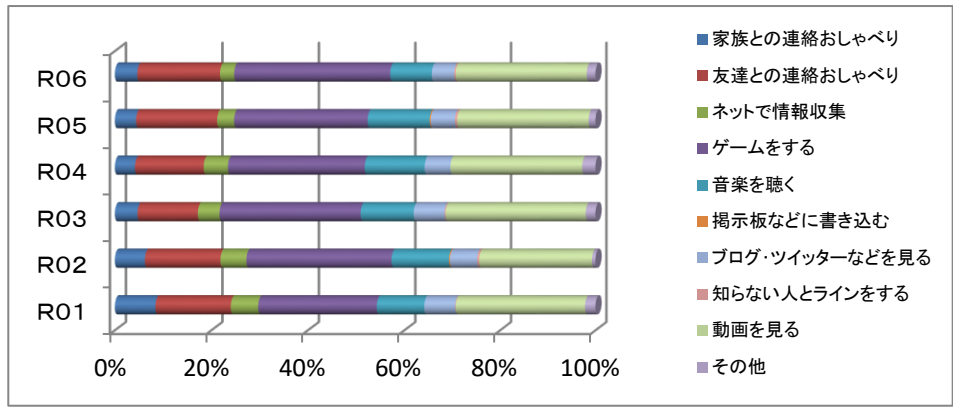
スマートフォンを夜間に利用することに関して、「特に何も考えない」と回答した割合は、[47→44→50→49→54→49%]と推移し、およそ半数の子どもたちが夜間利用することの是非について深く考えていない。「時間を決めて使用を控える」と回答した割合の推移は[8→9→8→7→6→7%]となっており、主体的に夜間の利用に制限を設けている割合も低い傾向にある。それでも「家庭でルールを決める」と回答した割合が25%ほどあり、夜間の利用についてやはり何らかの約束や制限が必要だと考えている子どももいることがわかる。

問11 スマートフォンを通して知り合った人と会ったことがありますか。



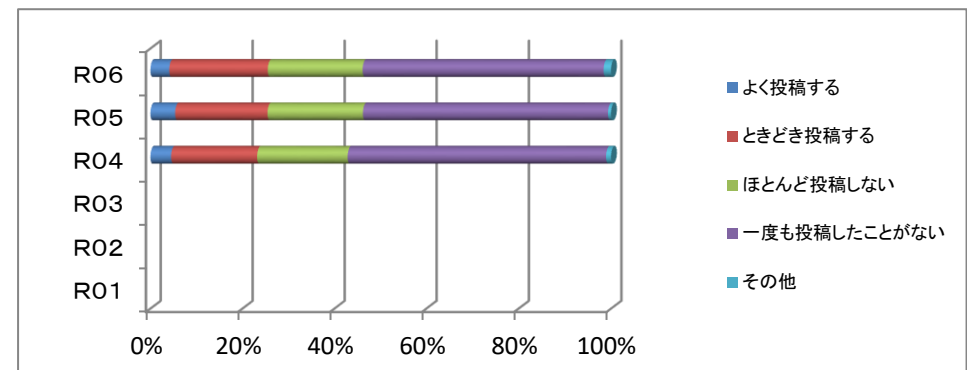
スマートフォンで知り合った人と会ったことがありますかという問いに対して、「会ったことがない」と回答した割合は[68→70→67→65→67→68%]と推移しており、多くの子どもたちがネット上で知り合った人にある程度警戒感を持っていることがわかる。また、「会ったことがある」と回答した割合は[10→11→9→11→12→8%]とやや減少した。一方実際に「会ったことがある」と回答した子どもが8%程おり、ネットトラブルや犯罪に巻き込まれる危険にさらされている可能性もある。

問12 インターネットが一番多く利用していることは何ですか。



インターネットの利用に関して、「家族との連絡・おしゃべり」と回答した割合は[8→6→5→4→4→5%]となっており、家族との連絡のためにインターネットを利用している割合は低くなっている。一方「友達との連絡・おしゃべり」と回答した割合は[15→16→12→14→17→17%]と推移し、昨年から変化は見られなかった。近年利用の仕方が多いのは「ゲームをする」「動画を見る」で、両方と合わせると59%にもなっている。インターネットが連絡や情報収集するだけのものではなく、趣味や娯楽をはじめとする様々なコンテンツを楽しむための道具となっていることがわかる。

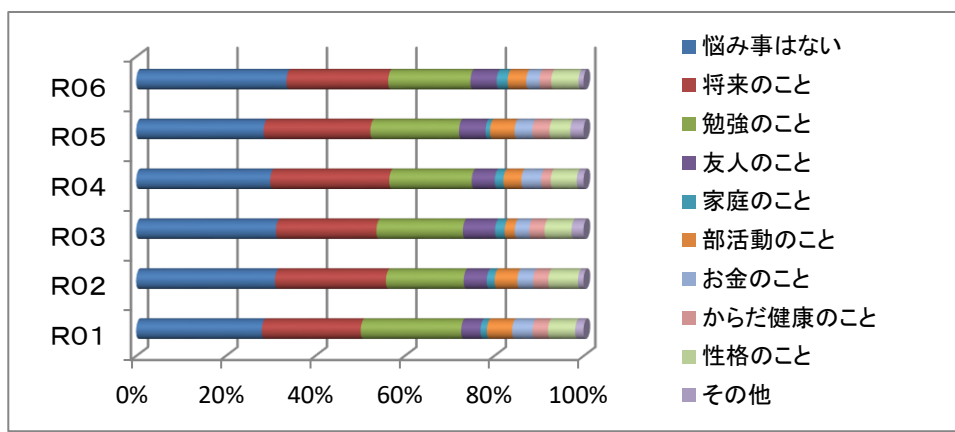
問13 インターネットのSNSに自分のプロフィールや写真・動画などを投稿したことがありますか。



インターネットのSNSに「ほとんど投稿しない」を含め一度でも投稿したことのある割合は、全体の46%で昨年度と同じだった。その中で「よく投稿する」「ときどき投稿する」と回答した割合も26%と変化がなかった。不用意な投稿が炎上して大きな社会的問題になったり、誹謗中傷や犯罪に巻き込まれたりすることがある。投稿する時のプライベートな情報管理の徹底に心掛けさせたい。

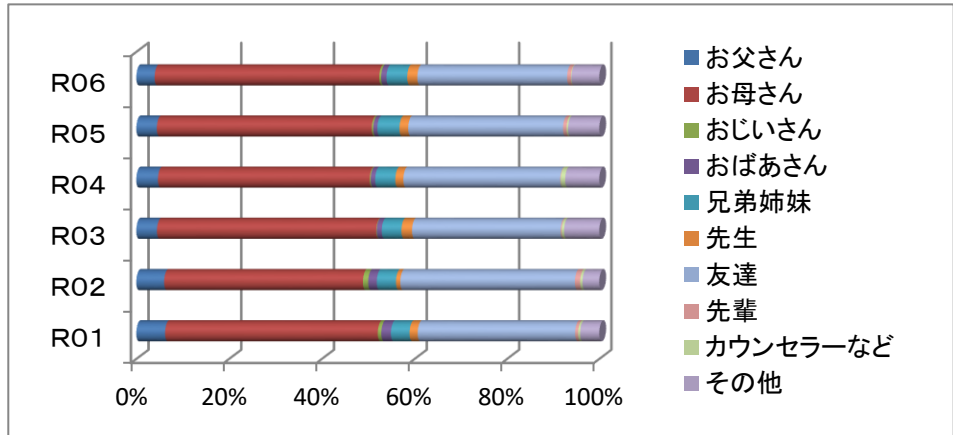
3 本人に関すること

問14 今、あなたが一番悩んでいることはどんなことですか。



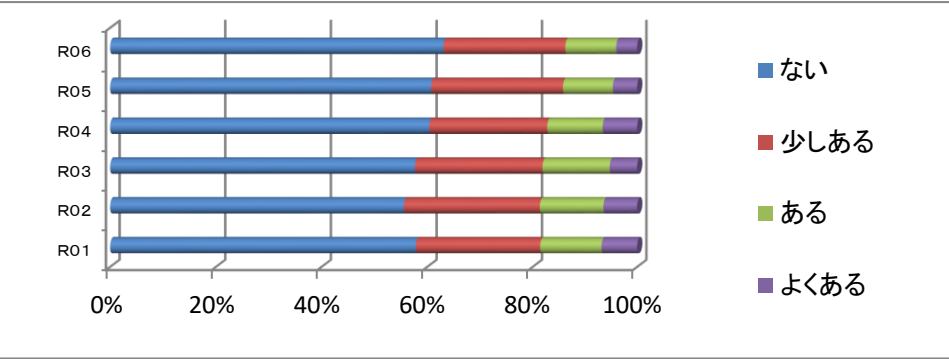
「悩み事はない」と回答した割合は[28→31→31→30→28→33%]と、わずかではあるが増加した。悩み事で1番多いのは「将来のこと」で[22→25→22→26→24→22%]と推移している。2番目に多い「勉強のこと」は[22→17→19→18→20→18%]と、毎年多少の増減はあるものの大きな変動なく推移している。「部活のこと」は、[6→5→2→4→6→4%]と推移しており、部活動のことで悩んでいる子どもは意外と少ないことがわかる。

問15 悩みごとを一番相談するのはだれですか。



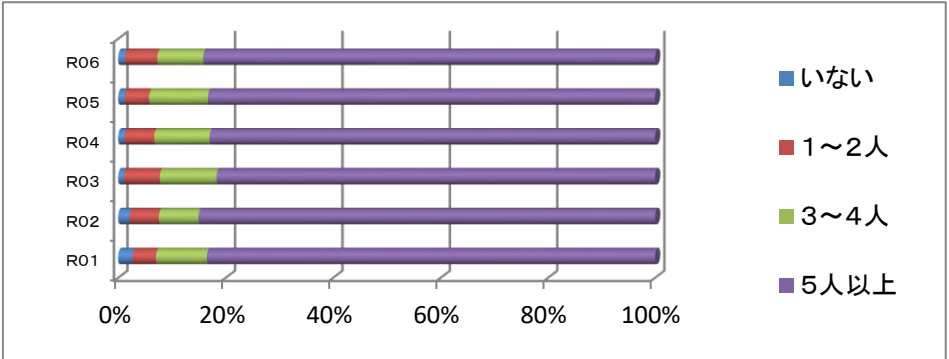
悩み事を相談する相手として最も割合が高かったのは「お母さん」で、[45→43→46→45→46→47%]と、毎年高い割合を保っている。一方「お父さん」と回答した割合は、一緒に過ごしたり話をしたりする時間が短いためか[6→6→4→5→4→4%]となっており、毎年低い割合となっている。母親に次いで多いのは「友達」で、経年変化でも[34→38→32→33→33→31%]と高い割合を維持している。一方「おじいさん」「おばあさん」と答えた割合は近年1～2%ほどしかなく、これは祖父母と同居している家庭が少なくなったことも大きな要因の一つだと考えられる。

問16 「死にたい」と思ったことはありますか。



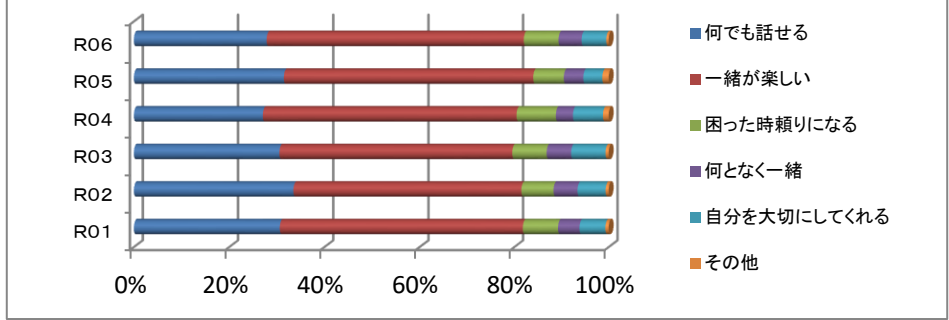
死にたいと思ったことは「ない」と回答した割合は[57→55→56→59→60→62%]と推移し、今年度も60%を超えた。「少しある」「ある」と回答した割合は[35→38→36→32→34→32%]で推移し、昨年より2ポイントほど減少した。「よくある」と回答した割合は[7→6→5→7→5→4%]と低い割合で推移しているが、定期的なアンケートや相談活動などを充実させ、早期の実態把握に努めるとともに、早急な対応に心がける必要がある。

問17 友達(顔を見て話ができる)は何人くらいいますか。



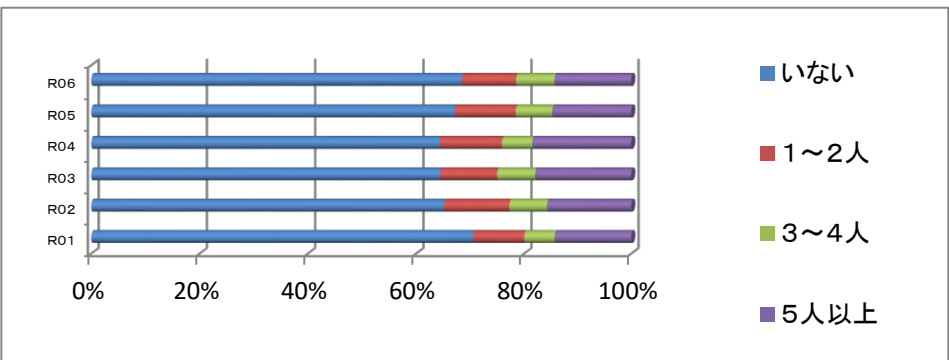
「友だちが5人以上いる」と回答した割合は[80→83→81→82→83→83%]で推移し、年度によって多少の増減はあるものの、80%以上の割合をキープしている。それに「1～4人」と回答した割合を加えるとおよそ97%前後となり、ほとんどの子どもたちが人数の多い少ないはあるものの、仲の良い友達がいることがわかる。しかし「いない」と回答した割合は[3→2→1→1→1→1%]と減少傾向にはあるものの0%になる事はない。全体から見るとごくわずかではあるが、人との関りが苦手な子どもたちを孤立させることがないように、心に寄り添うサポート体制を整えておくことが大切である。

問18 あなたと友達の関係について、一番当てはまるものはどれですか。



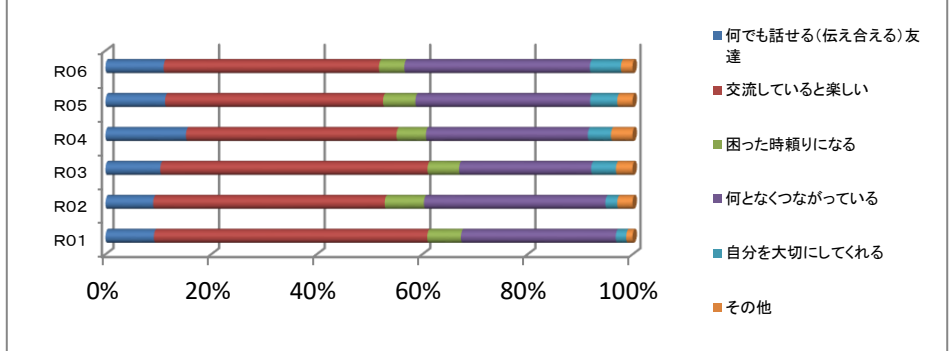
友達との関係については、「一緒に楽しい」と回答した割合が最も高く、[50→48→48→52→52→53%]と、常に50%前後を維持している。2番目に多いのは「なんでも話せる」と回答した割合で[30→33→30→27→31→27%]と推移している。今年度も「困ったときに頼りになる」が7%、「何となく一緒」が5%、「自分を大切にしてくれる」が5%となっており、割合に大きな変化はなかった。

問19 ネット上で知り合った友達は何人くらいいますか。



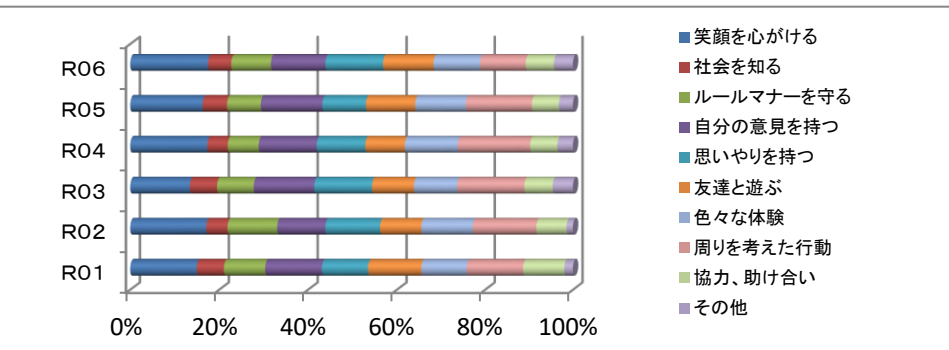
ネットで知り合った友達が一人でもいると回答した割合は、[32→34→34→32→30%]と、わずかではあるが減少傾向にある。その中の「5人以上」と回答した割合も、[15→17→17→14→14%]と昨年度からの増加は見られなかったが、一人以上いると回答したうちの約半数は5人以上いるという傾向は変わっていない。最近増加しているSNSを通しての性被害や誹謗中傷などのトラブルへの危機感からか、「いない」と回答した割合は昨年度から増加傾向にあり今年も66%になっている。ネットで知り合った友達と安易に交流することがないように心がけさせたい。

問20 あなたとネット上の友達の関係について、一番当てはまるものはどれですか。



ネット上の友達との関係については、「交流していると楽しい」と回答した割合が最も高く、経年変化は[44→50→40→41→41%]と推移している。2番目に割合が高かったのは「何となくつながっている」で、昨年度とほぼ同じ35%となっている。「なんでも話せる(伝え合える)友達」は昨年と同じ11%だった。この結果から、ネット上の友達とはあまり深い関わりは求めず、ゲームや会話をなんとなく一緒に楽しめればよいと考えている子どもが多いことがわかる。

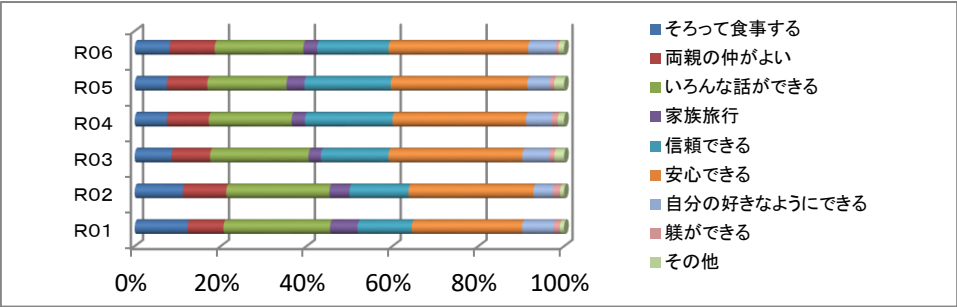
問21 今の自分にとって、一番大切なことはなんですか。



「今の自分にとって一番大切なこと」として割合が高かったのは、「笑顔心がける」(17%)「思いやりを持つ」(13%)「自分の意見を持つ」(12%)で、令和元年度以降順位に多少の変動はあるものの、この3つの項目が毎年上位に入っている。今年度は「周りを考えた行動」が最も割合の高かった令和4年の16%から10%と大きく減少していた。

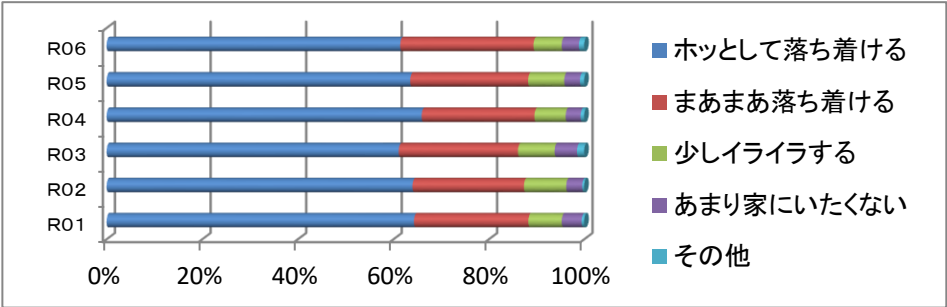
4 家庭・家族に関すること

問22 あなたにとって、家族(家庭)として一番大切なことはなんですか。



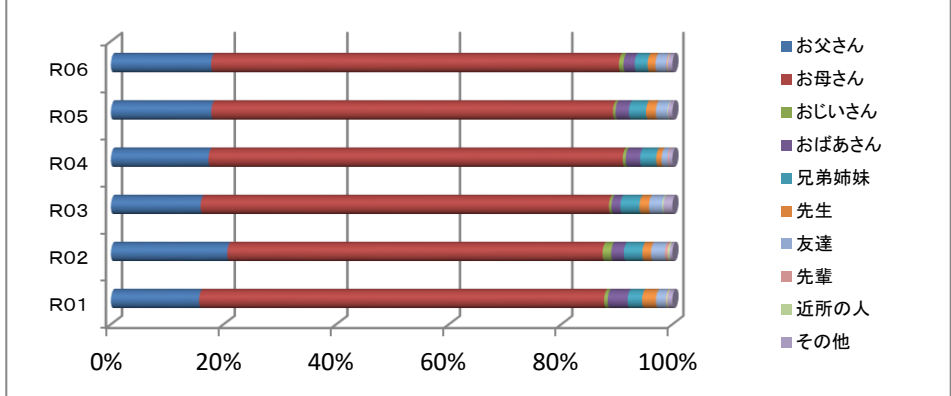
「家族(家庭)として一番大切なこと」だと思ふことで、「安心できる」と回答した割合が毎年最も高く、[25→29→31→31→32→32%]で推移している。次に多かったのは昨年令和元年の24%から18%へ大きく割合を減らした「いろんな話ができる」が21%となり再び増加した。「信頼できる」と回答した割合は昨年度の20%から17%に減少した。割合としてそれほど高くはないが「両親の仲がいい」と回答する子どもも11%おり、両親の仲がいいことが子どもたちの心を安定させる大切な要因になっていることが読み取れる。

問23 あなたが家にいるときの気持ちに一番近いのはどれですか。



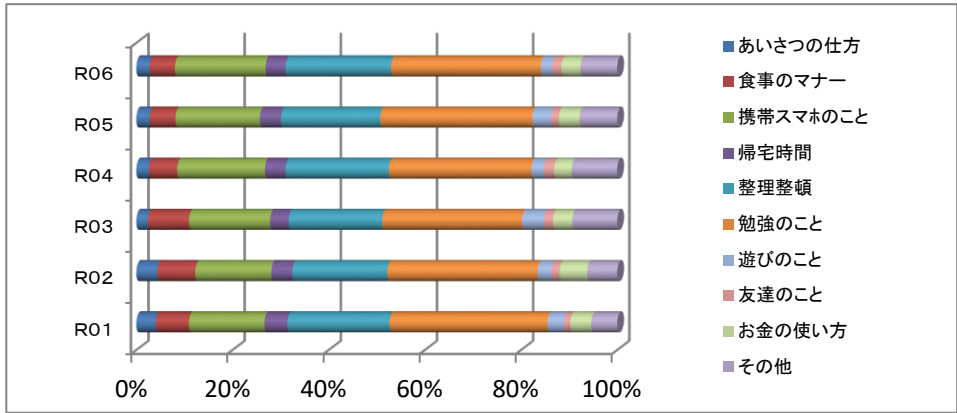
家にいる時の気持ちとして、「落ち着ける」「まあまあ落ち着ける」を合わせた割合の推移は[87→86→86→89→88→89%]となっており、多くの子どもたちにとって家庭が落ち着ける場所になっていることがわかる。「少しイライラする」と回答した割合は[7→9→8→7→8→6%]と推移し、わずかではあるが減少した。また「あまり家にいたくない」と回答した割合は毎年3～5%ほどおり、家が居心地の良い場所になっていない子どももいるので、そういった子どもの家庭環境改善へのサポート体制を整えていく必要がある。

問24 あなたの生活や行動を一番注意してくれるのはだれですか。



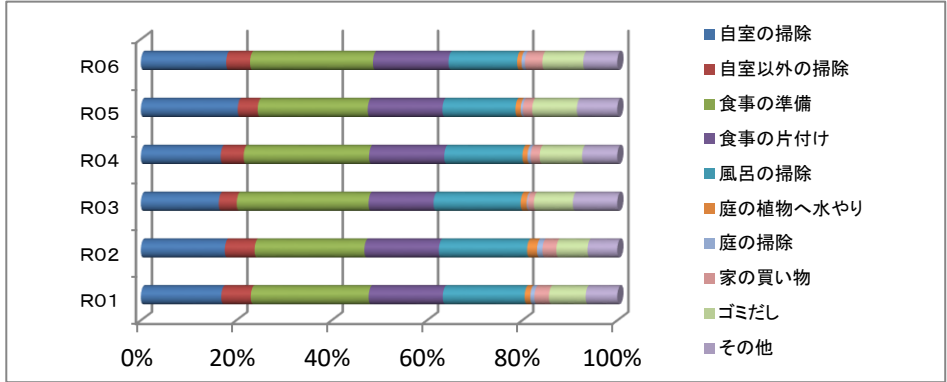
1番注意してくれる人として回答した割合が最も多いのは「お母さん」で、経年変化を見ても[71→66→72→73→71→72%]と、毎年最も高い割合を示している。それに対して「お父さん」と回答した割合の推移は[15→20→16→17→18→18%]となっており、母親と大きな差がある。これは子どもと過ごす時間の違いが大きく関係していると思われる。また、「兄弟姉妹」「先生」と回答した割合は毎年約1～3%程度と毎年非常に少ない割合となっている。「近所の人」と回答した割合は0.1%で、地域の大人たちが近所の子どもを注意することがほとんどないことがわかる。

問25 あなたが両親から一番注意を受けることはなんですか。



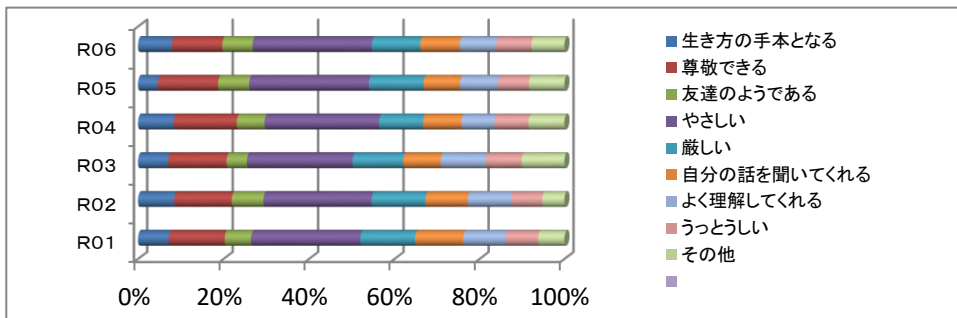
両親から注意を受けることとして毎年一番多いのは「勉強のこと」で、次いで「整理整頓」「携帯・スマホのこと」という順になっており、令和元年度からその順位に変動はない。そのうち「スマホのこと」の経年変化を見てみると[16→16→17→18→18→19%]と20%弱で推移している。スマホが普及し始めた平成25年の調査では、注意される割合がわずか3%ほどであったことを考えると、家庭でのスマホの使い方が非常に大きな問題になってきていることがわかる。

問26 あなたが一番行っているお手伝い(家事)はなんですか。



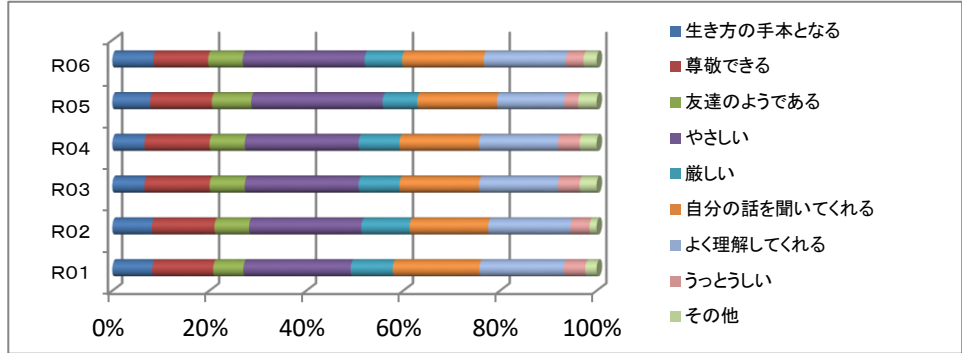
子どもたちがしているお手伝いで、毎年1番多いのは「食事の準備」で[24→23→27→26→23→25%]という割合で推移している。次いで「自室の掃除」「食事の片付け」「風呂の掃除」という順番になっており、ここ数年順位の入れ替わりが多少はあるものの、割合的には大きな変化は見られなかった。「その他」が今年度7%ほどいたが、記述されていた内容で多かったのは今年度も洗濯関係の手伝いで、「何もしていない」と回答した子どもはほとんどいなかった。多くのこどもたちが、家族の一員としてなんらかのお手伝いをしていることがわかる。

問27 あなたにとって、お父さんはどんな人ですか。



お父さんのことを「やさしい」と答えた割合が最も多く[25→25→24→26→28→28%]と推移している。次いで「尊敬できる」(12%)「厳しい」(11%)「自分の話をよく聞いてくれる」(9%)「よく理解してくれる」(9%)の順になっており、昨年度と大きな変化はなかった。一方「うっとうしい」と回答した割合は昨年と同じ9%だった。父親のことを肯定的にとらえられない子どもも一定程度いるが、多くのこどもたちが父親と円滑な人間関係を築くことができていることがわかる。

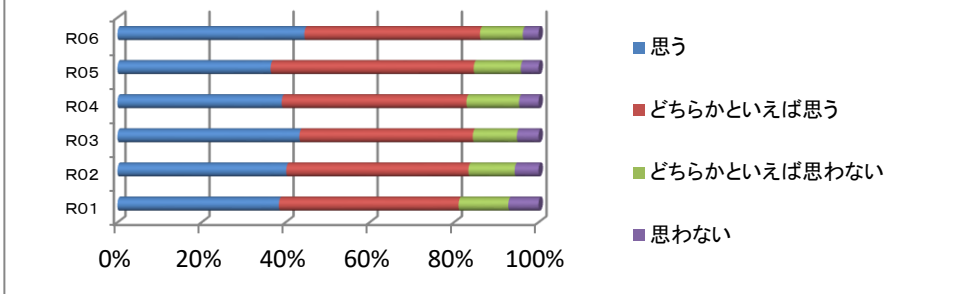
問28 あなたにとって、お母さんはどんな人ですか。



お母さんのことを「やさしい」と答えた割合の経年変化は [21→23→24→23→27→25%]推移し、父親とほぼ同じような割合となっている。次いで多いのが「自分の話を聞いてくれる」(17%)「よく理解してくれる」(17%)と続き、母親がよく話を聞いてくれるよき理解者となっていることがわかる。一緒にいることのできる時間が父親より多いためか、「自分の話をよく聞いてくれる」と回答した割合は父親より8ポイントほど高かった。「うっとうしい」と回答した割合は[4→4→4→4→3→4%]と低い割合で推移し、多くの子どもたちが母親と良好な関係にあることがわかる。

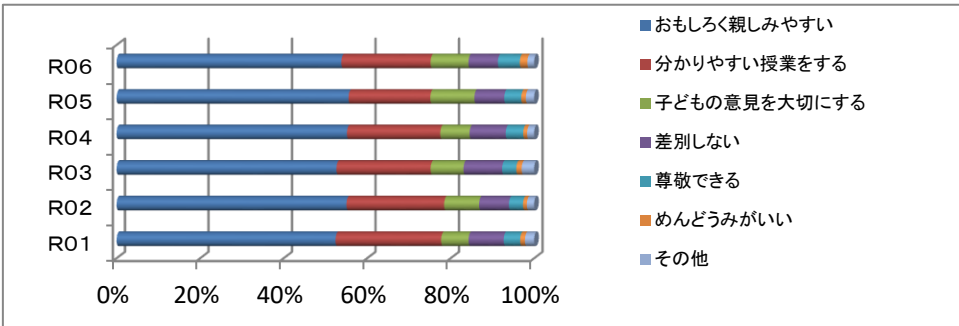
5 学校や勉強に関すること

問29 先生は、あなたのことをわかっていると思いますか。



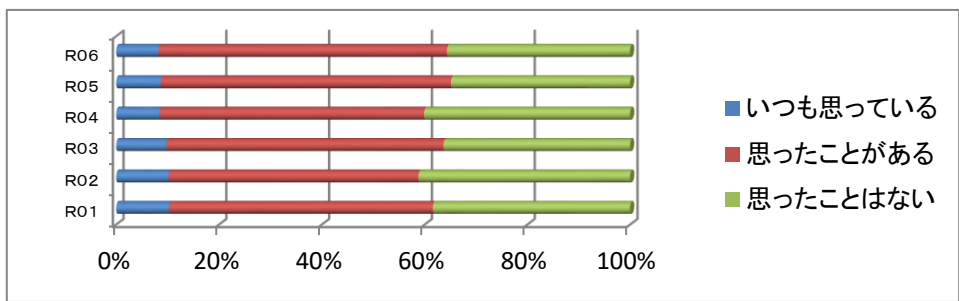
「先生は自分のことをわかっていると思いますか」という問いに対して、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した割合の合計は、[80→83→84→83→84→86%]と今年度わずかではあるが増加した。このことから多くの子どもたちが学校の先生と良好な人間関係を築けていることがわかる。「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答する子どもの割合は、令和元年度の19%から今年度14%へと5ポイント減少していることから、日々子どもたちに寄り添い、一人一人をより深く理解しようと努力している先生たちの姿も浮かび上がってくる。

問30 どんな先生に一番教えてもらいたいですか。



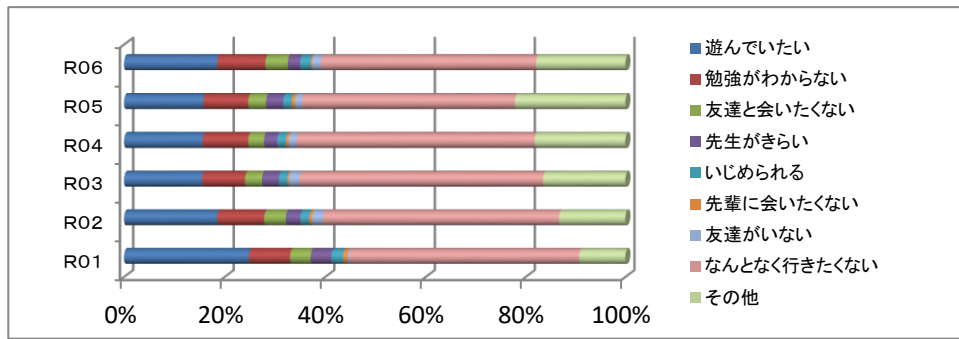
教えてもらいたい先生は、「おもしろく親しみやすい先生」と答えた割合が53%と最も多く、経年変化でも[52→55→52→55→55→53%]となっている。2番目に多かったのが「分かりやすい授業をする先生」(21%)、3番目に多かったのが「子どもの意見を大切にする先生」(9%)になっており割合に大きな変化はなかった。「差別しない先生」と回答した割合はそれほど高くなく、3～4%で推移している。

問31 学校に行きたくないと思ったことはありますか。



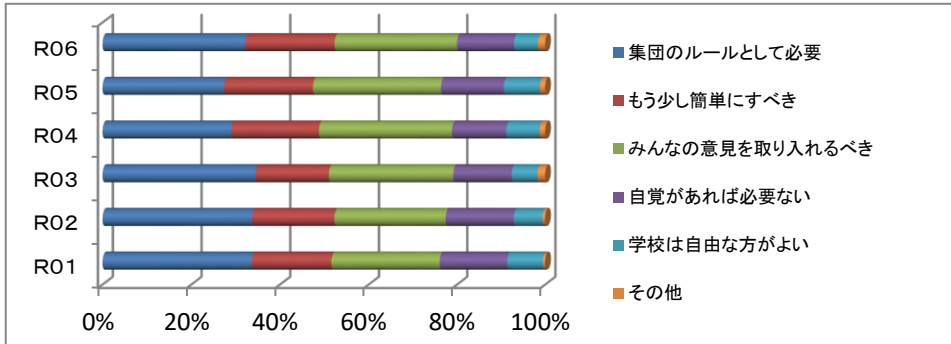
学校に行きたくないと「いつも思っている」「思ったことがある」と答えた割合の合計は、[60→58→63→59→65→64%]と推移し、昨年度と大きな変化はなかった。昨年度から学校の授業・部活動・行事などの全てがコロナ禍前の通常状態に戻り、学校生活の中での負荷が大きくなったと感じる場面が多くなったためか、コロナ禍で自粛生活を余儀なくされていた令和令和2年度と比べると高い割合となっている。

問32 学校へ行きたくない理由の一番はなんですか。



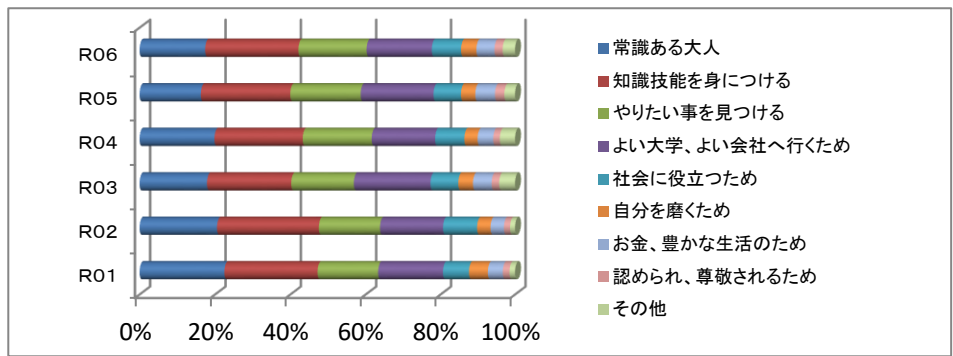
学校に行きたくない理由として最も割合が高かったのは、「なんとなく行きたくない」で、経年変化は[44→46→48→47→42→42%]と推移している。次に多かったのが「遊んでいたい」であったが、その割合は[24→18→15→16→16→18%]と推移し、令和元年の24%をピークに減少傾向であったが再び増加に転じた。割合としては多くないが、毎年「いじめられる」「友達がいない」が2%ほどいるので、そういった子どもへの適切な対応が求められる。

問33 学校の「きまり」や「規則」について、あなたの考えに一番近いのはどれですか。



学校のきまりや規則については、「集団のルールとしては必要」と回答した割合が[33→33→34→29→28→32%]と推移し、令和4年・5年度と最も高かった「みんなの意見を取り入れるべき」(27%)を上回り、最も高い割合となった。自覚があれば必要ない」「学校は自由なほうがよい」と回答を合わせた割合の推移は[23→22→19→20→22→18%]と減少に転じた。安心して気持ちよく学校生活を送るためにはある程度の「きまり」や「規則」が必要だと感じている子どもが結構いることがわかる。

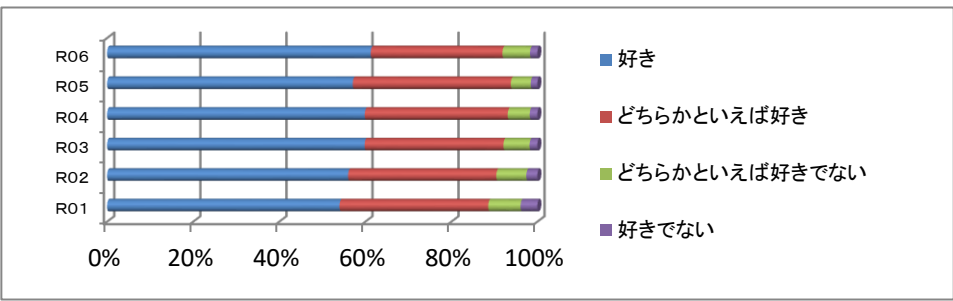
問34 どうして勉強しなければならないと思いますか。



勉強しなければならない理由として回答した割合が高かったのは、「知識技能を身につける」(25%)、「やりたい事を見つける」(18%)「よい大学、よい会社に行くため」(17%)「常識ある大人」(17%)だった。毎年この4つを合わせた合計が大部分を占め、およそ77～80%の間で推移している。「お金、豊かな生活のため」と回答した割合は[4→4→5→4→5→5%]と低い割合で推移しており、物質的欲求を満たすために勉強が必要だと考えている子どもは意外と少ないことがわかる。

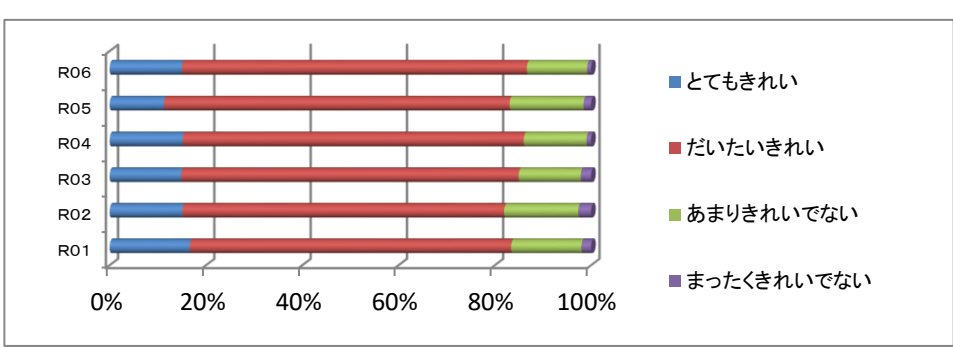
6 地域に関すること

問35 自分の住んでいるまちは好きですか。



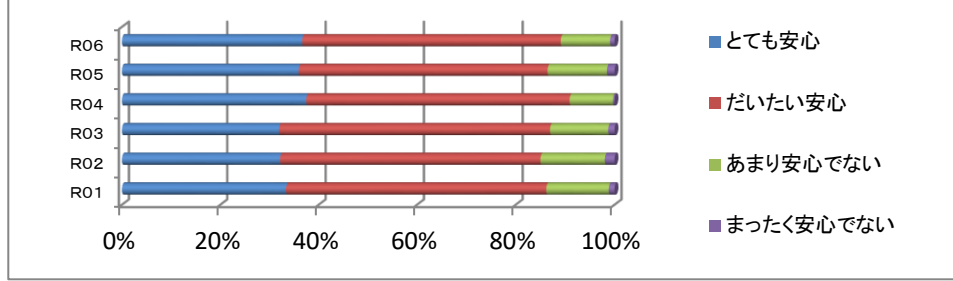
自分の住んでいるまちを「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合の合計は、[87→90→92→93→94→92%]と推移しており、令和2年度以降90%以上をキープしている。今年度はその中でも「好き」と回答した割合が61%となり、この6年間で最も高い割合となった。この結果から、子どもたちの自分が住んでいるまちへの満足度が、非常に高い状態が続いていることがわかる。

問36 公共施設や公園、道路などは、いつもきれいになっていますか。



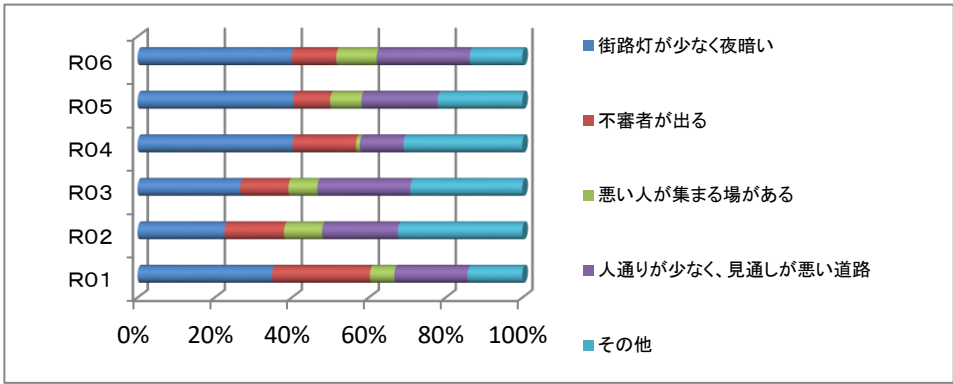
公共施設や公園、道路などが「とてもきれい」「だいたいきれい」と回答した割合の推移は、[83→82→84→85→82→86%]となっており、多くの子どもたちが自分たちのまわりの環境がきれいに整えられていると感じている。一方「あまりきれいでない」「まったくきれいでない」と回答した割合は14～18%で推移しており、今年度は13%とこの6年で最も少ない割合となった。

問37 いつでもどこでも安心して外出することができますか。



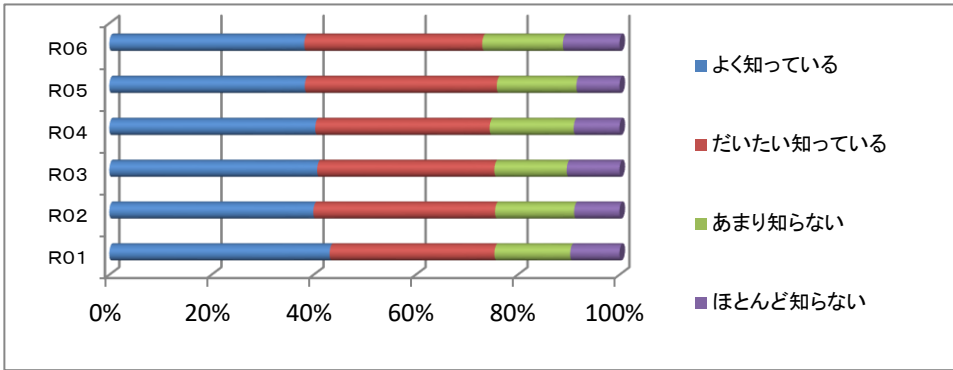
「安心して外出することができますか」という問いに対して「とても安心」「だいたい安心」と回答した割合は、[84→83→86→90→86→89%]と推移しており、多くの子どもが、安心して外出できる環境の中で生活していると感じている。一方「まったく安心でない」「あまり安心でない」と感じている子どもの割合は[13→15→13→9→13→11%]と推移し、行動範囲の広がりや夜間外出の機会も増えてきたが昨年度と比べるとわずかに減少した。

問38 安心して外出することができない理由の一番はなんですか。



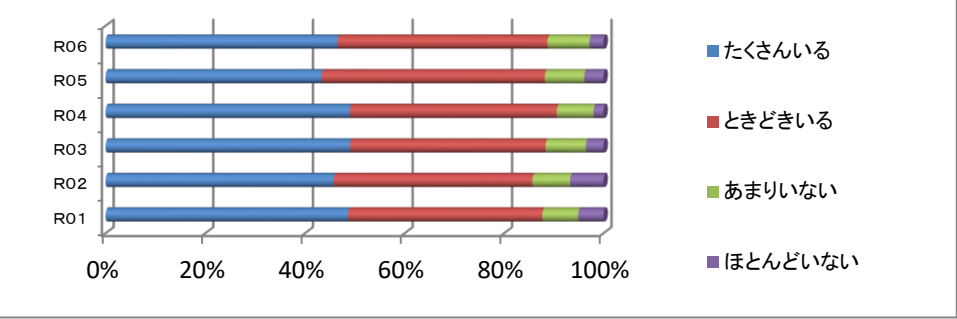
安心して外出できない理由として最も多かった理由は「街路灯が少なく夜暗い」で、その割合の推移は[34→22→26→40→40→39%]となっており、夜間外出の機会も増えた昨年度から、高い割合となっている。注目すべきは「人通りが少なく見通しが悪い道路」と回答した割合で、最も少なかった令和4年度の11%から24%(昨年度20%)と13ポイントも増え過去最高になっている。子どもたちが安心して外出できるように、計画的な街路灯の増設をはじめとする環境整備が望まれる。

問39 隣に住んでいる人を知っていますか。



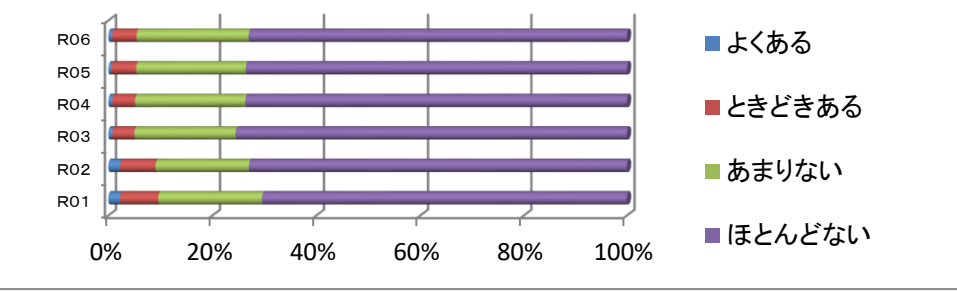
隣に住んでいる人を「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせた割合は、[74→75→75→74→76→73%]で推移し、多少の増減はあるものの大きな変化は見られず、多くの子どもたちは隣に住んでいる人と何らかの関わりがあることがわかる。一方「ほとんど知らない」と回答した割合の推移は[9→9→10→9→9→11%]となっており、毎年1割程度いることがわかる。地域の人との関わりが希薄になってきている近年、新興住宅街やマンションなどに居住している子どもを中心に、さらに隣の人を知らない子どもが増えていくことが予想される。

問40 あなたにいつも「おはよう」「こんにちは」などと声をかけてくれる人はいますか。



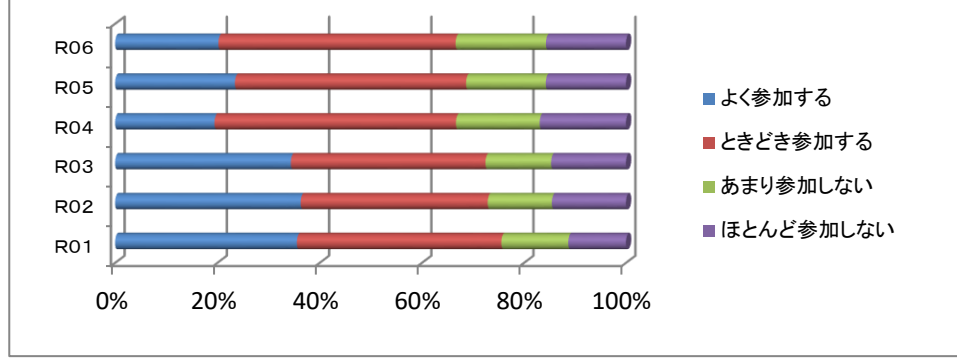
声をかけてくれる人がいるかという問いに対して、「たくさんいる」と回答した割合は[48→48→45→49→43→46%]と推移し、今年度は昨年度と比べて3ポイントほど増えた。「ときどきいる」と回答した割合を加えるとおよそ85～90%の子どもたちが、地域の人に何らかの声かけをしてもらっていることがわかる。一方「あまりない」「ほとんどない」と回答した割合は、毎年1割程度いるので、今後も学校・地域を中心に、あいさつ運動などを積極的に進めていくことが大切である。

問41 近所の人から注意を受けることはありますか。



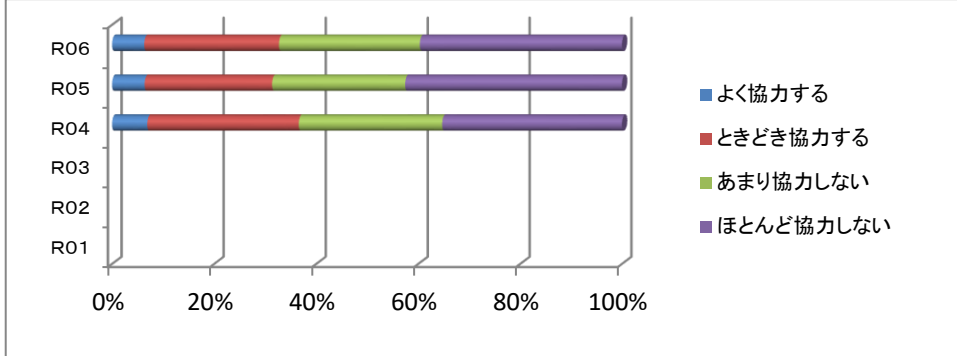
「近所の人から注意を受けることはありますか」という問いに対して、「あまりない」「ほとんどない」と回答した割合は[89→90→94→94→93→94%]と推移し、近所の人から注意を受けたことがある子どもがほとんどいない状況が続いている。「よくある」「ときどきある」と回答した割合は、ここ4年間は5%ほどしかなく、中でも「よくある」と回答した割合は1%にも満たない状況が続いている。

問42 地域で行われている行事(盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など)に参加しますか。



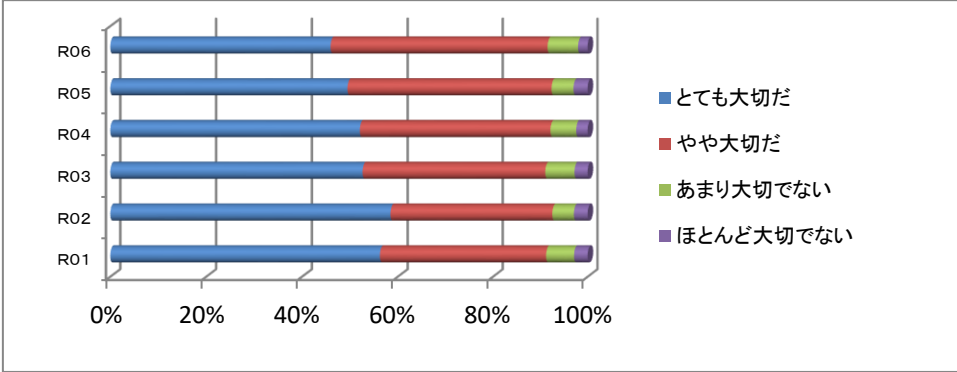
地域で行われる行事に「よく参加する」「ときどき参加する」と回答した割合の合計は、[73→74→72→67→67→67%]と推移し、70%以上だったコロナ以前より低い状況が続いている。特に令和2年の調査では「よく参加する」と回答した割合が37%いたのが、今年度は昨年度の23%からさらに減り20%となっている。コロナ禍で低下した子どもたちの地域行事への参加意欲を高めるため、より魅力的行事となるよう内容や参加呼びかけなどに今まで以上の工夫が必要だと考えられる。

問43 地域で行われている行事(盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など)にお手伝いやボランティアとして参加しますか。



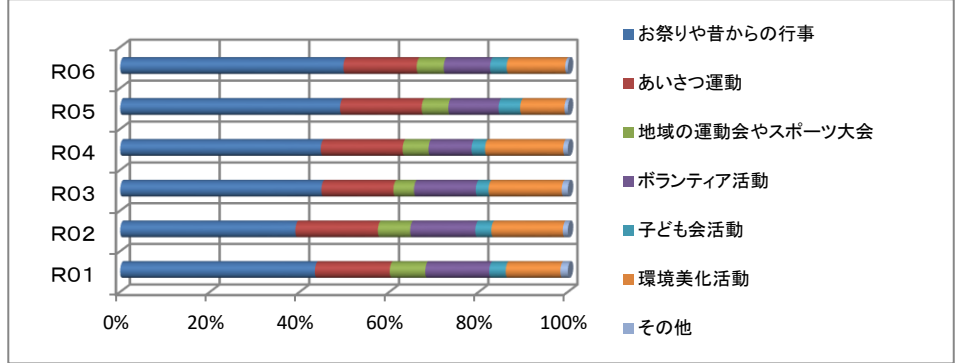
地域行事にお手伝いやボランティアなどに「よく協力する」「時々協力する」を合わせた割合は[36→31→33%]と推移している。多くの地域行事がコロナ禍前と同じように行われ、ボランティア活動も再開されたことにより昨年度よりわずかではあるが増加している。子どもたちが地域で活躍できる場を積極的に設け、意識とモチベーションを高めるための工夫が必要である。

問44 近所の人と仲よくすることは大切だと思いますか。



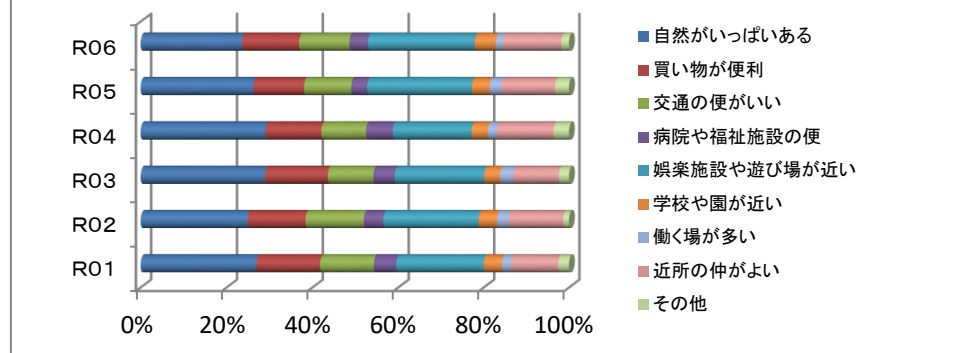
近所の人と仲よくすることが、「とても大切だ」「やや大切だ」と回答した割合の推移は[90→91→91→92→92→91%]となっており、高い割合を保っている。この結果から、ほとんどの子どもたちが、生活している地域で気持ちよく過ごすためには、近所の人との円滑な人間関係が重要であると感じていることがわかる。しかし、「あまり大切でない」「ほとんど大切でない」と回答した割合も毎年7～9%ほどいるので、こういった子どもたちの意識を変えていく必要がある。

問45 地域をよくするために、一番大切にしたい活動はなんですか。



地域をよくするために大切にしたい活動として、「お祭りや昔からの行事」と回答した割合が[43→39→45→44→49→49%]と毎年最も高く、各地域のお祭りや盆踊りが賑わっていたことからその重要性がうかがえる。2番目以降は毎年多少の入れ替わりはあるものの、「あいさつ運動」「ボランティア活動」「環境美化活動」と回答する割合が高く、実際に子どもたちが参加したり、何らかの形で関わったりしているものが多い。

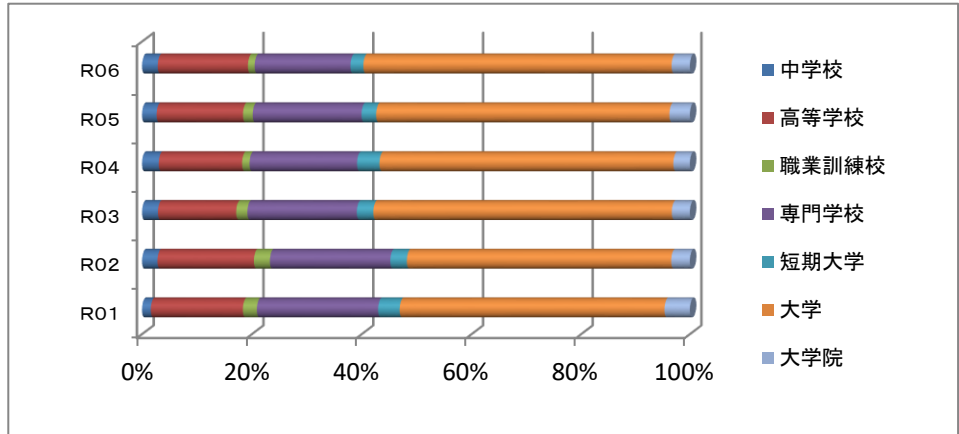
問46 あなたは、どんなところに一番住みたいですか。



どんなところに住みたいかという問いに対して、今まで一番多かった「自然がいっぱいあるところ」と回答した割合は[27→25→29→29→26→23%]と推移し、今年度は「娯楽施設や遊び場が近い」と回答した割合が25%と上回り2番目となった。以下、「近所の仲がよい」(14%)「買い物が便利」(13%)「交通の便がいい」(12%)と続き、この6年間で多少の順位の入替わりはあるものの、大きな変化はなかった。

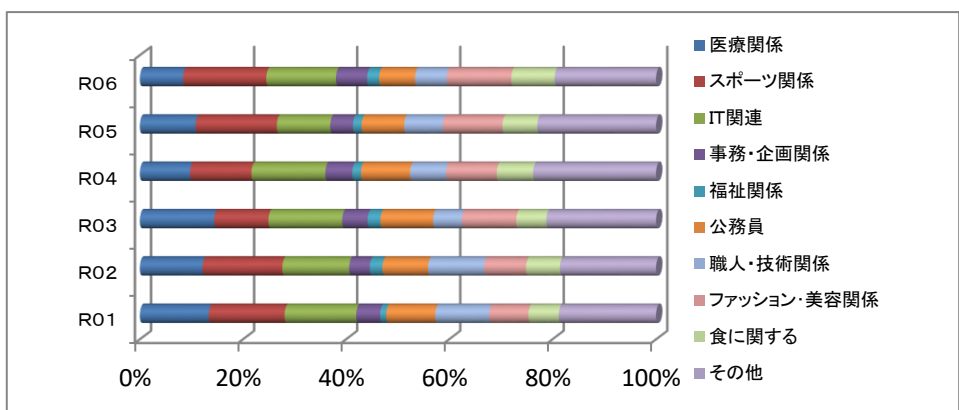
7 将来に関すること

問47 希望する最終の学校はなんですか。



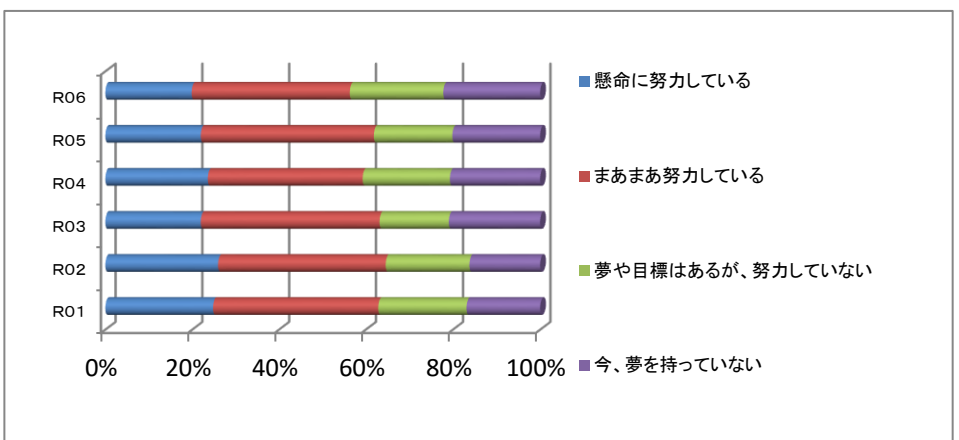
希望する最終の学校を「大学」と回答した割合が今年度も一番多く、[47→48→54→54→53→55%]と推移している。2番目は17%の専門学校だったが、その割合は昨年度より3ポイントほど減少している。3番目は高等学校でこの6年間14～17%の間で推移している。年によって割合に多少の増減はあるものの、「大学」「専門学校」「高等学校」という順番は6年間変わっていない。

問48 将来、一番つきたいと思っている仕事はなんですか。



将来つきたいと思っている職業は毎年僅差で上位の入替わりがあるが、今年度も「スポーツ関係」と回答した割合が16%と最も高かった。2番目に多かったのは、昨年度今までの最も低い10%に減少した「IT関係」が13%と微増した。3番目の「ファッション・美容関係」は昨年度と同じ12%だった。今年度は昨年度と大きな変化は見られなかったが、世の中の動きや流行などによって、子どもたちが将来就きたいと思う職業の傾向が変化している。

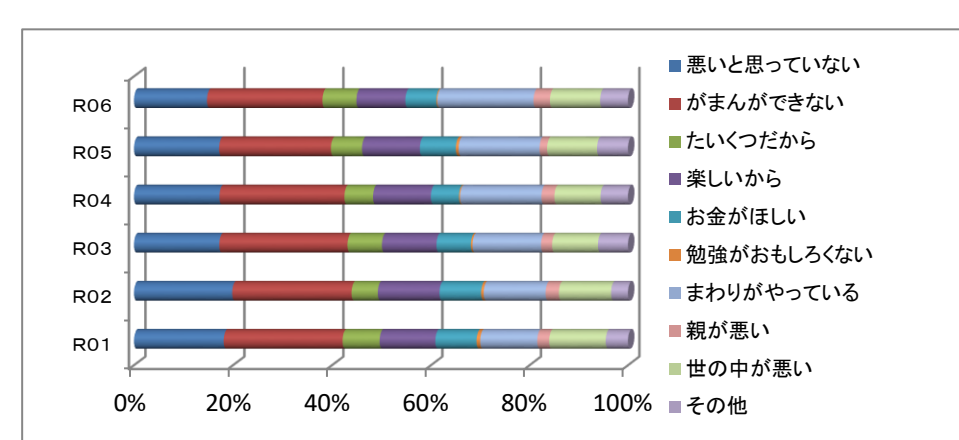
問49 あなたは将来の夢や目標のために、今、努力していますか。



「懸命に努力している」「まあまあ努力している」と回答を合わせた割合は[62→64→63→59→62→56%]で推移し、将来の夢や目標のために努力している割合が昨年度より6ポイント減少している。一方「夢や目標はあるが、努力していない」「夢を持っていない」と回答する割合は、例年と同じようにそれぞれ20%ほどいた。世の中の変化のスピードが速く、職業も多様化し職種も変化しているため、明確な夢や目標が持ちにくい時代だからこそ、日々こつこつと目の前のことに粘り強く努力できる子どもを育てていきたい。

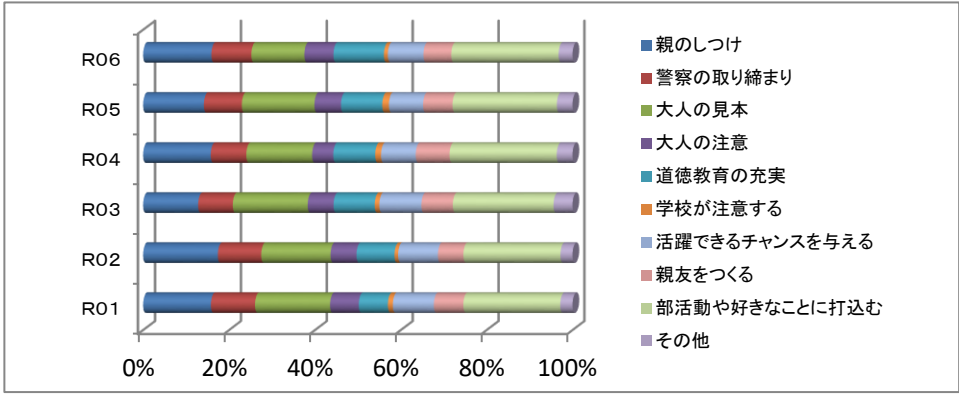
8 少年非行や社会認識に関すること

問50 万引き、タバコ、シンナー、危険ドラッグ、薬物などの悪いこと(非行)をする一番の理由はなんだと思いますか。



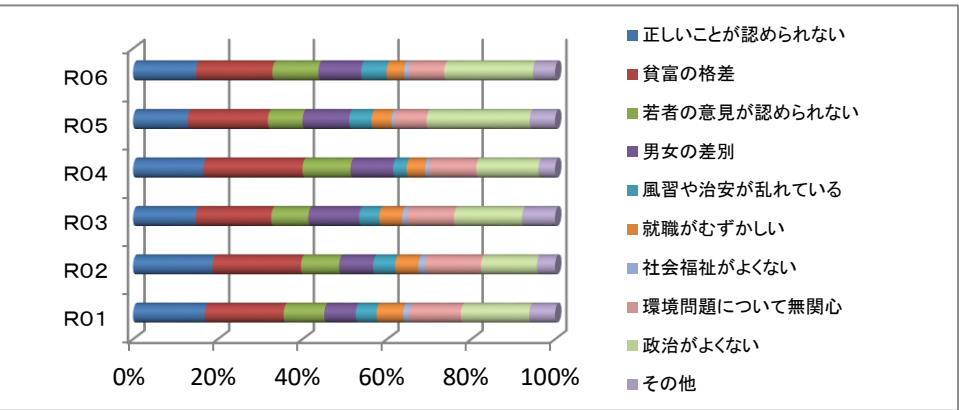
悪いことをする理由として、毎年一番多いのは「がまんができない」と回答した割合で、おおよそ23～26%で推移している。次に多かった「まわりがやっているから」と回答した割合は[11→12→14→16→16→19%]と推移し、令和元年度から8ポイント増加しており、自己判断力の欠如を非行の要因と考えている子どもが増えている。一方「親が悪い」「世の中が悪い」と答えた割合の合計は[13→13→11→12→11→13%]と比較的低い割合で推移していることから、子どもたちは悪いことをする理由を、親や社会のせいではなく、本人自身の問題として捉える傾向が強いことがわかる。

問51 悪いことをしないようにするために、一番大切なことはなんだと思いますか。



悪いことをしないようにするために大切なこととして「部活動や好きなことに打ち込む」と回答した割合が25%と最も高かった。今年度2番目に多かったのは「親のしつけ」の16%で、昨年度2番目だった「大人の見本」は12%で3番目になっている。悪いことをする理由は本人自身の問題だととらえていた子どもが多かったが、悪いことをしないためには、親や周りの大人の力が必要だと考えていることがわかる。意外と多かったのが「道徳教育の充実」と回答した割合で[7→9→9→10→10→12%]と推移している。近年の社会全体のモラルの低下を問題視し、道徳教育の必要性を感じている子どもが増えていることがわかる。

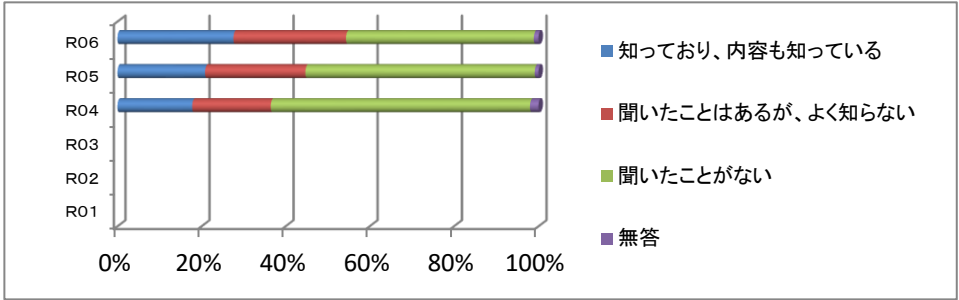
問52 日本の社会をみて、あなたが一番の問題だと思うことはどんなことですか。



日本の社会で問題だと思うこととして、年度によって多少の順位変動はあるものの、「政治が良くない」「正しいことが認められない」「貧富の格差」と回答する割合が高い。その中で今年度最も割合が高かったのは「政治がよくない」で、[16→13→16→15→25→21%]という推移している。「貧富の格差」「正しいことが認められない」「男女の差別」と回答した割合は大きな変化は見られなかった。テレビや新聞・ネットなどのメディア影響が毎年調査結果に影響していると考えられる。

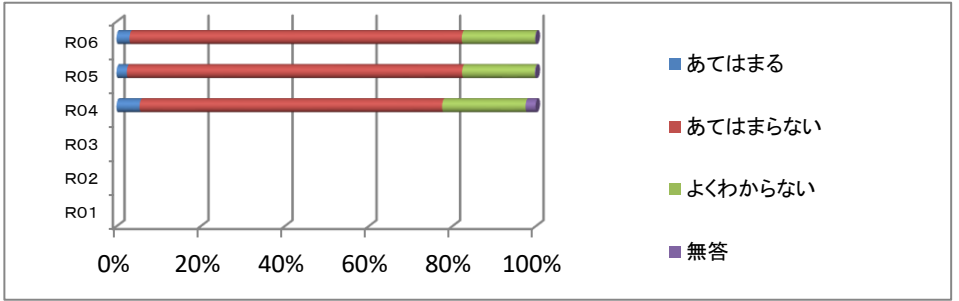
9 ヤングケアラーに関すること

問53 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。



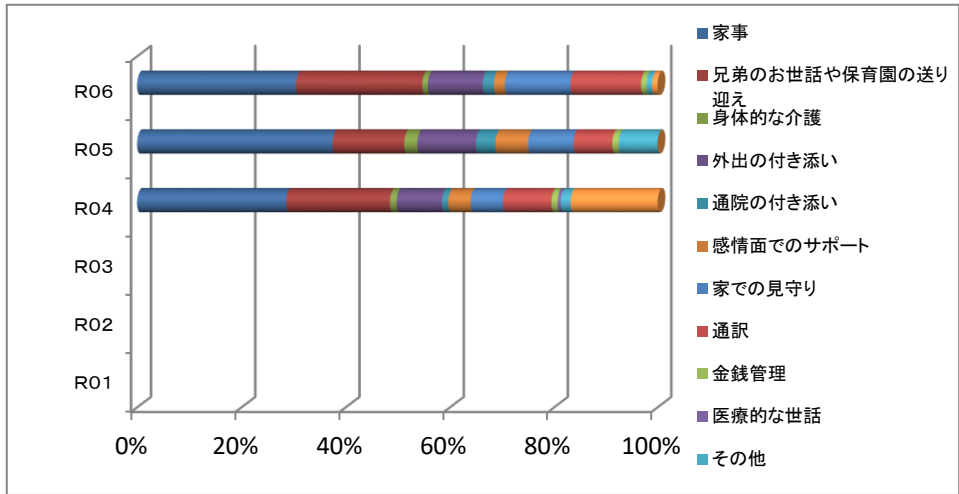
ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるかについて、「知っており、内容も知っている」と回答した割合は[18→21→28%]と推移し令和4年度から10ポイントも増えている。逆に「聞いたことがない」と回答した割合は[62→54→45%]と減少しており、近年、ニュースや話題を多くのメディアが取り上げたり、学校で学習したりすることによって認知度が上がっていることがアンケート結果にも表れたと考えられる。

問54 あなた自身「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。



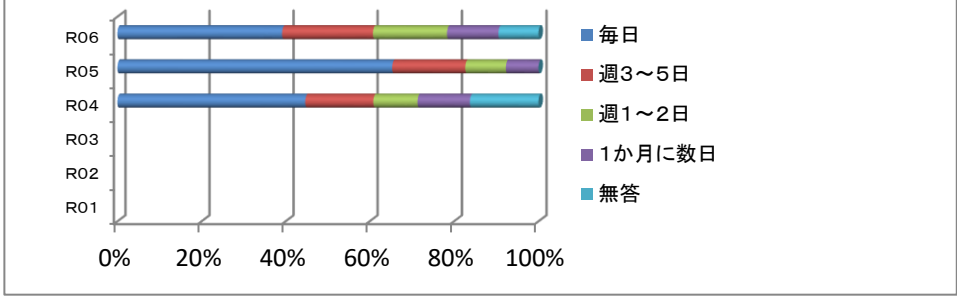
ヤングケアラーにあてはまるかについて、「あてはまる」と回答した割合は[6→3→3%]で推移し、昨年度と大きな変化はなかった。「よくわからない」と回答した割合は昨年度と同じ18%、「あてはまらない」と回答した割合が初めて質問した令和4年度の72%からおおよそ80%に増加しているのは、ヤングケアラーについての知識が広まった事により、自身がヤングケアラーに該当するかが判断できるようになったためだと考えられる。

問55 行っているお世話の内容



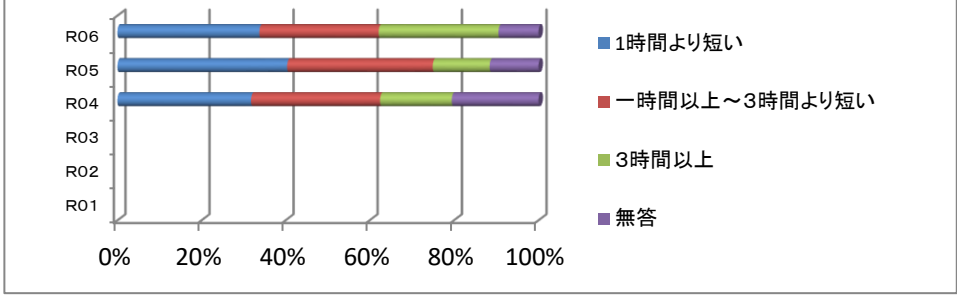
行っているお世話の内容として一番多かったのは、昨年同様「家事」で、「兄弟のお世話や保育園の送り迎え」「通訳」「家での見守り」の順に多かった。昨年度3番目に多かった「外出時の付き添い」は、5番目となった。「通訳」と回答した割合が高かったのは、外国籍の子どもが多い本市の特徴とも言える。

問56ー1 お世話をしている日数



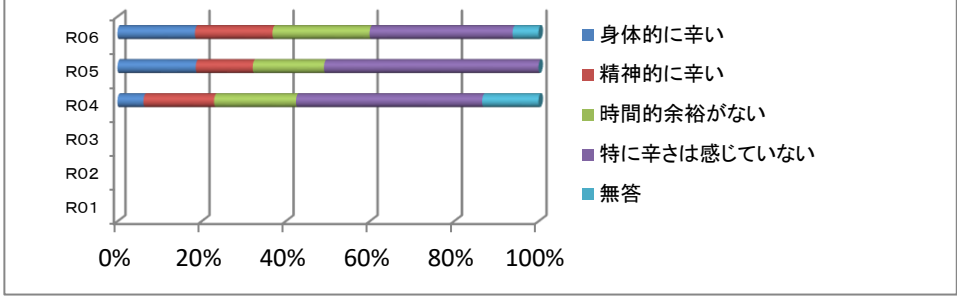
お世話をしている日数について、「毎日」と回答した割合は[45→65→39%]と推移し、昨年度と比べると26ポイント減少した。その分「週3～5日」が5ポイント、「週1～2日」が8ポイントほど増加した。「週3～5日」と「毎日」お世話している割合を合わせると61%にのぼり、学業等に影響を及ぼしている子どもが一定数いることが考えられる。

問56ー2 一日にお世話をしている時間



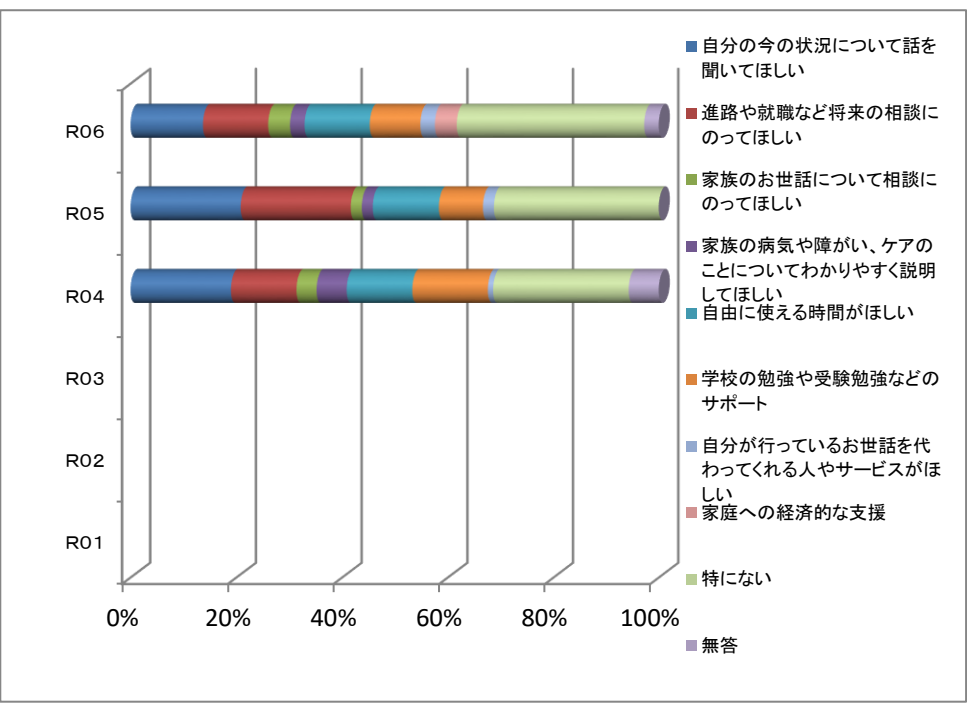
一日にお世話をしている時間について、「3時間以上」と回答した割合は[17→14→28%]と推移し、昨年度の倍になっている。一方「1時間より短い」は7ポイント、「1時間から3時間より短い」は6ポイント昨年度より減少している。「3時間以上」と「1時間以上～3時間より短い」と回答した割合を合わせると57%にのぼり、多くの時間をお世話に費やしている児童・生徒がいることがわかる。

問57 お世話をすることに辛さを感じていますか。



お世話をすることに辛さを感じているかについて、「特に辛さは感じていない」と回答した割合が最も高く、[44→51→39%]で推移している。昨年度に比べ減少しているが、代わりに「時間的余裕がない」と回答した割合が昨年度の17%から27%に増えているほか、「精神的に辛い」と回答した割合は昨年度の14%から21%に増えている。お世話をするのが当たり前だと感じている子どもが4割いる一方何らかの負担を感じている子どもも多くいることがわかる。

問58 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。



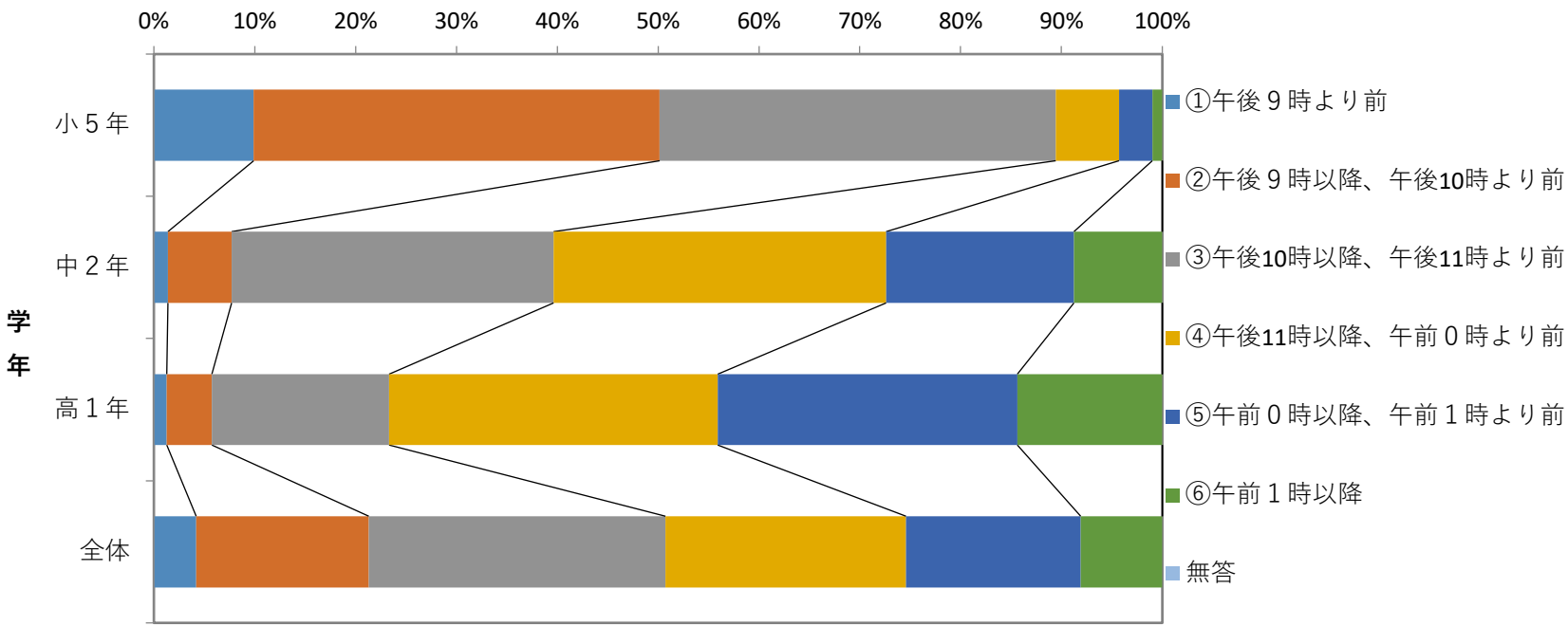
学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援があるかについて、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「進学や就職など将来の相談にのってほしい」「自由に使える時間がほしい」「学校の勉強や受験勉強などのサポート」と回答した割合が昨年度同様に多かった。その中で「自由に使える時間がほしい」と「学校の勉強や受験勉強などのサポート」と回答した割合はいずれも4ポイントほど増加した。昨年度に引き続き46%と最も多かったのは「特にない」だったが、支援を必要としていないのか、それとも助けてもらえることがないと考えているのかの判断が難しい。

Ⅱ 調査項目ごとの結果と考察

※考察の割合の数字は分かりやすいよう10分の1の位で四捨五入した整数で表してあります。
※表の数字は100分の1の位で四捨五入してあるため、合計が100%にならないものもあります。

1 家庭生活に関すること

問1 ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろに寝ますか。

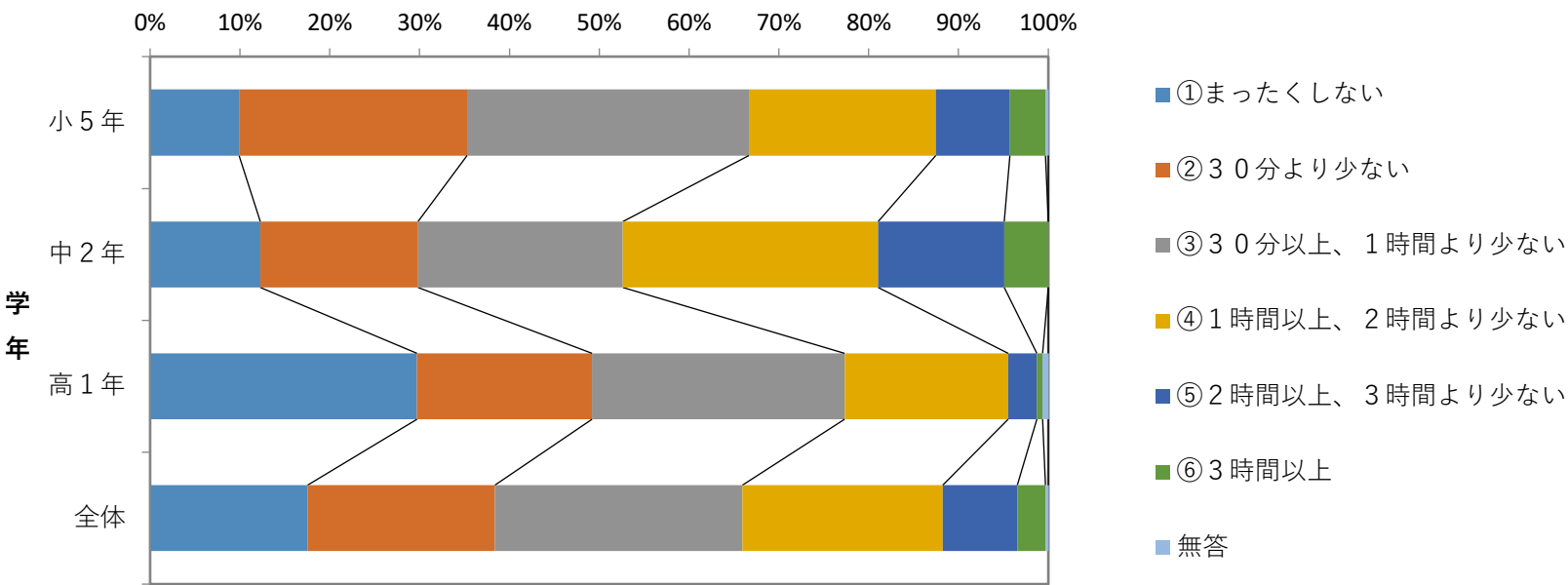


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	無答	合計
小5年	9.9	40.3	39.3	6.3	3.3	1.0	0.0	100.0
中2年	1.4	6.3	31.9	33.0	18.6	8.8	0.0	100.0
高1年	1.3	4.5	17.6	32.6	29.7	14.4	0.0	100.0
全体	4.2	17.1	29.4	23.9	17.3	8.1	0.0	100.0

就寝時刻は、小5年は「午後11時より前」と回答した割合が90% (昨年89%) いるのに対し、中2年は40% (昨年41%)、高1年はわずか23% (昨年19%) しかいない。「午前0時以降」に就寝すると回答した割合は、小5年4% (昨年5%)、中2年27% (昨年28%)、高1年44% (昨年46%) となっており、小学生、中学生、高校生ともに減っている。男女別にみると、中2年、高1年は女子の就寝時刻が遅く、特に高1年では「午前0時以降」に寝る割合が、男子の40% に対して女子は49% と全体の半数にのぼる。健やかな成長の妨げとなり、日常生活や学習活動にも悪影響を及ぼす睡眠不足の改善を図る必要がある。

問2 学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらい勉強していますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)

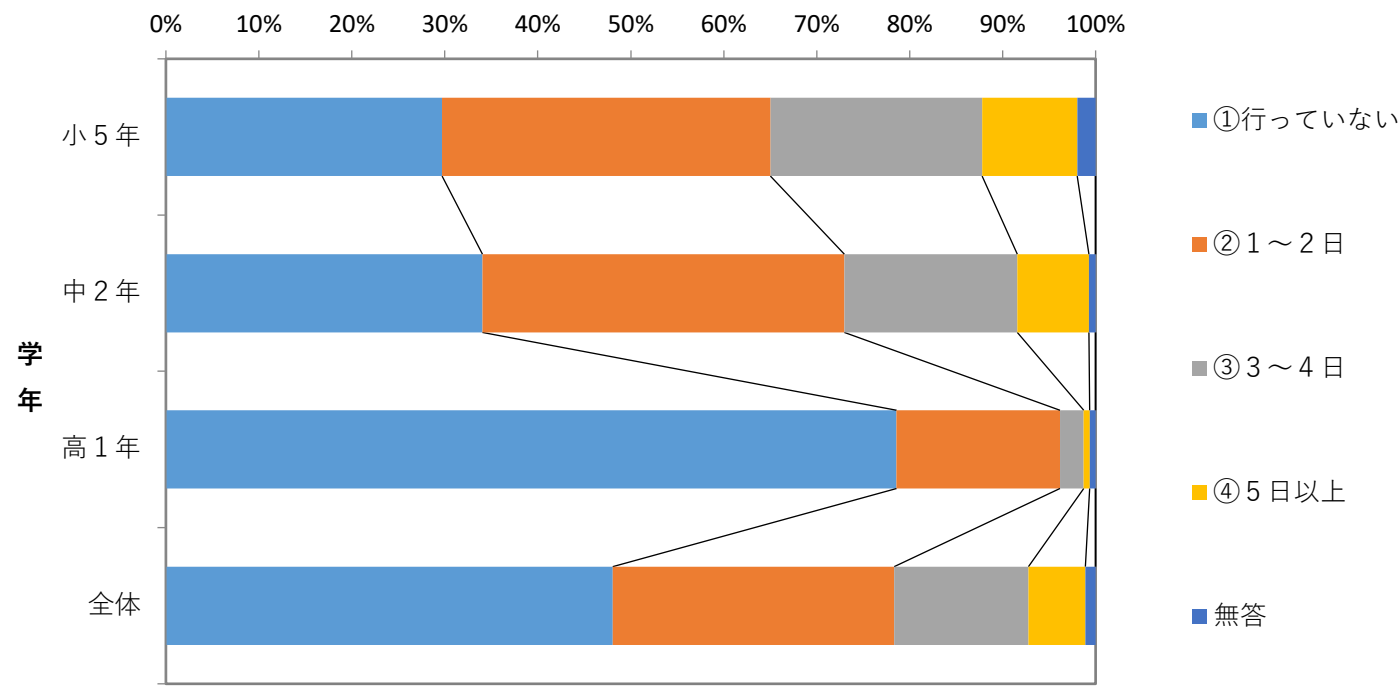


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	無答	合計
小5年	9.9	25.4	31.4	20.8	8.3	4.0	0.3	100.0
中2年	12.3	17.5	22.8	28.4	14.0	4.9	0.0	100.0
高1年	29.7	19.5	28.1	18.2	3.2	0.6	0.6	100.0
全体	17.5	20.9	27.5	22.3	8.3	3.1	0.3	100.0

1日あたりの勉強時間で「まったくしない」「30分より少ない」と答えた割合の合計は、小5年35% (昨年32%)、中2年30% (昨年29%)、高1年49% (昨年55%) で、小5年と中2年で昨年度より増えている。これに「30分以上、1時間より少ない」割合を加えると、小5年は67% (昨年62%)、中2年は53% (昨年54%)、高1年は77% (昨年71%) となった。このような学校の授業以外ではあまり勉強をしていない実態から基礎学力の定着が心配される。「3時間以上」学習していると回答した割合は、小5年4% (昨年6%)、中2年5% (昨年3%)、高1年1% (昨年3%) とほんのわずかしかない。子どもたちの学校外での学習状況の実態を把握し、改善に向けて適切な指導をしていく必要がある。

問3 1週間に何日くらい塾（学習・習い事など）へ行っていますか。

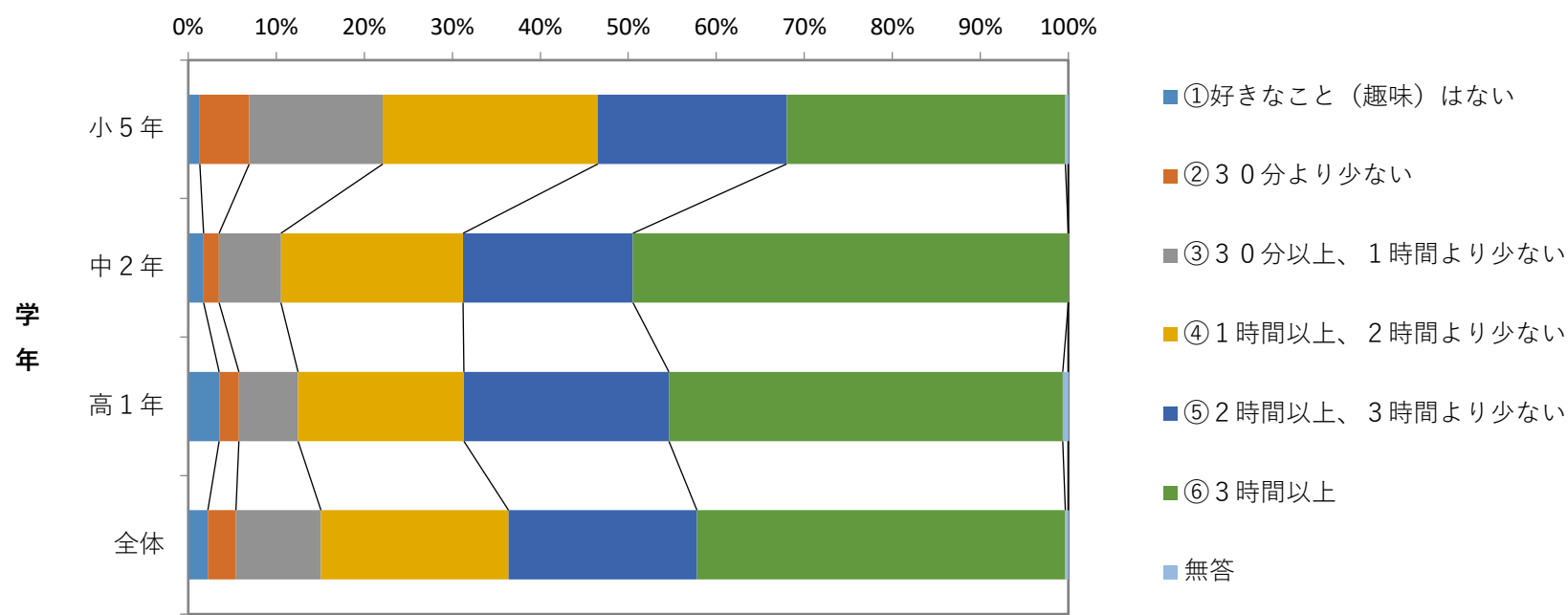


(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	29.7	35.3	22.8	10.2	2.0	100.0
中2年	34.0	38.9	18.6	7.7	0.7	100.0
高1年	78.6	17.6	2.6	0.6	0.6	100.0
全体	48.1	30.3	14.4	6.1	1.1	100.0

塾や習い事に1日でも通っていると回答した割合は、小5年68% (昨年74%)、中2年65% (昨年58%)、高1年21% (昨年19%)となっている。今年度は小学生の割合が6ポイント減少している。その中で週3日以上通塾しているのは、小5年33% (昨年43%)、中2年26% (昨年20%)、高1年3% (昨年4%)で、中2年以外は昨年度よりわずかに減少している。高1年の通塾率が低いのは、高校入学と同時にそれまで通っていた学習塾をやめたためと考えられる。また、それが調査2の学校以外での勉強時間が減少している一つの要因となっていることが想像できる。

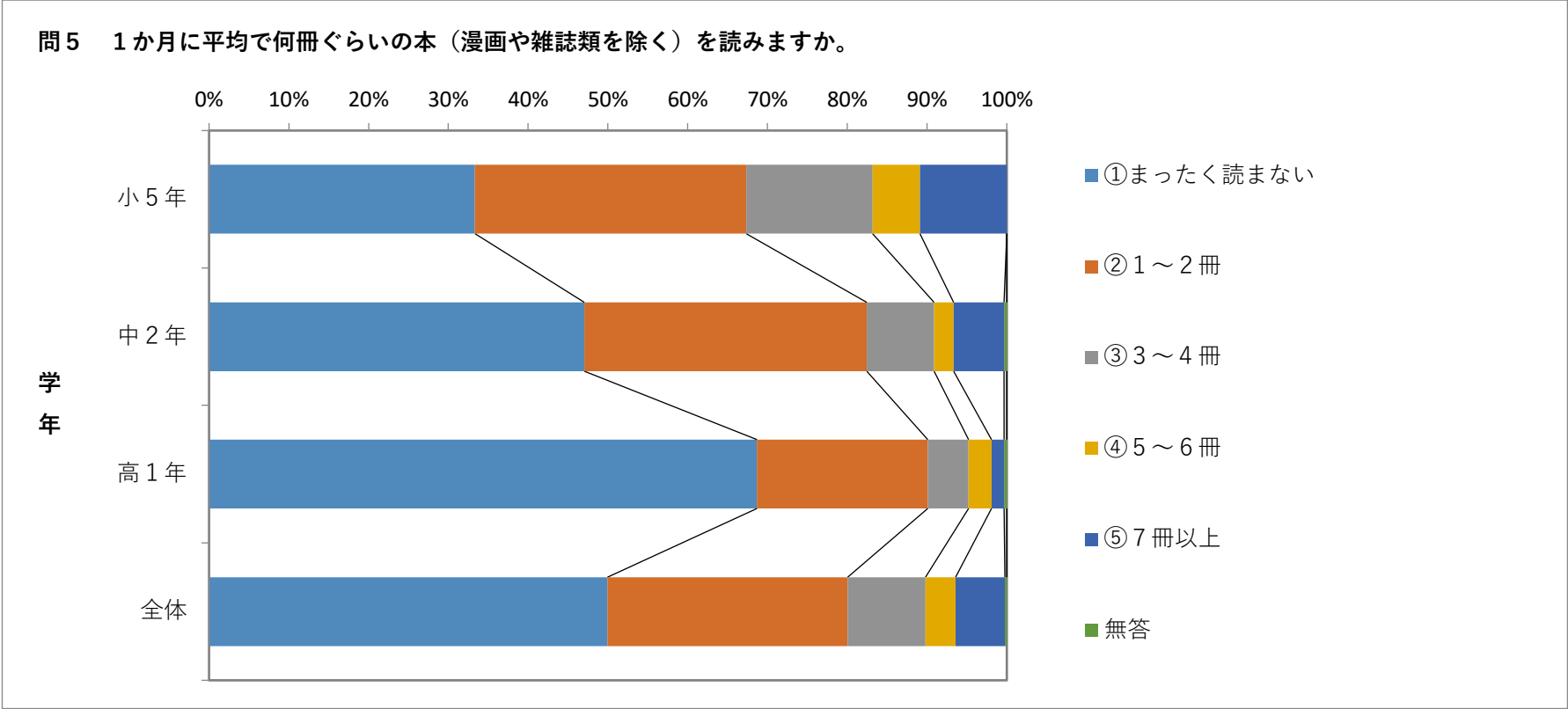
問4 ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらい家で好きなこと（趣味）をする時間がありますか。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	無答	合計
小5年	1.3	5.6	15.2	24.4	21.5	31.7	0.3	100.0
中2年	1.8	1.8	7.0	20.7	19.3	49.5	0.0	100.0
高1年	3.5	2.2	6.7	18.8	23.3	44.7	0.6	100.0
全体	2.2	3.2	9.7	21.3	21.4	41.8	0.3	100.0

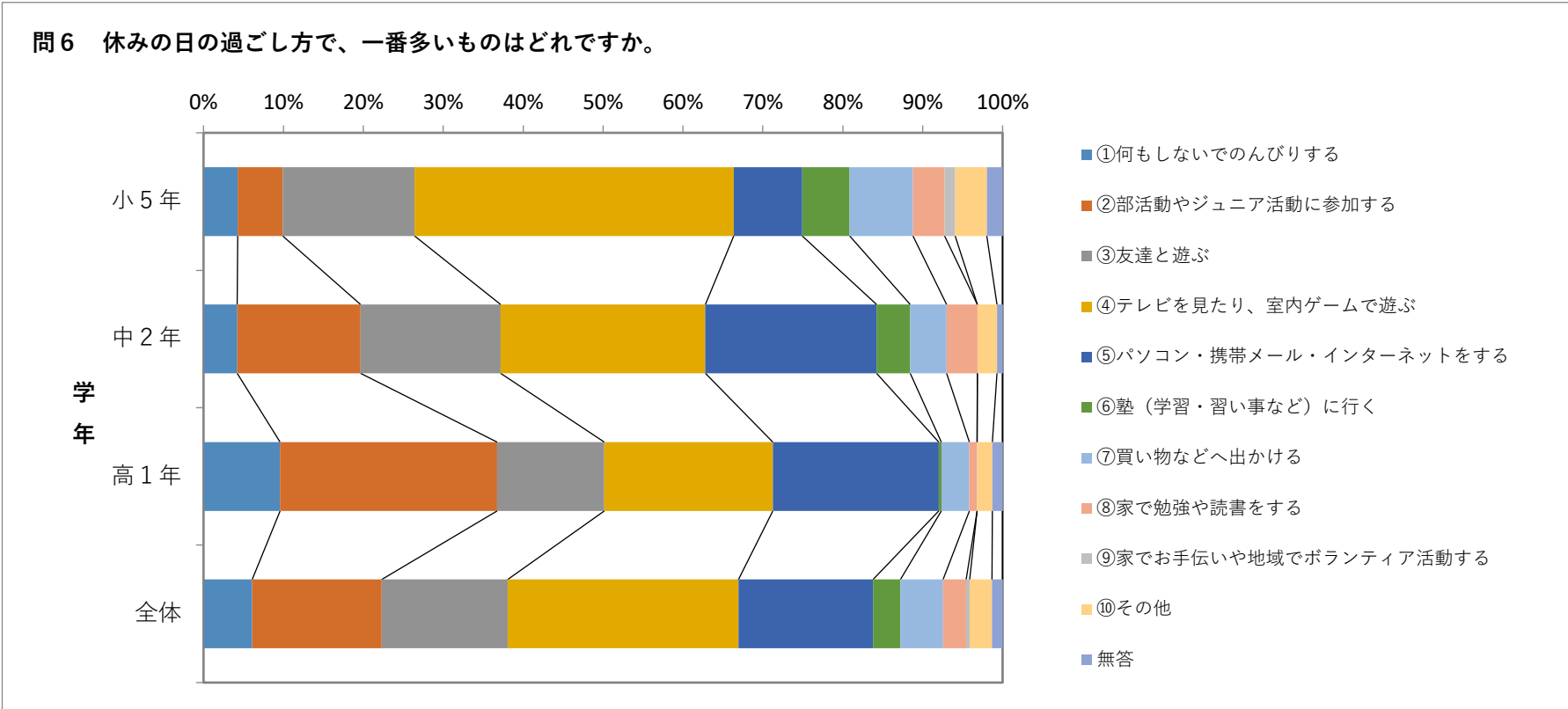
家で好きなことをする時間が「1時間以上ある」と回答した割合は、小5年78% (昨年76%)、中2年90% (昨年88%)、高1年87% (昨年84%)と、どの学年もコロナ禍以降高い割合が続いている。「1時間以上」と答えた割合を男女別に見ると、小5年男子87%:女子69%、中2年男子95%:女子84%、高1年男子・女子それぞれ87%と、小5年と中2年に少し男女差が見られた。また「3時間以上」と回答した割合は、小5年32% (昨年同様)、中2年50% (昨年45%)、高1年45% (昨年42%)となっており、中2年、高1年が割合を増やしている。学校の部活動や学校行事のあり方などが見直されたことにより、自宅で自由に活用できる時間が増えと思われ、子どもたちのライフスタイルも時代と共に変化してきている。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	無答	合計
小5年	33.3	34.0	15.8	5.9	10.9	0.0	100.0
中2年	47.0	35.4	8.4	2.5	6.3	0.4	100.0
高1年	68.7	21.4	5.1	2.9	1.6	0.3	100.0
全体	49.9	30.1	9.8	3.8	6.2	0.2	100.0

本を「まったく読まない」と回答した割合は、小5年33%（昨年30%）、中2年47%（昨年45%）、高1年69%（昨年72%）となっており、学年が上がるにつれ本を読まない割合が増えている。中でも今年度は、小5年、中2年の本を「まったく読まない」割合が昨年度より増えており、読書離れがより深刻になっている。男女別でみると、小5年男子40%：女子27%、中2年男子48%：女子46%、高1年男子70%：女子67%と、いずれの学年も女子より男子の方が本を読まないことがわかる。小5年では「5冊以上」と回答した子どもが17%（昨年24%）と減っており、年齢が上がるにつれ本がスマホに置き換わるためか、読書をしなくなっていく。会話力、文章力、集中力、語彙力、知識が身につくだけでなく、視野を広げ感受性も豊かにする読書に親しむ習慣を身につけさせることができるよう、読書教育や啓発活動、環境整備に力を入れ、読書離れに歯止めをかけていきたい。

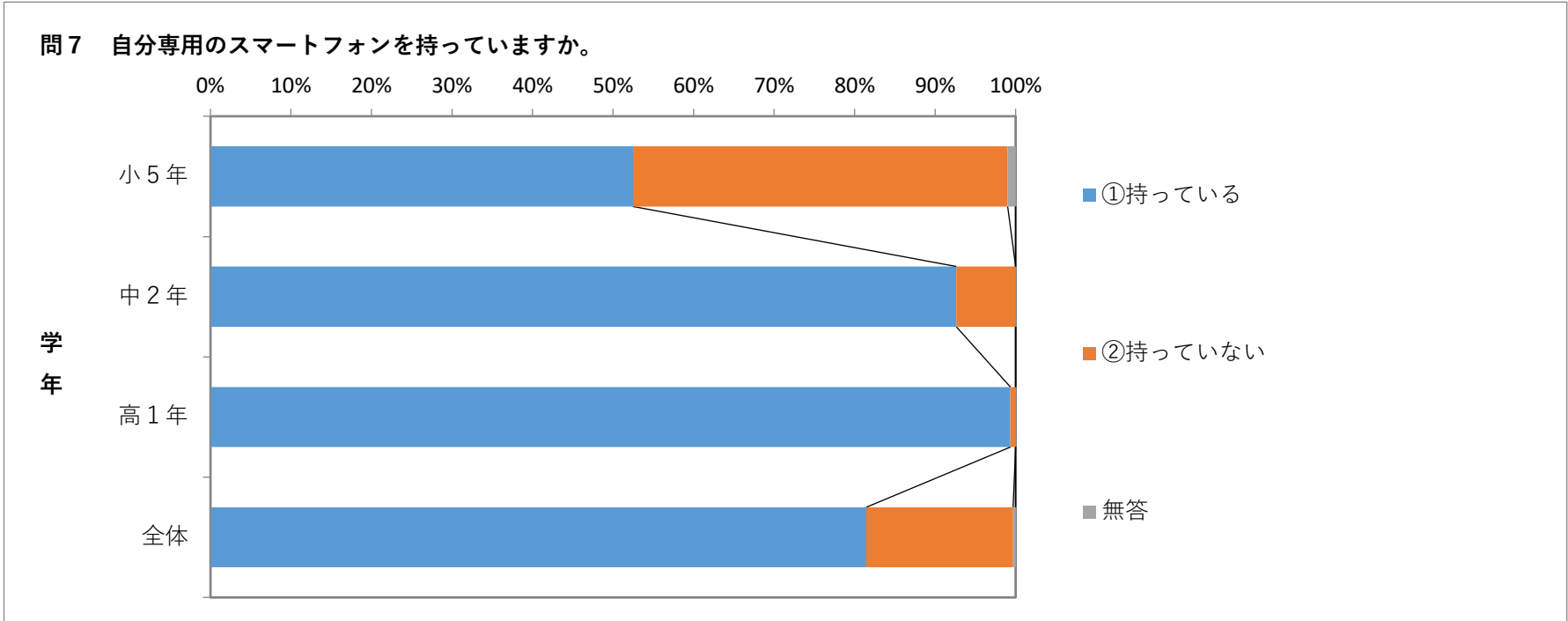


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	4.3	5.6	16.5	39.9	8.6	5.9	7.9	4.0	1.3	4.0	2.0	100.0
中2年	4.2	15.4	17.5	25.6	21.4	4.2	4.6	3.9	0.0	2.5	0.7	100.0
高1年	9.6	27.2	13.4	21.1	20.8	0.3	3.5	1.0	0.0	1.9	1.3	100.0
全体	6.1	16.2	15.8	28.9	16.9	3.4	5.3	2.9	0.4	2.8	1.3	100.0

休みの日の過ごし方では、最も多かったのは「テレビを見たり、室内ゲームで遊ぶ」と回答した割合で、小5年で40%（昨年36%）、中2年で26%（昨年同様）、高1年で21%（昨年12%）、全体で29%（昨年25%）となっているが、小5年、高1年でその割合は増加している。2番目に多かったのは「パソコン・携帯メール・インターネットをする」で、今年度は17%となった。コロナ禍をきっかけに生まれたゆとりの時間が「テレビを見たり、室内ゲームで遊んだりする」ことに多く使われている状況に大きな変化はなかった。部活動やジュニア活動に参加すると回答した割合は小5年6%（昨年5%）、中2年15%（昨年26%）、高1年27%（昨年30%）となっており、全体として減少傾向にある。

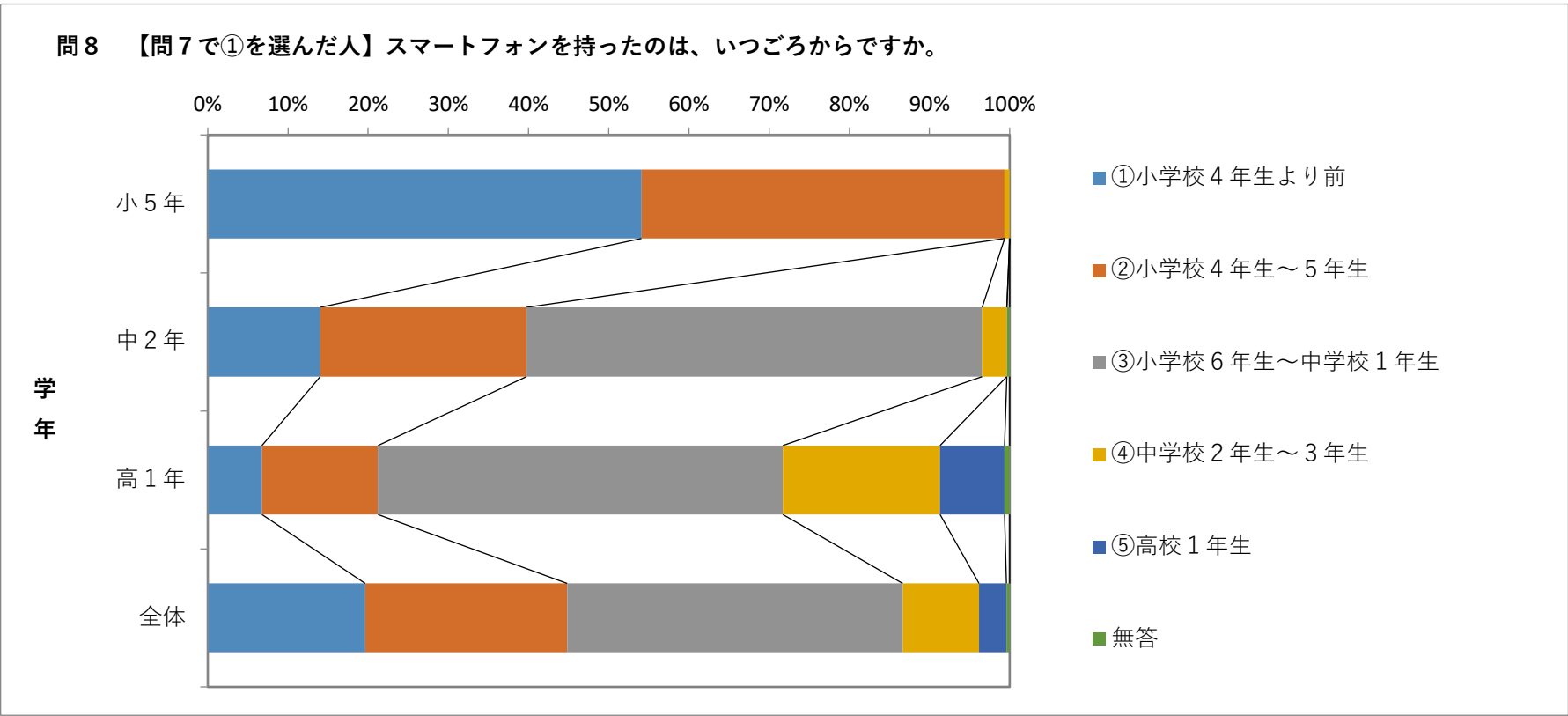
2 スマートフォンに関すること



(単位：%)

	①	②	無答	合計
小5年	52.5	46.5	1.0	100.0
中2年	92.6	7.4	0.0	100.0
高1年	99.4	0.6	0.0	100.0
全体	81.5	18.2	0.3	100.0

スマートフォンの所持率は、全体で82% (昨年80%) で、昨年度より2ポイント増加している。学年別で見ても小5年53% (昨年同様)、中2年93% (昨年89%)、高1年99% (昨年97%) となっており、昨年度と比べて小5年以外の学年で所持率が上がっている。男女別に見ると、小5年男子47% (昨年50%)、小5年女子58% (昨年57%)、中2年男子92% (昨年88%)、中2年女子93% (昨年91%)、高1年男子100% (昨年96%)、高1年女子99% (昨年98%) となり、小5年・中2年の所持率は女子のほうが高くなっている。所持率については昨年度から引き続き増加傾向にあり、特に今年度高1年男子の所持率は100%であった。

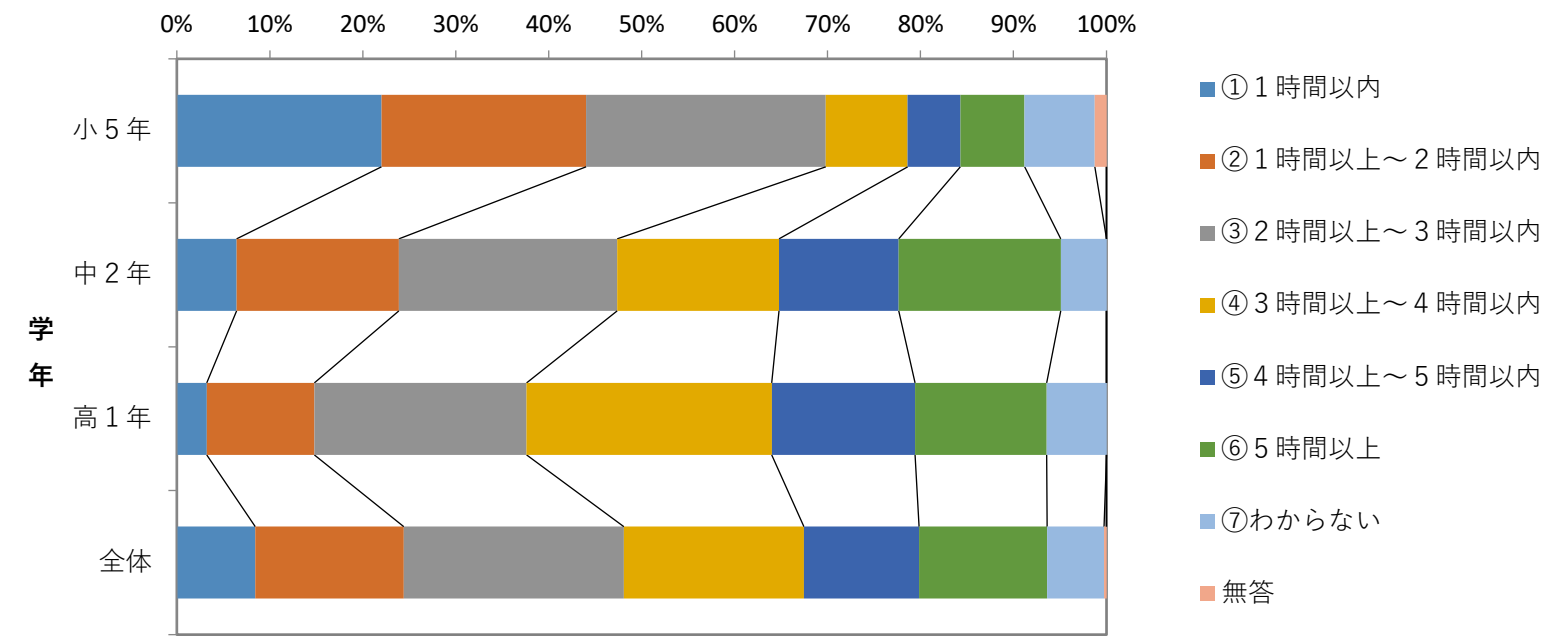


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	無答	合計
小5年	54.1	45.3	0.0	0.6	0.0	0.0	100.0
中2年	14.0	25.8	56.8	3.0	0.0	0.4	100.0
高1年	6.8	14.5	50.5	19.6	8.0	0.6	100.0
全体	19.6	25.2	41.8	9.5	3.4	0.4	100.0

スマートフォンを所持した時期は、小5年では「小学校4年生より前」と回答した割合が最も高く54% (昨年44%) だった。中2年、高1年は「小学校6年生～中学校1年生の間」と回答した割合がそれぞれ57% (昨年59%)、51% (昨年47%) と最も高かった。小学校5年生より前に所持した割合を見てみると、小5年が99% (昨年98%)、中2年が40% (昨年33%)、高1年が21% (昨年22%) となっており、年々スマートフォンを所持しはじめる年齢が早くなっていることがわかる。これから先スマートフォンは生活していくうえで必要不可欠のものとなっていくからこそ、ICTリテラシーをはじめとする正しい使い方を小学校低学年の時からしっかりと身に着けさせておく必要がある。

問9 【問7で①を選んだ人】
ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいスマートフォンを使っていますか。

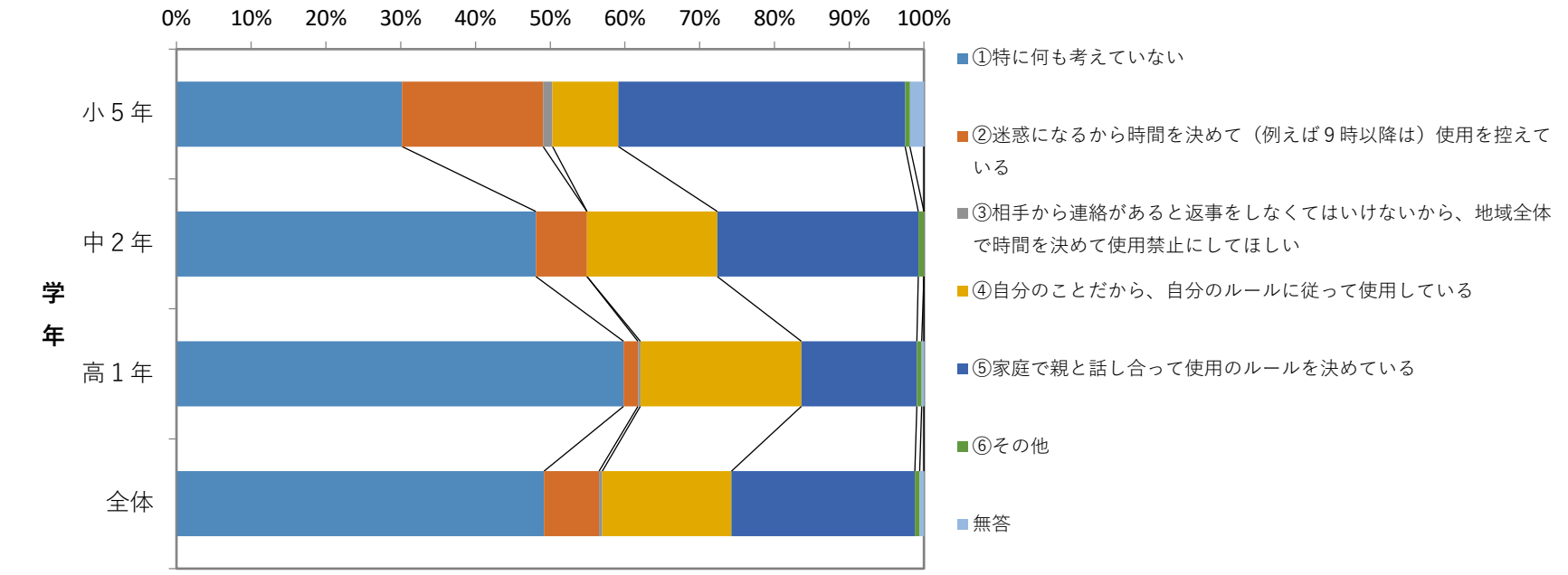


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無答	合計
小5年	22.0	22.0	25.8	8.8	5.7	6.9	7.5	1.3	100.0
中2年	6.4	17.4	23.5	17.4	12.9	17.4	4.9	0.0	100.0
高1年	3.2	11.6	22.8	26.4	15.4	14.1	6.4	0.0	100.0
全体	8.4	15.9	23.7	19.3	12.4	13.8	6.1	0.3	100.0

スマートフォンの使用時間では、「2時間以上」使用すると答えた割合の合計は、小5年47%(昨年34%)[男子45%:女子49%]、中2年は71%(昨年73%)[男子73%:女子69%]、高1年は79%(昨年78%)[男子77%、女子81%]と、小5年は昨年度より長時間使用が大きく増加している。男女別で見ると中2年は男子の方が女子よりスマートフォンを使っている時間が長い。小5年・高1年では女子の方が長い。しかし「5時間以上」使用すると答えたのは、小5年7%(昨年8%)、中2年17%(昨年20%)、高1年14%(昨年16%)と、長時間利用している割合はわずかではあるが減っている。スマートフォン依存症による心と体への健康被害や学力の低下が問題となっていることから、今まで以上に適切な利用時間の指導に力を入れていく必要がある。

問10 【問7で①を選んだ人】スマートフォンなどを夜間に利用することについてどう思いますか。一番当てはまるものを1つだけ選んでください。

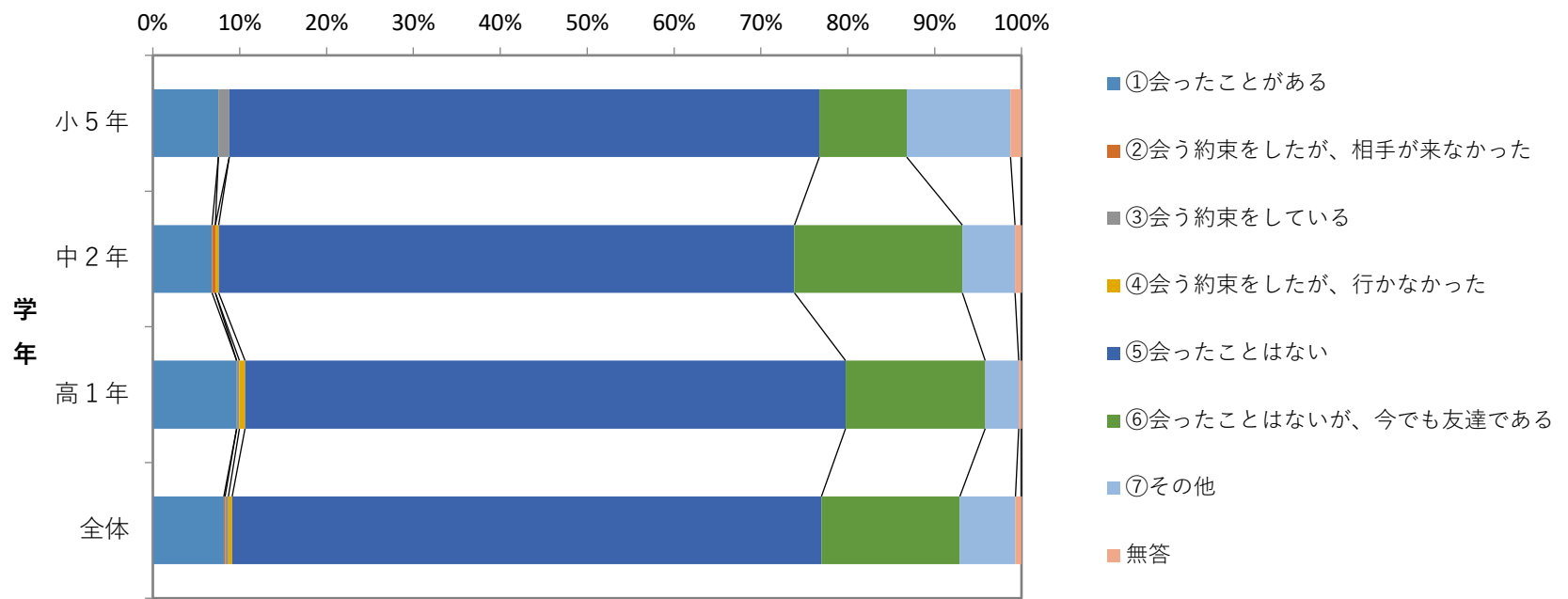


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	無答	合計
小5年	30.2	18.9	1.3	8.8	38.4	0.6	1.9	100.0
中2年	48.1	6.8	0.0	17.4	26.9	0.8	0.0	100.0
高1年	59.8	1.9	0.3	21.5	15.4	0.6	0.3	100.0
全体	49.2	7.4	0.4	17.3	24.5	0.7	0.5	100.0

スマートフォンの夜間の利用について「特に何も考えていない」と回答した全体の割合は、49%で昨年度の54%より減っている。学年別にみても、小5年30%(昨年34%)、中2年48%(昨年58%)、高1年60%(昨年63%)となっており、すべての学年で前年度から減少している。しかし学年が進むにつれて夜間利用の是非についての意識は低くなっている。主体的に「迷惑になるから時間を決めて使用を控えている」と答えた割合は、小5年19%、中2年7%、高1年2%と中2年・高1年では非常に低くなっている。「家庭で親と話し合って使用のルールを決めている」割合は小5年では38%程あるが、高1年になるとわずか15%しかおらず、多くの高校生たちは親との約束事もなく自由に夜間利用していることがわかる。

問11 【問7で①を選んだ人】スマートフォンで知り合った人と会ったことがありますか。

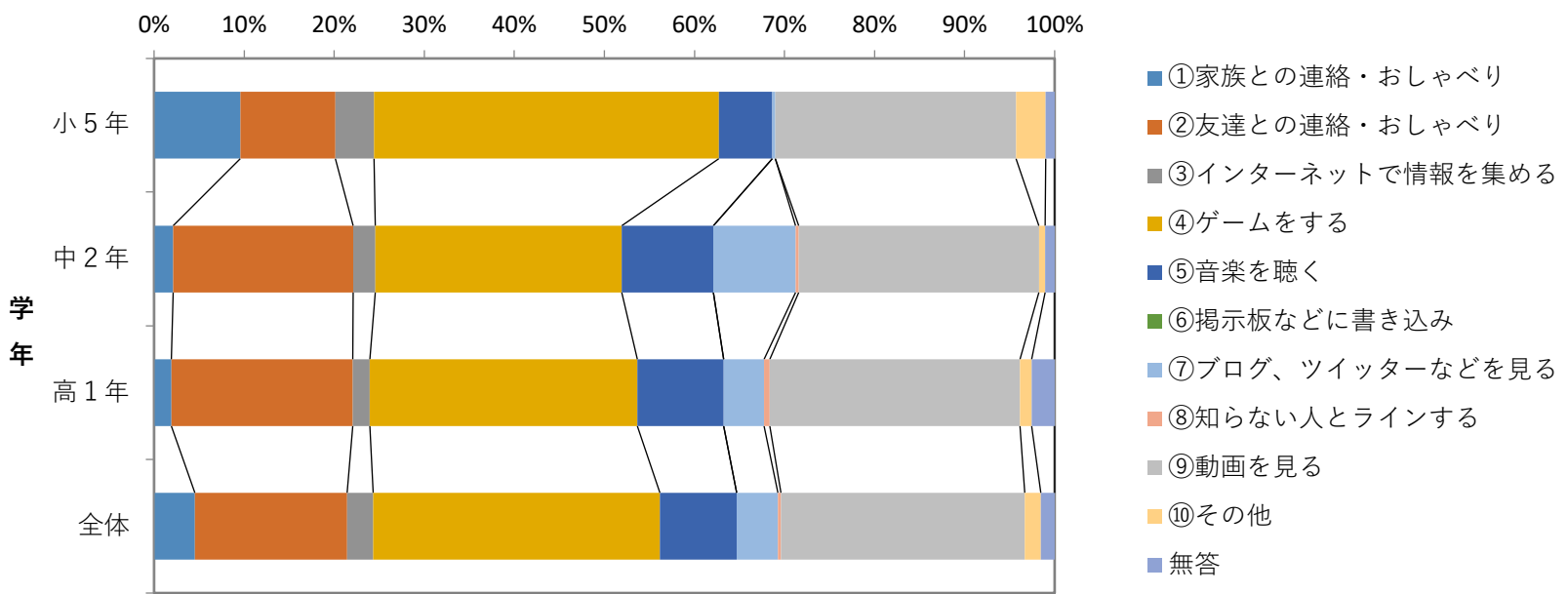


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無答	合計
小5年	7.5	0.0	1.3	0.0	67.9	10.1	11.9	1.3	100.0
中2年	6.8	0.4	0.0	0.4	66.3	19.3	6.1	0.8	100.0
高1年	9.6	0.0	0.3	0.6	69.1	16.1	3.9	0.3	100.0
全体	8.2	0.1	0.4	0.4	67.8	15.9	6.4	0.7	100.0

スマートフォンを通して知り合った人と実際に会ったことがあると回答した割合は、全体で8% (昨年12%) で、実人数は60/734名 (昨年92名/748名) となり、昨年より4%減っている。その割合を学年別でみると、小5年8%[男子6% (昨年12%)、女子9% (昨年同様)]、中2年7%[男子4% (昨年7%)、女子9% (昨年15%)]、高1年10%[男子12% (昨年14%)、女子6% (昨年16%)] となっており、今年度は全学年で減少しており、特に高1年女子の割合が大きく減っている。それでもSNSを通してトラブルや犯罪に巻き込まれたり、性的被害に遭ったりする事件が後を絶たない中、実際に会ったことのある子どもが一定数いることに危機感を感じる。ネットで知り合った人と安易に会うことがないよう、家庭や学校で継続的に指導するだけでなく、社会全体で被害防止に取り組む必要がある。

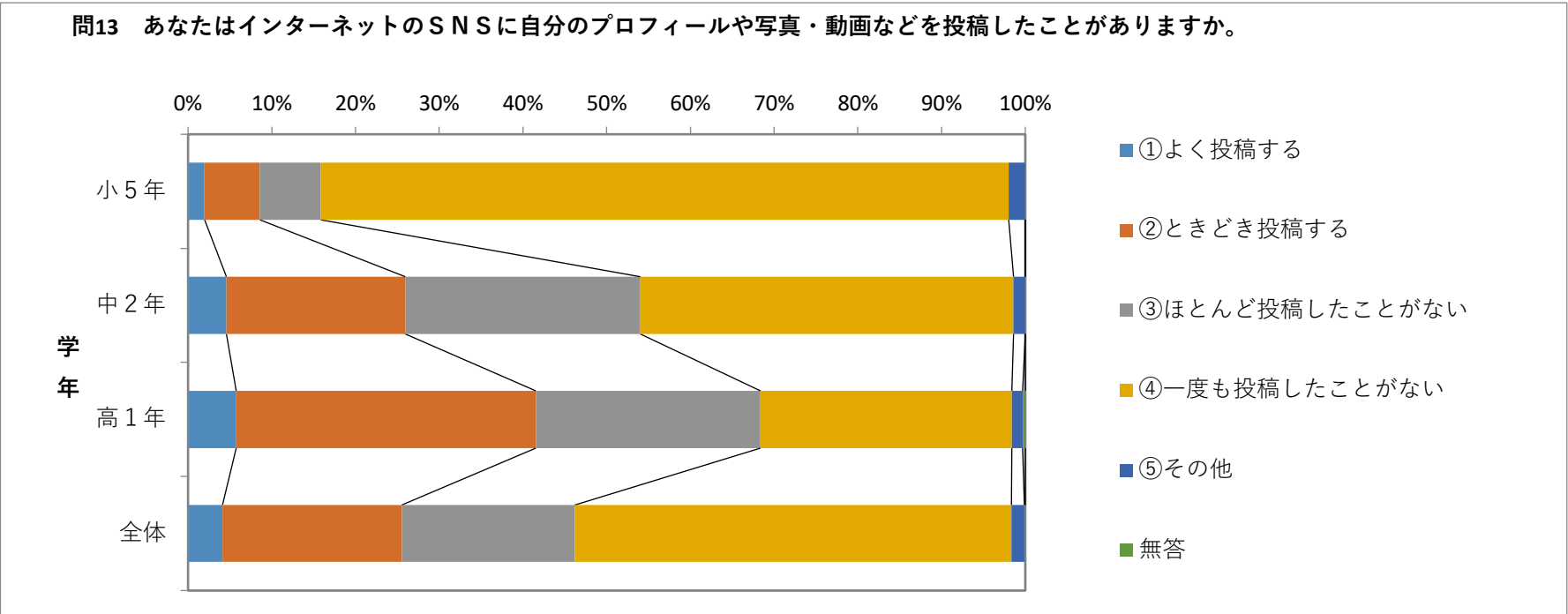
問12 インターネットで、一番多く利用していることは何ですか。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	9.6	10.6	4.3	38.3	5.9	0.0	0.3	0.0	26.7	3.3	1.0	100.0
中2年	2.1	20.0	2.5	27.4	10.2	0.0	9.1	0.4	26.7	0.7	1.1	100.0
高1年	1.9	20.1	1.9	29.7	9.6	0.0	4.5	0.6	27.8	1.3	2.6	100.0
全体	4.6	16.9	2.9	31.9	8.5	0.0	4.6	0.3	27.1	1.8	1.6	100.0

インターネットの利用で多かったのは、「ゲームをする」が全体の32%、「動画を見る」全体の27%となっており、この2つを合わせた割合だけで半数を上回っている。「ゲームをする」と回答したのは男子が多く、その割合は小5年が56%、中2年が46%、高1年40%となっており、女子の小5年21%、中2年7%、高1年15%と大きな差があった。「動画を見る」と回答したのは女子が32%、男子が23%と女子の方がわずかに多く、男女間で9ポイントほどの差となった。「友達との連絡・おしゃべり」は全体で17% (昨年同様)、「家族との連絡・おしゃべり」は全体で5% (昨年4%) となっており、趣味や娯楽を楽しむためのツールとして使われていることの方が多いことがわかる。その他の少数意見として、電子書籍を読む、塾の勉強をするなどの記述が見られた。

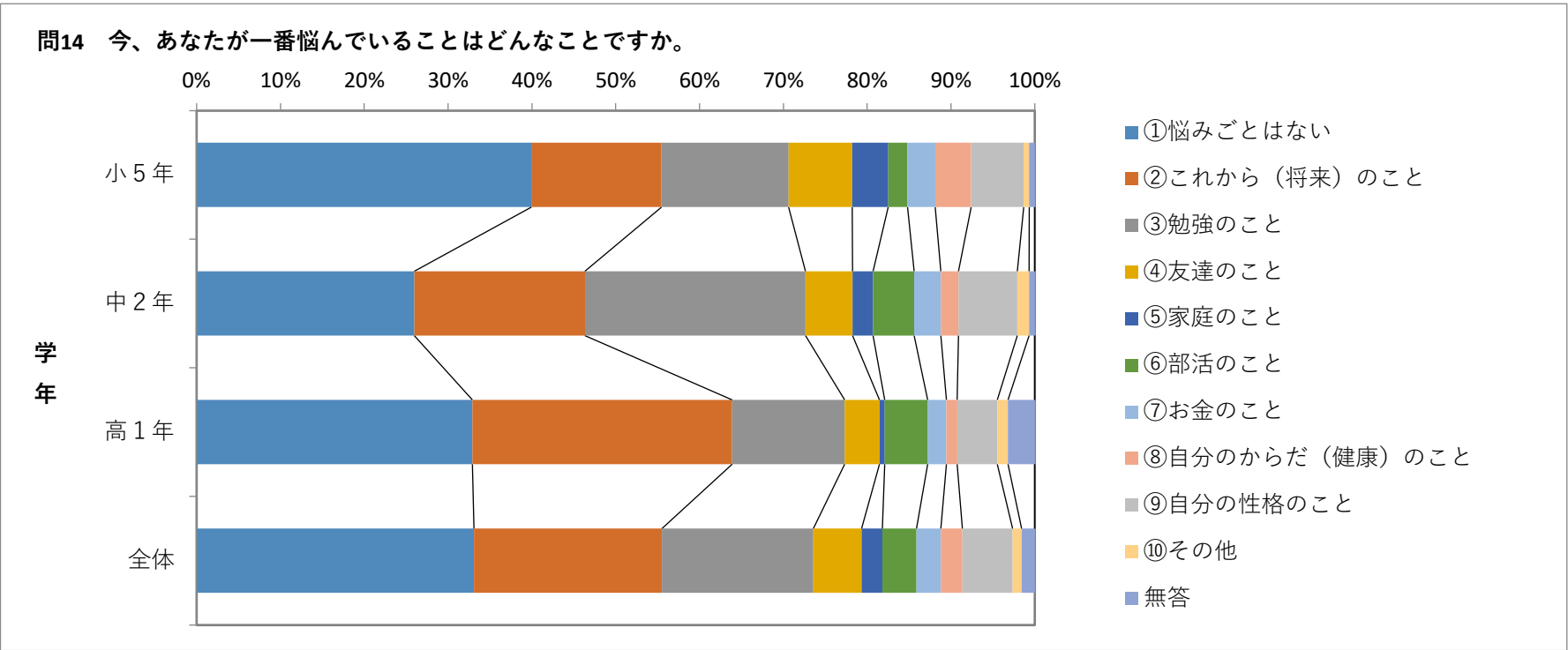


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	無答	合計
小5年	2.0	6.6	7.3	82.2	2.0	0.0	100.0
中2年	4.6	21.4	28.1	44.6	1.4	0.0	100.0
高1年	5.8	35.8	26.8	30.0	1.3	0.3	100.0
全体	4.1	21.4	20.6	52.2	1.6	0.1	100.0

近年インターネットのSNSや動画サイトを介して起こるトラブルやいじめ、誹謗中傷、性被害が後を絶たないことから、一昨年からの設問を加えた。「よく投稿する」「ときどき投稿する」と回答した割合を合わせると、全体で26%（昨年同様）となっており。その内訳を学年・男女別で見ると、小5年は9%（昨年5%）[男子6%：女子12%]、中2年は26%（昨年35%）[男子17%・女子35%]、高1年は42%（昨年38%）[男子36%：女子49%]となっており、学年が上がるにつれ投稿したことがある割合が高くなり、中でも中2年・高1年では女子が男子の割合を大きく上回っている。中2年、高1年の女子で「よく投稿する」「時々投稿する」と回答した実数は113名に上ることを重く受け止め、大きな事件事故につながらないよう何らかの対策を講じていく必要がある。

3 本人に関すること

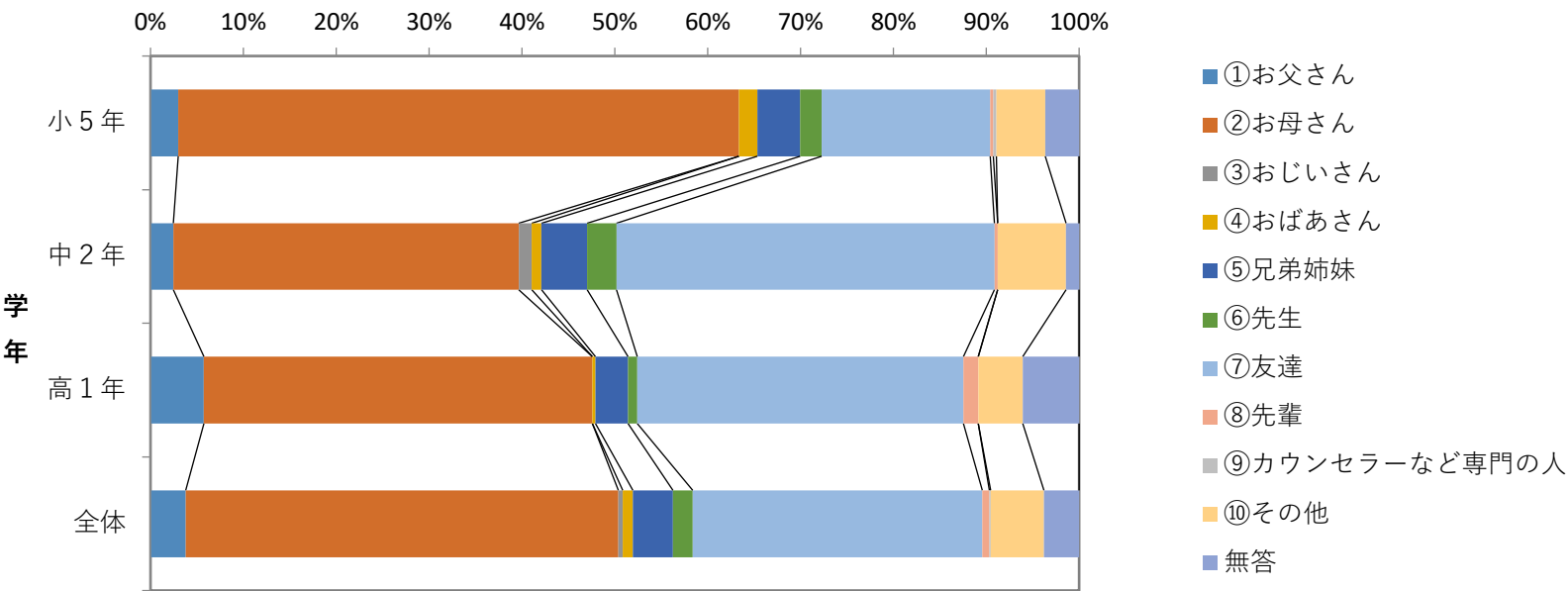


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	39.9	15.5	15.2	7.6	4.3	2.3	3.3	4.3	6.3	0.7	0.7	100.0
中2年	26.0	20.4	26.3	5.6	2.5	4.9	3.2	2.1	7.0	1.4	0.7	100.0
高1年	32.9	31.0	13.4	4.2	0.6	5.1	2.2	1.3	4.8	1.3	3.2	100.0
全体	33.1	22.4	18.1	5.8	2.4	4.1	2.9	2.6	6.0	1.1	1.6	100.0

「悩みごとはない」と回答したのは、小5年40%（昨年37%）、中2年26%（昨年19%）、高1年33%（昨年28%）と、昨年と比べるとどの学年も増加したが、特に中2年が7ポイントと大きく増加した。悩みごとで多いのはどの学年も「将来のこと」「勉強のこと」で、「将来のこと」と回答した割合は小5年16%（昨年18%）、中2年20%（昨年27%）、高1年31%（昨年27%）で、「勉強のこと」と回答した割合は、小5年15%（昨年17%）、中2年26%（昨年22%）、高1年13%（昨年21%）となっている。中でも高1年は、「将来のこと」と回答した割合が昨年度の27%から31%へと増加し、進学や就職などの進路選択に不安を感じている子どもが増えている傾向にある。

問15 悩みごとを一番相談するのはだれですか。

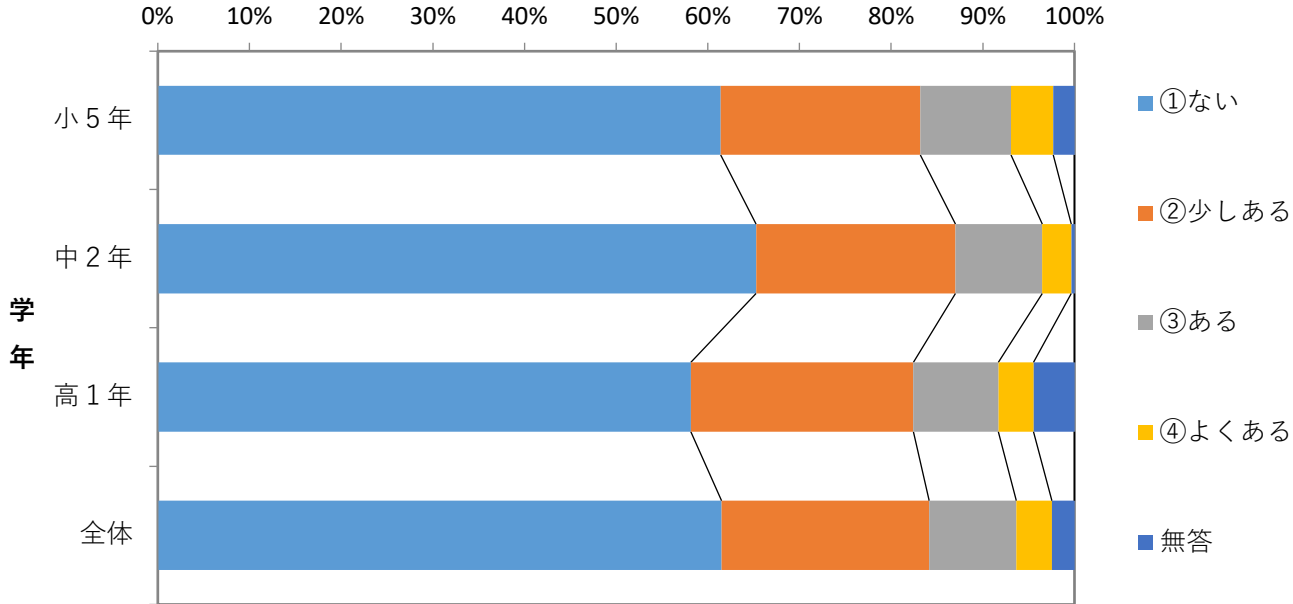


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	3.0	60.4	0.0	2.0	4.6	2.3	18.2	0.3	0.3	5.3	3.6	100.0
中2年	2.5	37.2	1.4	1.1	4.9	3.2	40.7	0.4	0.0	7.4	1.4	100.0
高1年	5.8	41.9	0.0	0.3	3.5	1.0	35.1	1.6	0.0	4.8	6.1	100.0
全体	3.8	46.6	0.4	1.1	4.3	2.1	31.2	0.8	0.1	5.8	3.8	100.0

「悩み事を相談するのはだれですか」という問いに対して、今年も「お母さん」と答えた割合が全体で47%（昨年46%）と最も高く、次に高かったのが「友達」の31%（昨年33%）だった。学年別にみると小5年は「お母さん」が60%（昨年51%）で「友達」が18%（昨年25%）、中2年は「お母さん」37%（昨年36%）「友達」41%（昨年42%）、高1年は「お母さん」42%（昨年51%）「友達」35%（昨年34%）となっている。今年度「友達」と回答した割合は中2年が最も高かった。「お父さん」と回答したのは今年度も全体で4%ほどで、父親と会話する機会が少ないことを表している。また、「先生」と回答した割合は全体でわずか2%ほどしかなく、子どもたちが先生に悩み事相談することはほとんどないことがわかる。

問16 「死にたい」と思ったことはありますか。

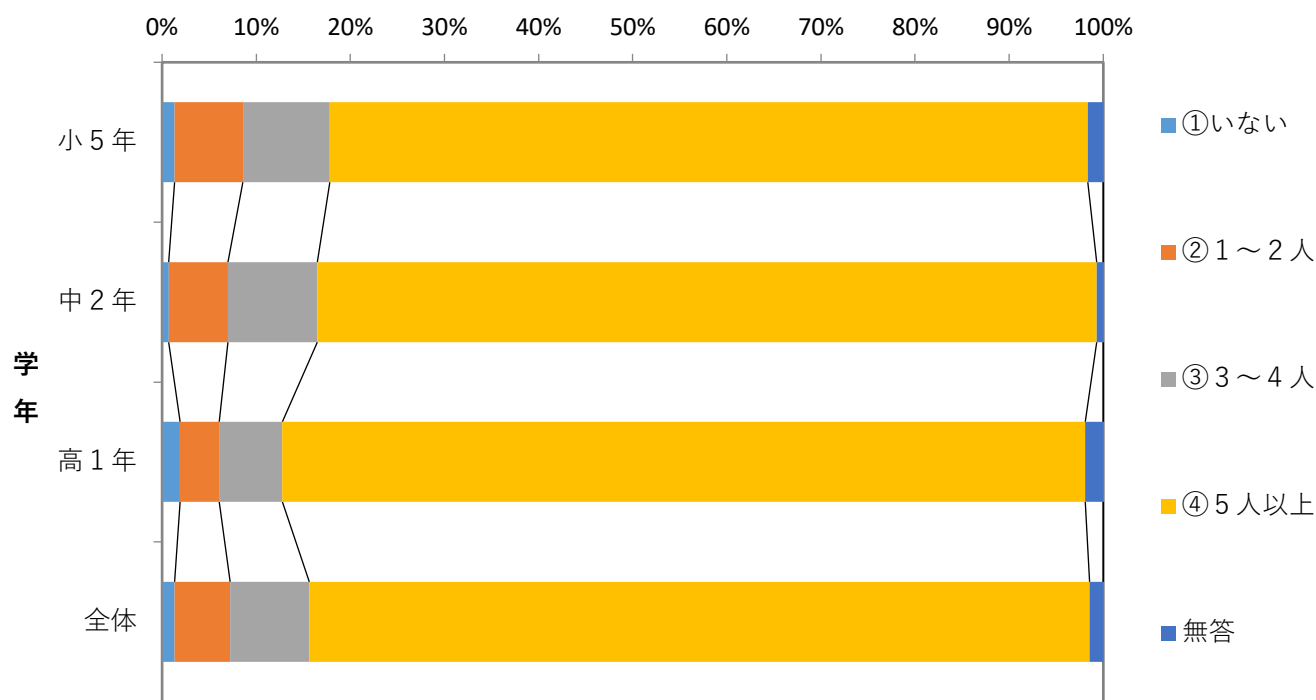


(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	61.4	21.8	9.9	4.6	2.3	100.0
中2年	65.3	21.8	9.5	3.2	0.4	100.0
高1年	58.1	24.3	9.3	3.8	4.5	100.0
全体	61.5	22.6	9.5	3.9	2.4	100.0

「死にたいと思ったことはありますか」という問いに対して、「少しある」「ある」「よくある」と回答した割合の合計は、全体で36%（昨年39%）となっている。学年男女別でみると、小5年36%（男子33%：女子39%）、中2年35%（男子32%：女子37%）、高1年37%（男子30%：女子48%）となっており、どの学年も女子の割合が男子に比べて高く、特に高1年女子は48%という非常に高い割合となっている。また、その中で「よくある」と回答した割合は全体で4%[35名]、男女別では小5年男子3%[5名]、女子6%[9名]、中2年男子1%[2名]、女子5%[7名]、高1年男子3%[6名]、女子5%[6名]と、いずれの学年も女子の方が多い。このアンケート実施者の中だけでも「死にたいと思ったことがよくある」子どもが35名いるということは、市内全小中高校で考えるとこの何倍もいることが想像できる。悩んだり思いつめたりしている子どもたちをより早い段階で見つけ出し、適切な措置がとれる体制を整えておく必要がある。

問17 友達（顔を見て話ができる）は何人くらいいますか。

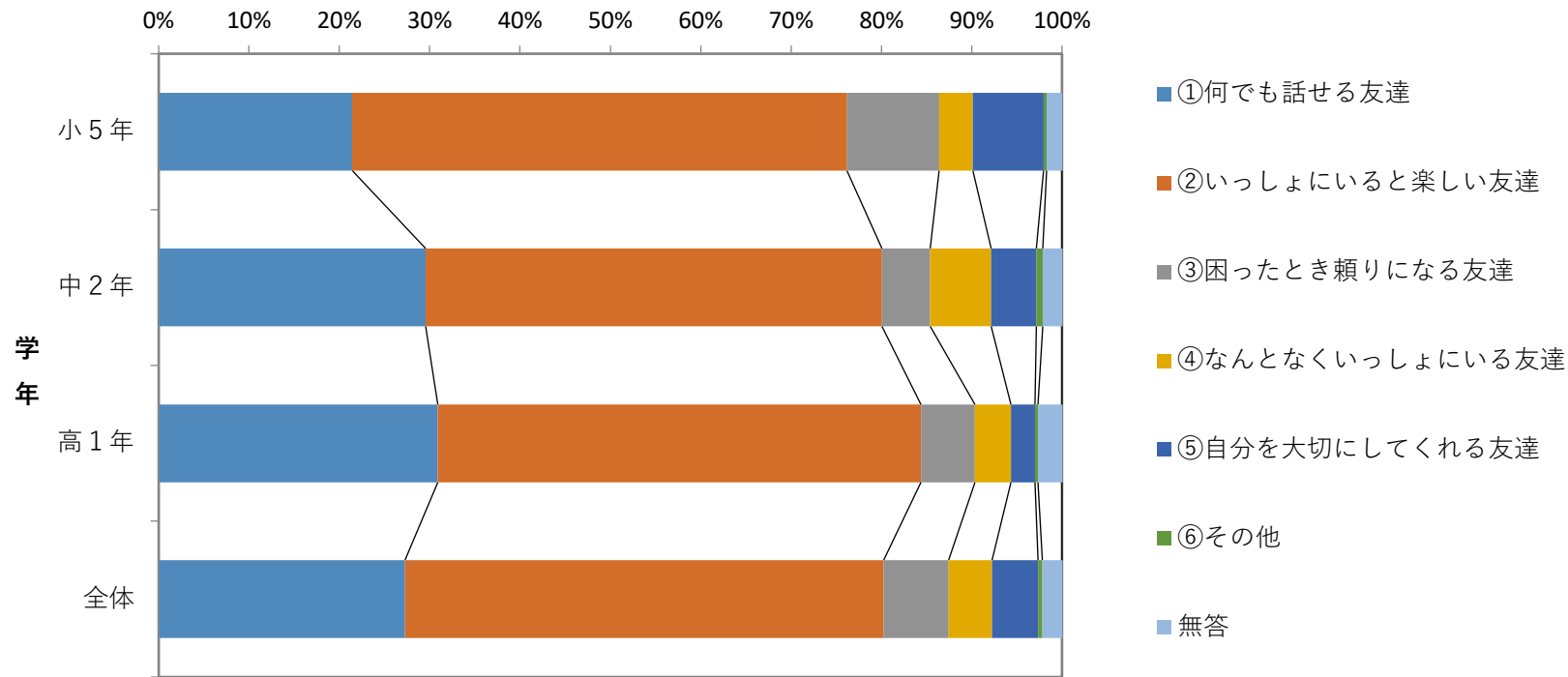


(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	1.3	7.3	9.2	80.5	1.7	100.0
中2年	0.7	6.3	9.5	82.8	0.7	100.0
高1年	1.9	4.2	6.7	85.3	1.9	100.0
全体	1.3	5.9	8.4	82.9	1.4	100.0

顔を見て話のできる友達が「5人以上」と答えた割合は、全体で83%（昨年同様）、小5年81%（昨年78%）、中2年83%（昨年82%）、高1年85%（昨年88%）となっており、これに1人以上いると回答した割合を合わせると97%となり、ほとんどの子どもたちが友達と楽しく生活を送っていることがわかる。しかし、「いない」と回答した子どもが全体のわずか1%[12名]ではあるが、いることを見逃してはならない。「人との関わりがわずらわしくて友達を必要としないのか」「まわりの友達に嫌われて友達ができないのか」「いじめられているからなのか」などいない理由はそれぞれ違うかもしれないが、孤立している子どもの実態を正確に把握し、適切な支援をしていく必要がある。

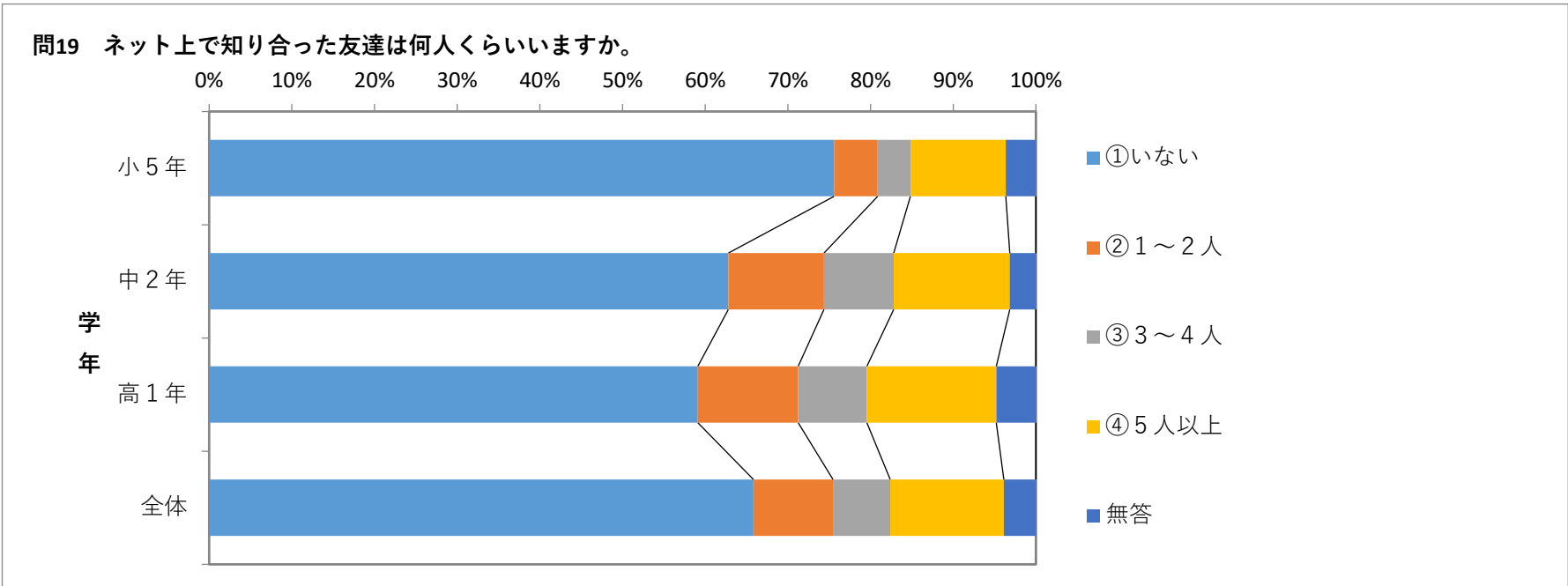
問18 【問17で②③④を選んだ人】あなたと友達の関係について、一番当てはまるものはどれですか。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	無答	合計
小5年	21.4	54.8	10.2	3.7	7.8	0.3	1.7	100.0
中2年	29.5	50.5	5.3	6.8	5.0	0.7	2.1	100.0
高1年	30.9	53.5	6.0	4.0	2.7	0.3	2.7	100.0
全体	27.3	53.0	7.2	4.8	5.1	0.5	2.2	100.0

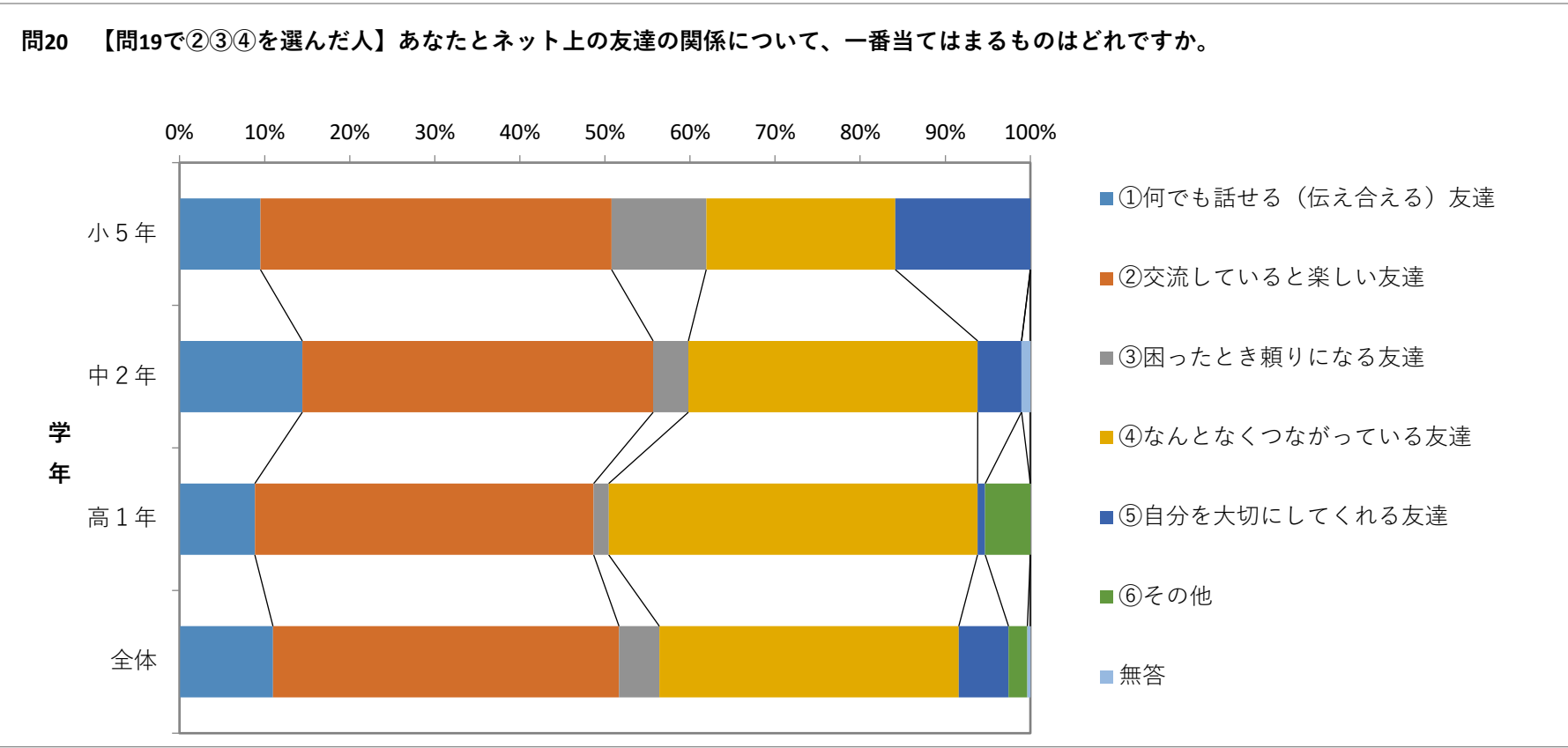
友だちとの関係についてたずねたところ、「いっしょにいと楽しい友達」と答えた割合が全体で53%（昨年52%）と最も多く、次いで「何でも話せる友達」と回答した割合が全体27%（昨年31%）と、どの学年でも多かった。「何でも話せる友達」と回答した割合は小5年21%、中2年30%、高1年は31%となっており、小学生に比べて中高校生の方が、一緒に過ごす中で友達との会話を楽しんでいる様子が伺える。より深い信頼関係にあると考えられる「困ったときに頼りになる友達」「自分を大切にしてくれる友達」と回答した割合の合計が12%となり昨年の10%からわずかに増加している。また、親密な友人関係をそれほど強く求めていないのか「なんとなく一緒にいる」と答えた割合が5%程いた。



(単位：％)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	75.6	5.3	4.0	11.6	3.6	100.0
中2年	62.8	11.6	8.4	14.0	3.2	100.0
高1年	59.1	12.1	8.3	15.7	4.8	100.0
全体	65.8	9.7	6.9	13.8	3.9	100.0

「ネット上で知り合った友達がいない」と答えた割合は全体の66％(昨年65％)で昨年度よりわずかに増えている。一方「1人以上いる」と答えた割合は、小5年21％(昨年16％)、中2年34％(昨年40％)、高1年36％(昨年40％)となっており、小5年での増加、中2年での減少が目立った。「5人以上いる」と答えた割合は、小5年が12％(昨年6％)中2年が14％(昨年18％)、高1年が16％(昨年20％)となっており、小5年は増加したが、中2年高1年では減少した。SNSやオンラインゲームなどを通して友達になる事が多いと考えられるが、ネットで知り合った友達とトラブルになったり、事件事故に巻き込まれたりすることがないように心がけさせたい。

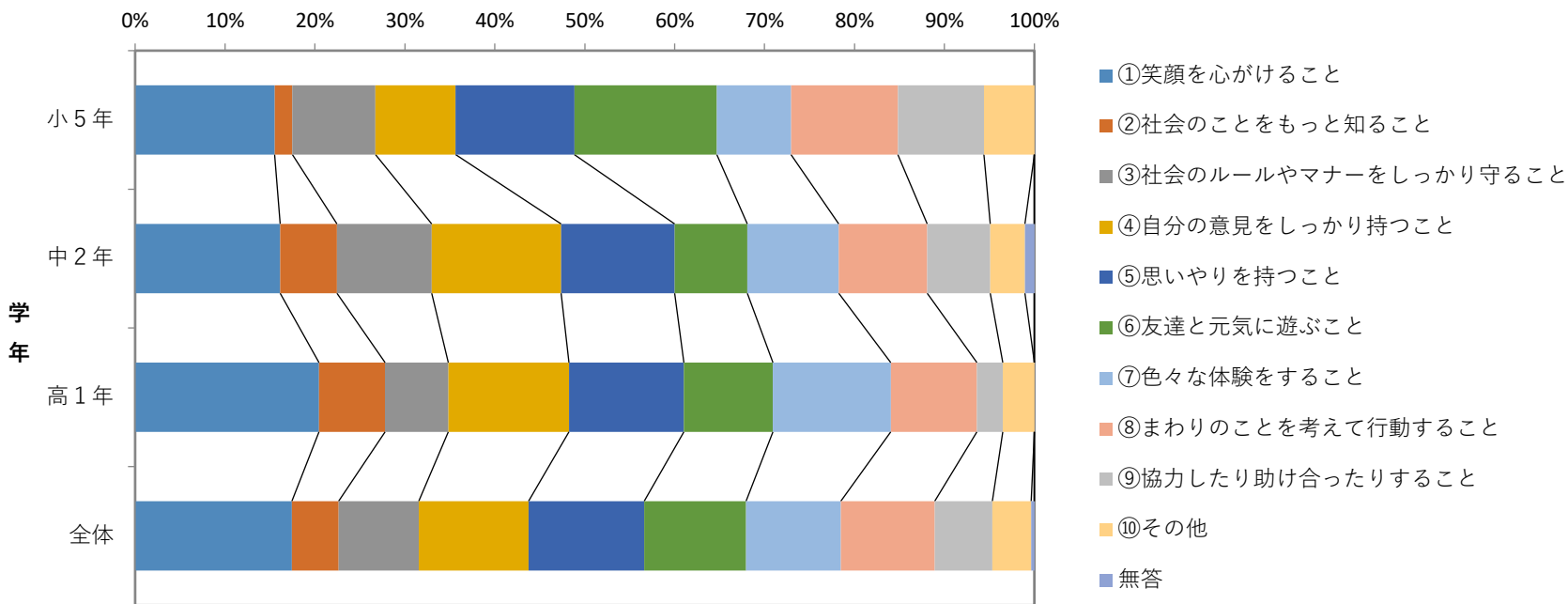


(単位：％)

	①	②	③	④	⑤	⑥	無答	合計
小5年	9.5	41.3	11.1	22.2	15.9	0.0	0.0	100.0
中2年	14.4	41.2	4.1	34.0	5.2	0.0	1.0	100.0
高1年	8.8	39.8	1.8	43.4	0.9	5.3	0.0	100.0
全体	11.0	40.7	4.8	35.2	5.9	2.2	0.4	100.0

ネット上の友達関係で一番多かったのは、「交流していると楽しい友達」で41％(昨年同様)、次いで「なんとなくつながっている友達」が35％(昨年33％)となっており、それぞれの割合に大きな変化はなかった。昨年度から大きな変化が見られたのは「交流していると楽しい友達」と回答した小5年と高1年の割合で、小5年が昨年度の26％から41％へ大きく増加し、高1年は昨年度の48％から40％へと大きく減少している。これはオンラインゲームやSNSで交流する小学生が増えてきたことが一つの要因となっていることが想像できる。「何でも話せる友達」「困ったときに頼りになる友達」「自分を大切にしてくれる友達」回答を合わせた全体の割合は22％(昨年同様)とそれほど高くなく、ネット上の友達とはそれほど深い人間関係にはないということがわかる。

問21 今の自分にとって、一番大切なことはなんですか。

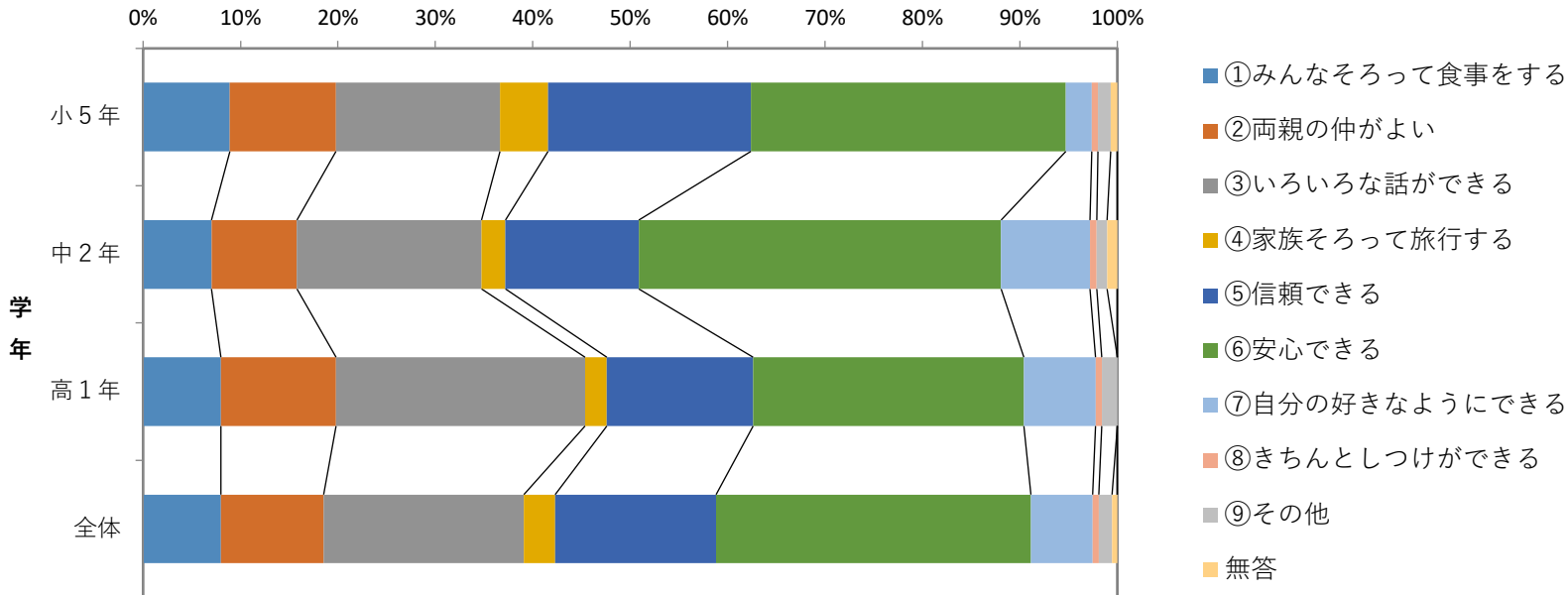


(単位：%)												
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	15.5	2.0	9.2	8.9	13.2	15.8	8.3	11.9	9.6	5.6	0.0	100.0
中2年	16.1	6.3	10.5	14.4	12.6	8.1	10.2	9.8	7.0	3.9	1.1	100.0
高1年	20.4	7.3	7.0	13.4	12.8	9.9	13.1	9.6	2.9	3.5	0.0	100.0
全体	17.4	5.2	8.9	12.2	12.9	11.3	10.5	10.4	6.4	4.3	0.3	100.0

今の自分にとって一番大切なこととして回答した割合が全体で多かったのは、昨年同様「笑顔をはげめること」17%（昨年16%）、「思いやりを持つこと」13%（昨年10%）、「自分の意見をしっかりと持つこと」12%（昨年14%）、「友達と元気に遊ぶこと」11%（昨年同様）「色々な体験をすること」11%（昨年同様）という順になった。大切にしていることは発達段階によって優先度が変わり、小5年で「友達と元気に遊ぶこと」と回答した割合が16%いたのに対して、中2年は8%、高1年は10%だった。「まわりのことを考えて行動する」は小5年が12%だったのに対して、中2年・高1年は10%と低くなった。一方「自分の意見をしっかりと持つこと」と回答した割合は、中2年が14%、高1年が13%だったのに対して小5年は9%と低かった。

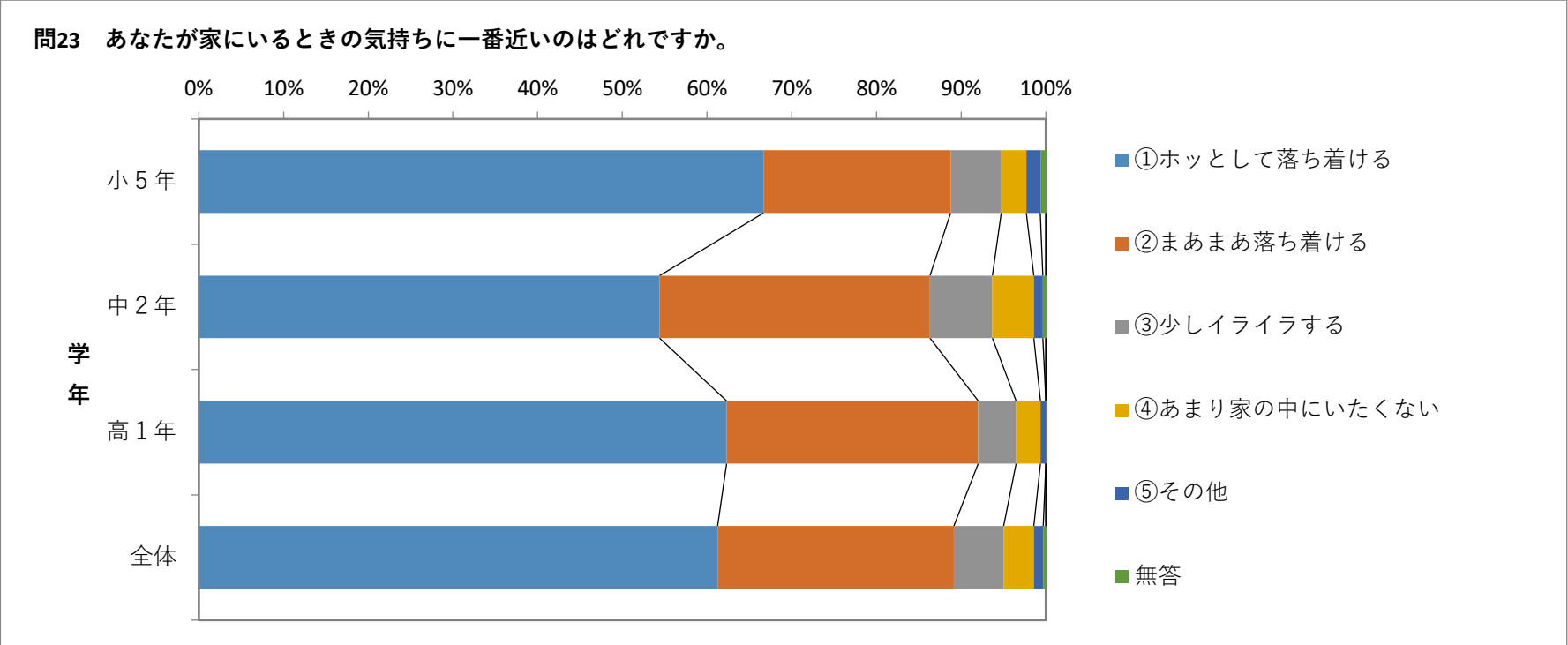
4 家庭・家族に関すること

問22 あなたにとって、家族（家庭）として一番大切だと思うことはなんですか。



(単位：%)											
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無答	合計
小5年	8.9	10.9	16.8	5.0	20.8	32.3	2.6	0.7	1.3	0.7	100.0
中2年	7.0	8.8	18.9	2.5	13.7	37.2	9.1	0.7	1.1	1.1	100.0
高1年	8.0	11.8	25.6	2.2	15.0	27.8	7.3	0.6	1.6	0.0	100.0
全体	8.0	10.5	20.5	3.2	16.5	32.3	6.3	0.7	1.3	0.6	100.0

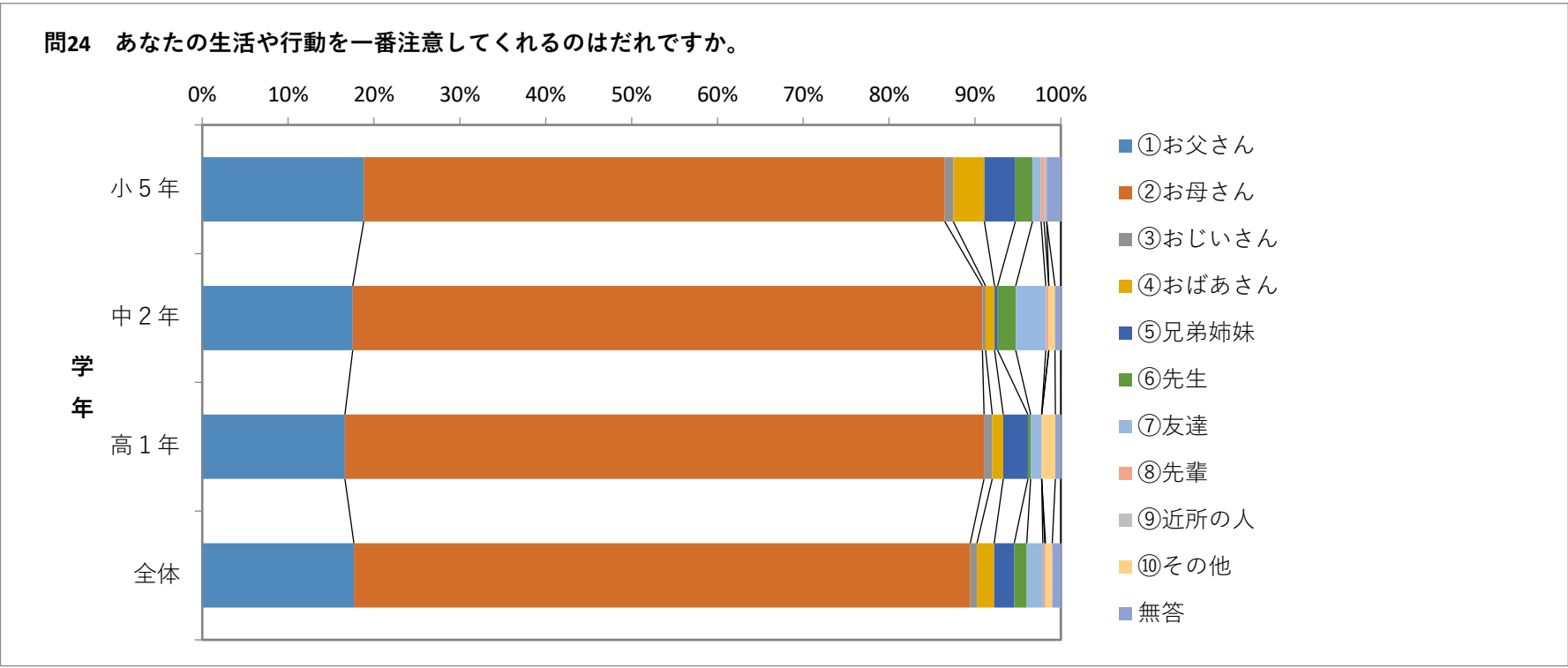
家族(家庭)として一番大切なことは何ですかという問いに対して、「安心できる」と答えた割合が32%（昨年同様）と最も多く、2番目に「いろいろな話ができる」が21%（昨年18%）、3番目に「信頼できる」が17%（昨年20%）と続いた。この3つは毎年必ず上位になっており、多くの子どもたちは家庭が、家族で仲良く安心して過ごせる安らぎの場所となることを望んでいることがわかる。4番目に多かった、「両親の仲がよい」と答えた割合は今年度も11%ほどあり、家庭で居心地の良さや安心感を得るためには、両親の仲がよいことが大切だと思っている子どももいる。「みんなそろって食事をする」と回答した割合は8%（昨年同様）ほどで、毎日家族全員そろって夕食をとる家庭も一昔前と比べると減ってきている。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	無答	合計
小5年	66.7	22.1	5.9	3.0	1.7	0.7	100.0
中2年	54.4	31.9	7.4	4.9	1.1	0.4	100.0
高1年	62.3	29.7	4.5	2.9	0.6	0.0	100.0
全体	61.3	27.9	5.9	3.6	1.1	0.3	100.0

89%(昨年88%)の子どもが、家で「ホッとして落ち着ける」「まあまあ落ち着ける」と回答しており、今年度もほとんどの子どもたちにとって家庭が落ち着ける居心地の良い場所となっていることがわかる。一方、「少しイライラする」「あまり家の中にいたくない」と感じている子どもは全体で10%(昨年11%)ほどおり、その内訳を学年別で見ると小5年9%(昨年12%)、中2年12%(昨年11%)、高1年7%(昨年10%)となっており、小5年と高1年はわずかにではあるが減少した。また、設問からは直接は見えてこないが、家庭の中で親からの虐待を受けていたり、親子関係が悪かったりする子どももいる。家庭がすべての子どもたちにとってホッとして落ち着ける居場所となるよう、地域や関係機関のサポート体制を充実させていく必要がある。

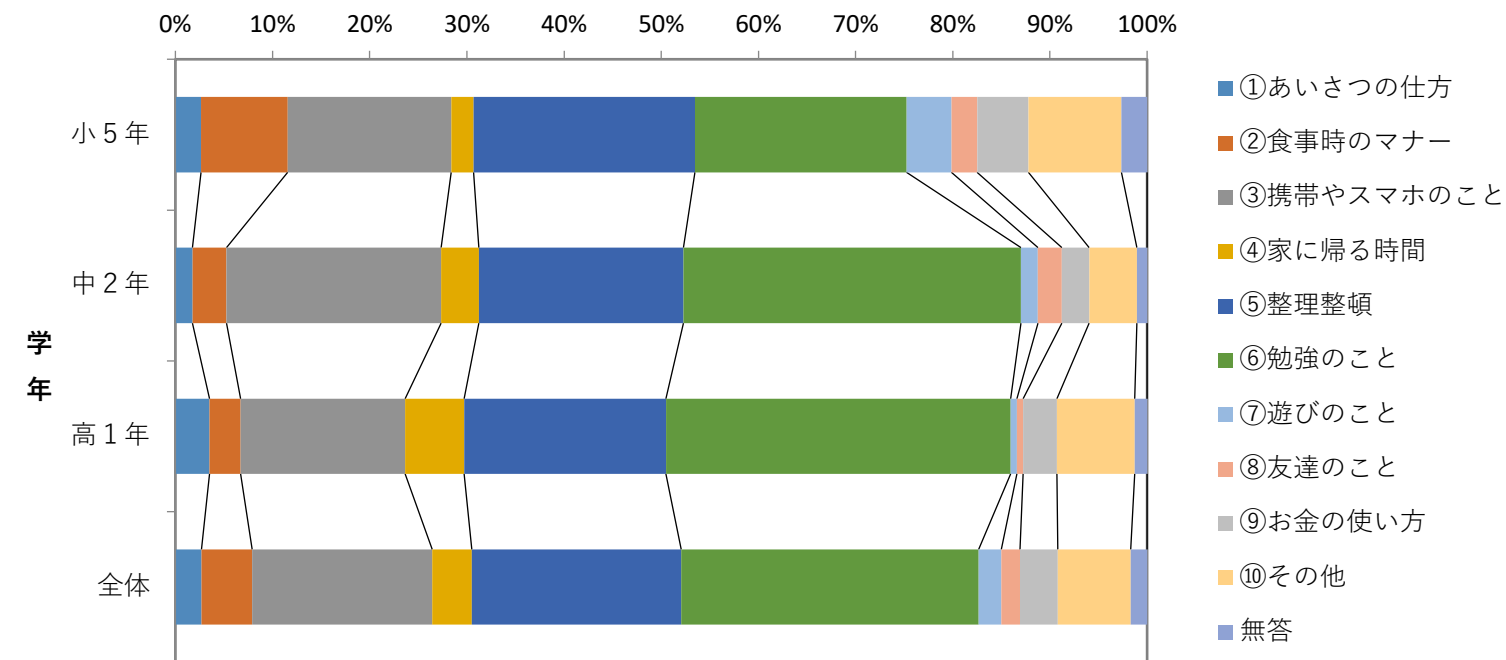


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	18.8	67.7	1.0	3.6	3.6	2.0	1.0	0.3	0.3	0.0	1.7	100.0
中2年	17.5	73.3	0.4	1.1	0.4	2.1	3.5	0.4	0.0	0.7	0.7	100.0
高1年	16.6	74.4	1.0	1.3	2.9	0.3	1.3	0.0	0.0	1.6	0.6	100.0
全体	17.6	71.8	0.8	2.0	2.3	1.4	1.9	0.2	0.1	0.8	1.0	100.0

注意してくれるのはだれかという問いに対して、「お母さん」と回答した割合が72%(昨年71%)と最も高く、2番目に多かった「お父さん」の18%(昨年同様)と大きな開きがある。これは一緒に過ごす時間が相対的に母親の方が多いためだと考えられる。しかし、「お母さん」「お父さん」を合わせた割合は全体の89%(昨年同様)となり、子どもと最も深くかかわっているのは両親であることに変わりはない。「おじいさん」「おばあさん」「兄弟姉妹」「先生」「友達」と回答した割合は、それぞれ1、2%程度しかない。核家族化が進み、地域の人間関係も希薄になっていくこれからの時代、子どものより良い人間形成のために両親の果たす役割はますます大きくなっていくと考えられる。

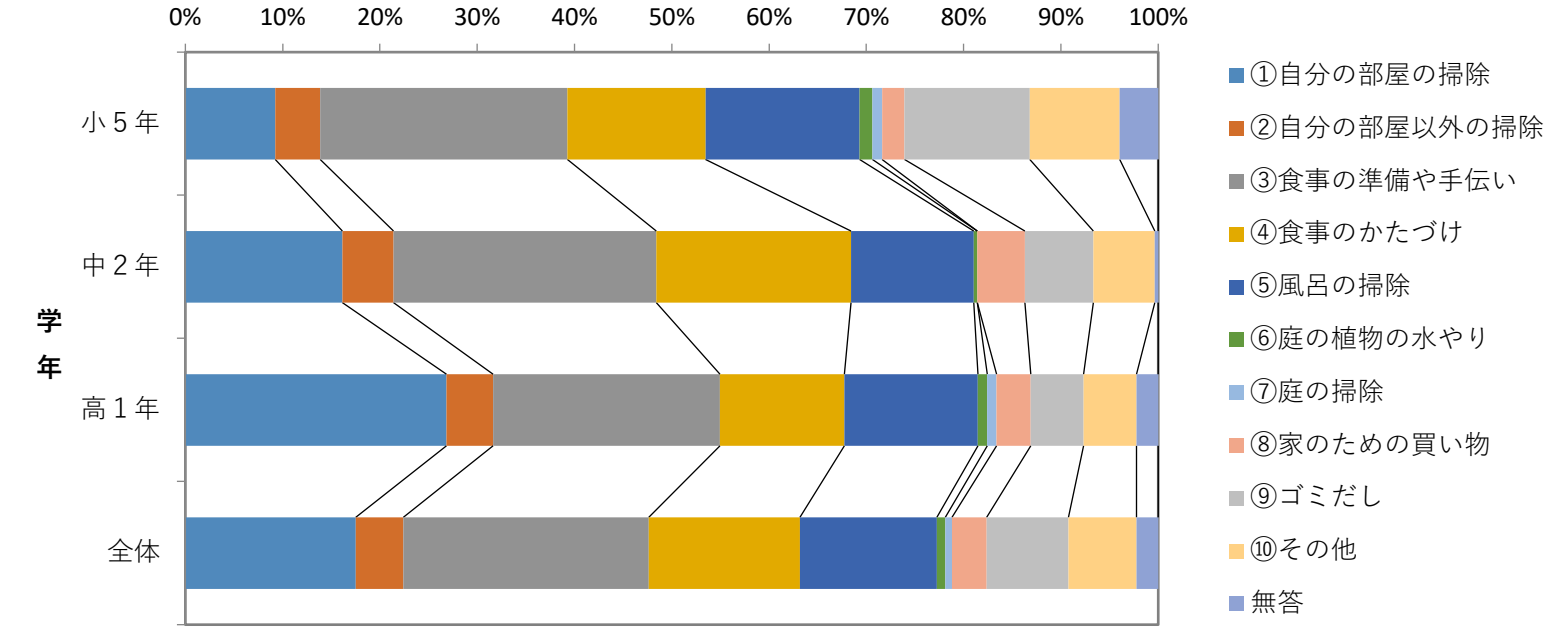
問25 あなたが両親から一番注意をうけることはなんですか。



(単位：%)												
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	2.6	8.9	16.8	2.3	22.8	21.8	4.6	2.6	5.3	9.6	2.6	100.0
中2年	1.8	3.5	22.1	3.9	21.1	34.7	1.8	2.5	2.8	4.9	1.1	100.0
高1年	3.5	3.2	16.9	6.1	20.8	35.5	0.6	0.6	3.5	8.0	1.3	100.0
全体	2.7	5.2	18.5	4.1	21.5	30.6	2.3	1.9	3.9	7.5	1.7	100.0

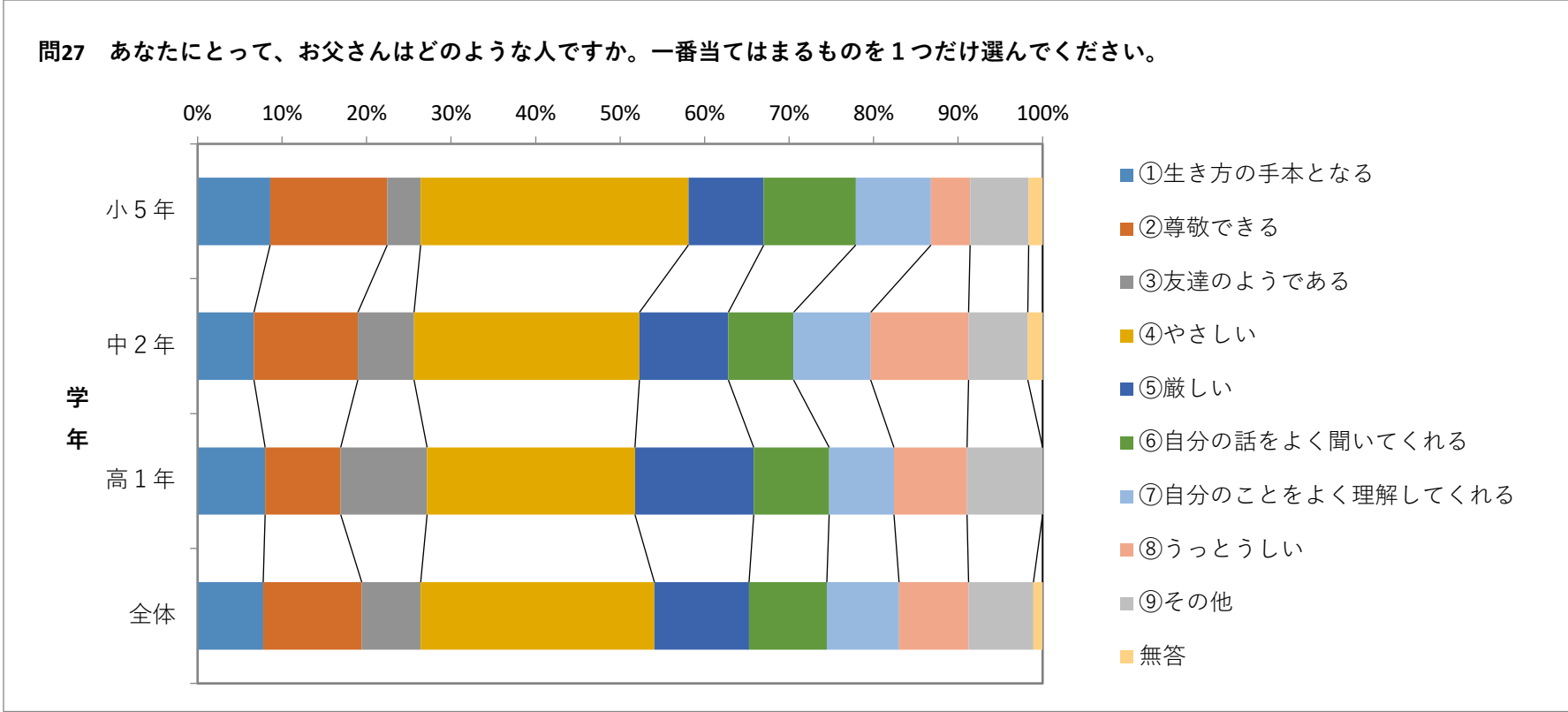
両親から一番注意を受けることとしては、今年度も「勉強のこと」と回答した割合が31％(昨年32％)と最も高くなっている。学年別で見ると小5年22％(昨年23％)、中2年35％(昨年同様)、高1年36％(昨年37％)と、学年が上がるにつれ割合が高くなっている。次に割合が高かったのは「整理整頓」で、全体で22％(昨年21％)おり、その内訳を学年男女別に見てみると小5年男子19％:女子27％、中2年男子15％:女子28％、高1年男子19％:女子23％となっており、「整理整頓」のことで注意されるのはすべての学年で女子の方が多い。3番目に多かったのは「携帯やスマホのこと」で、小5年17％(昨年同様)、中2年22％(昨年19％)、高1年 17％(昨年同様)という割合になっており、スマホの使い方が家庭の中での問題の一つとなっていることがわかる。その他として、「言葉遣い」「兄弟げんか」「態度・表情」「就寝時間」などの記述が複数見られた。

問26 あなたが一番行っているお手伝い(家事)はなんですか。



(単位：%)												
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	9.2	4.6	25.4	14.2	15.8	1.3	1.0	2.3	12.9	9.2	4.0	100.0
中2年	16.1	5.3	27.0	20.0	12.6	0.4	0.0	4.9	7.0	6.3	0.4	100.0
高1年	26.8	4.8	23.3	12.8	13.7	1.0	1.0	3.5	5.4	5.4	2.2	100.0
全体	17.5	4.9	25.2	15.5	14.1	0.9	0.7	3.6	8.4	7.0	2.2	100.0

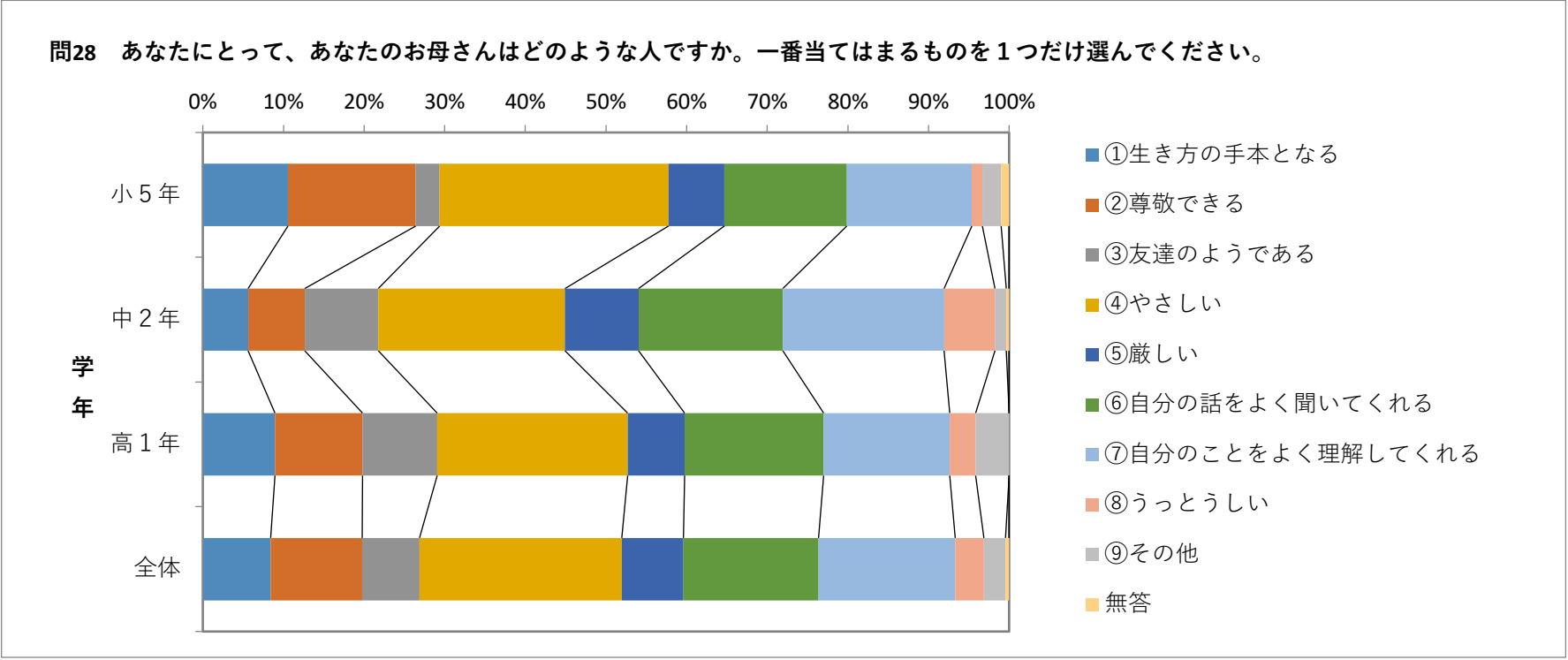
一番行っている手伝い(家事)は、「食事の準備や手伝い」と回答した割合が全体で25％(昨年23％)と最も高かった。男女別で見ると、男子が20％だったのに対し女子は31％と女子の方が11ポイントも高い割合となっている。次いで高かったのは「自分の部屋の掃除」と回答した割合で、全体で18％(昨年20％)で、学年別に見てみると小5年では9％(昨年13％)、中2年では16％(昨年同様)、高1年では27％(昨年31％)と、学年が上がるにつれ割合が高くなっている。3番目に割合が高かった「食事のかたづけ」は16％(昨年同様)で、男子15％女子16％と男女で大きな差はなかった。その他の手伝いとして最も多く記述されていたのは「洗濯関係」で、「兄弟の世話」「犬の散歩」「弁当作り」なども複数見られた。家族の一員として何らかのお手伝いをほとんどの子どもがしていることがわかる。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無答	合計
小5年	8.6	13.9	4.0	31.7	8.9	10.9	8.9	4.6	6.9	1.7	100.0
中2年	6.7	12.3	6.7	26.7	10.5	7.7	9.1	11.6	7.0	1.8	100.0
高1年	8.0	8.9	10.2	24.6	14.1	8.9	7.7	8.6	8.9	0.0	100.0
全体	7.8	11.7	7.0	27.6	11.2	9.2	8.5	8.2	7.7	1.1	100.0

全体で見ると、「やさしい」と答えた割合が28%（昨年同様）と一番高かった。反対に「厳しい」と答えたのは割合は11%（昨年13%）で、男女別でみると女子の9%に対して男子は13%と、わずかではあるが男子の割合の方が高かった。父親をリスペクトし、「尊敬できる」と「生き方の手本となる」と回答した割合を合わせると20%になった。また、「自分の話をよく聞いてくれる」「自分のことをよく理解してくれる」と回答した割合をあわせると18%おり、なかなかゆっくりと話をする機会の少ない父親が、子どもとの会話を大切にしている姿が浮び上がってくる。一方「うっとうしい」と回答した子どもが8%ほどおり、本人と父親の関係改善が望まれる家庭もある。その他には「おもしろい人」「生活を支えてくれる」「よくわからない人」「いじわるな人」などがの記述が見られた。



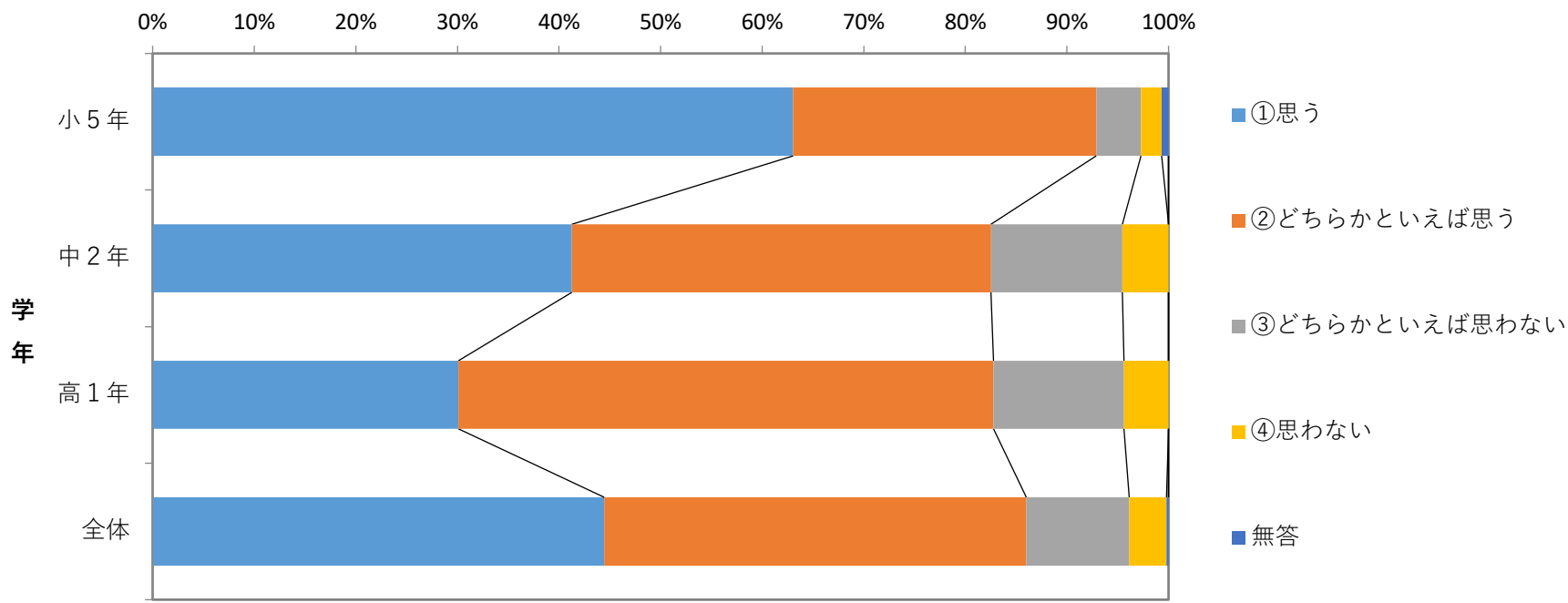
(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無答	合計
小5年	10.6	15.8	3.0	28.4	6.9	15.2	15.5	1.3	2.3	1.0	100.0
中2年	5.6	7.0	9.1	23.2	9.1	17.9	20.0	6.3	1.4	0.4	100.0
高1年	8.9	10.9	9.3	23.6	7.0	17.3	15.7	3.2	4.2	0.0	100.0
全体	8.4	11.3	7.1	25.1	7.7	16.8	17.0	3.6	2.7	0.4	100.0

母親のことを「やさしい」と回答した割合は25%（昨年27%）と父親同様最も多かった。男女別で見ると男子27%（昨年31%）、女子23%（昨年同様）となっており、母親に対してやさしさを感じるのは男子の方が多い。一方女子は「自分のことをよく理解してくれる」「自分の話をよく聞いてくれる」と回答した割合を合計すると37%となり、男子の31%より高い割合となった。母親と一緒に過ごしたり会話したりする時間が多いだけでなく、同性同士で共通の話題も多く話しやすいということも女子の方が割合が高い一つの要因になっていると考えられる。「尊敬できる」「生き方の手本となる」と回答した全体での割合は20%あり、逆に「うっとうしい」と回答した割合は4%にとどまり、多くの子どもたちが母親と良好な関係にあることがわかる。その他で「よくしゃべる人」「大好き」「しっかり面倒をみてくれるいい人」などの記述が見られた。

5 学校や勉強に関すること

問29 先生は、あなたのことをわかってくれていると思いますか。

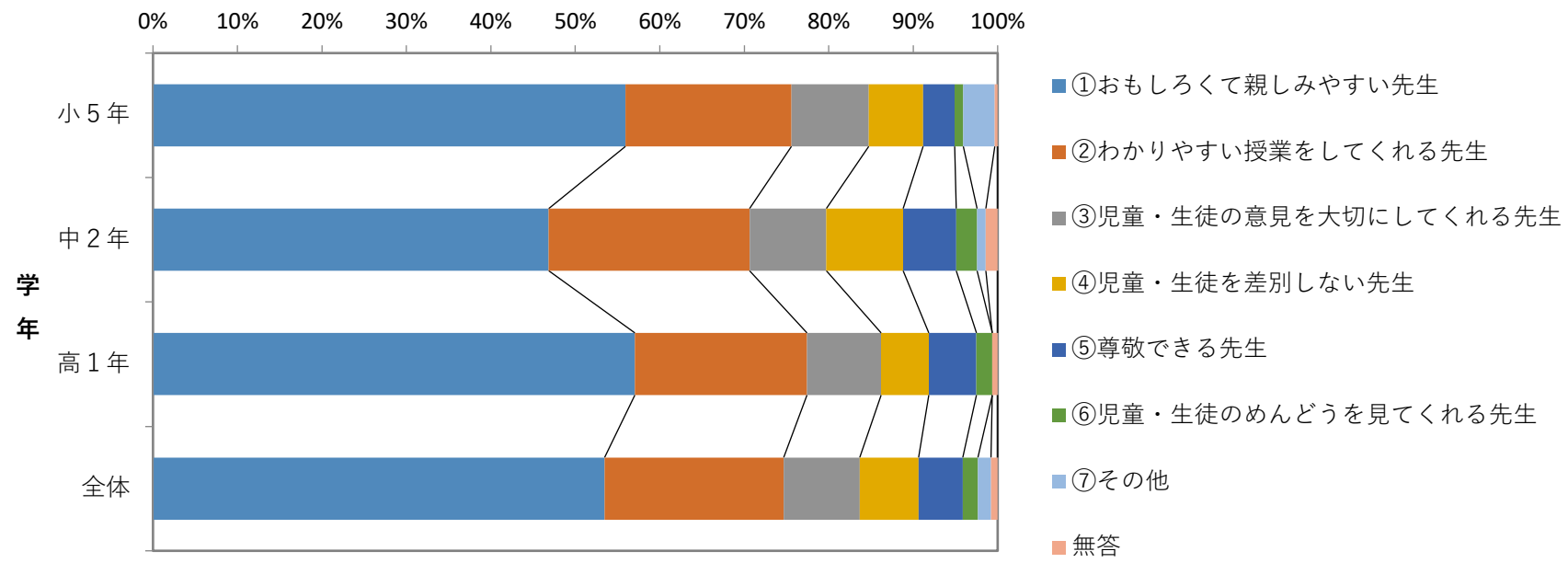


(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	63.1	29.8	4.4	2.0	0.7	100.0
中2年	41.3	41.3	12.9	4.5	0.0	100.0
高1年	30.1	52.7	12.9	4.4	0.0	100.0
全体	44.4	41.6	10.1	3.7	0.2	100.0

先生が自分のことをわかってくれていると「思う」「どちらかといえば思う」と回答した割合は、全体で86%（昨年84%）で、多くの子どもは先生が自分のことを理解してくれていると感じている。その中でも一日中担任と接している小5年が93%（昨年89%）と高い割合を示している。教科担任制が取られ複数の先生と関わる機会が多くなっていく中高生でも、中2年が83%（昨年80%）、高1年が83%（昨年同様）と高い割合を示しており、学年を問わず学校の先生と比較的良好な関係が築けていることがわかる。「どちらかといえば思わない」「思わない」と答えた割合は全体で14%（昨年15%）ほどで、学年別で見ると小5年の割合は6%と比較的少ないのに対して、中2年・高1年は17%と少し多くなった。

問30 どんな先生に一番教えてもらいたいですか。

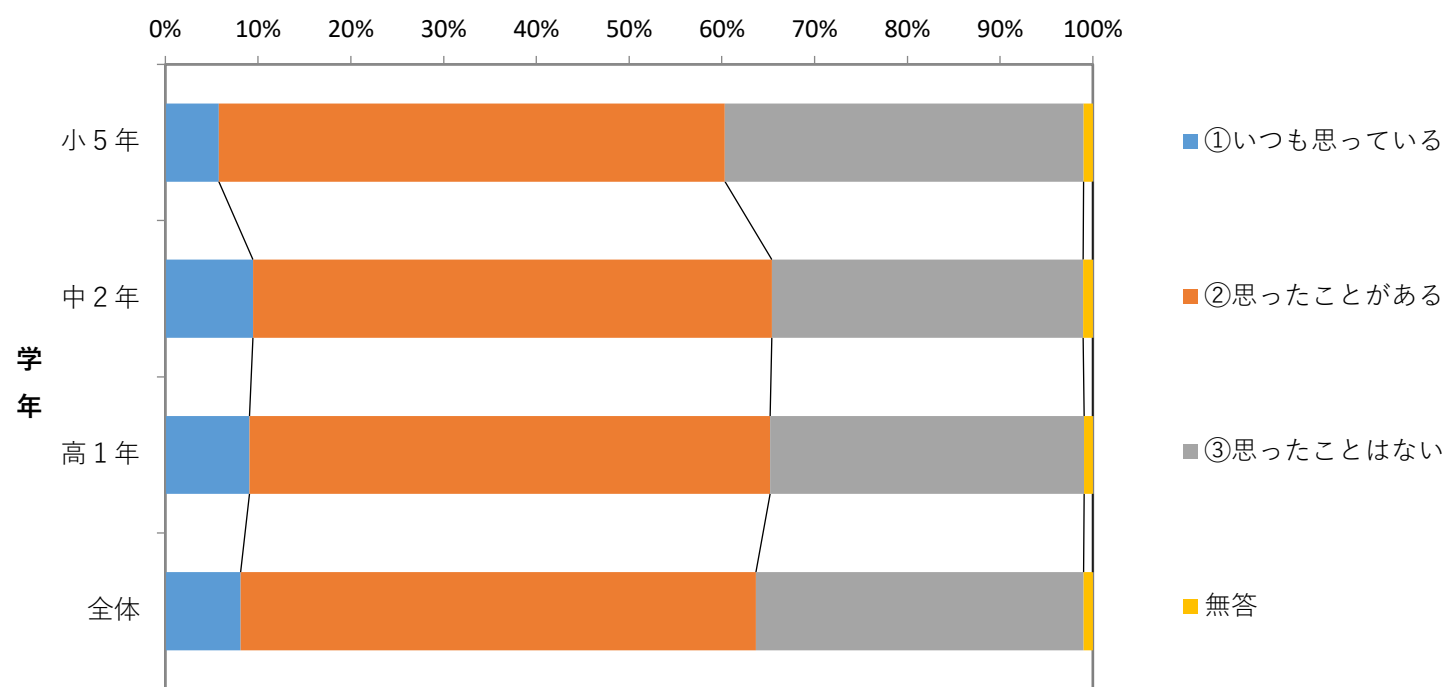


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無答	合計
小5年	55.9	19.7	9.2	6.4	3.7	1.0	3.7	0.3	100.0
中2年	46.9	23.8	9.1	9.1	6.3	2.4	1.0	1.4	100.0
高1年	57.1	20.4	8.8	5.6	5.6	1.9	0.0	0.6	100.0
全体	53.4	21.2	9.0	7.0	5.2	1.8	1.6	0.8	100.0

どんな先生に教えてもらいたいかという問いに対して、「おもしろくて親しみやすい先生」と答えた割合が最も多く、全体の53%（昨年55%）を占めている。次に多かったのが「わかりやすい授業をしてくれる先生」で、その割合は21%（昨年20%）となっている。多くの子どもたちが親しみやすい人柄で、わかりやすい授業をしてくれる先生を望んでいることがわかる。「児童・生徒の意見を大切にしてくれる先生」と回答した割合は9%（昨年11%）、「児童・生徒を差別しない先生」と回答した割合は7%（昨年同様）となっており、昨年度と大きな変化はみられなかった。その他として、「失敗した時怒らず助けてくれる先生」「自分の考えを生徒に押し付けない先生」などの記述が見られた。

問31 学校に行きたくないと思ったことはありますか。

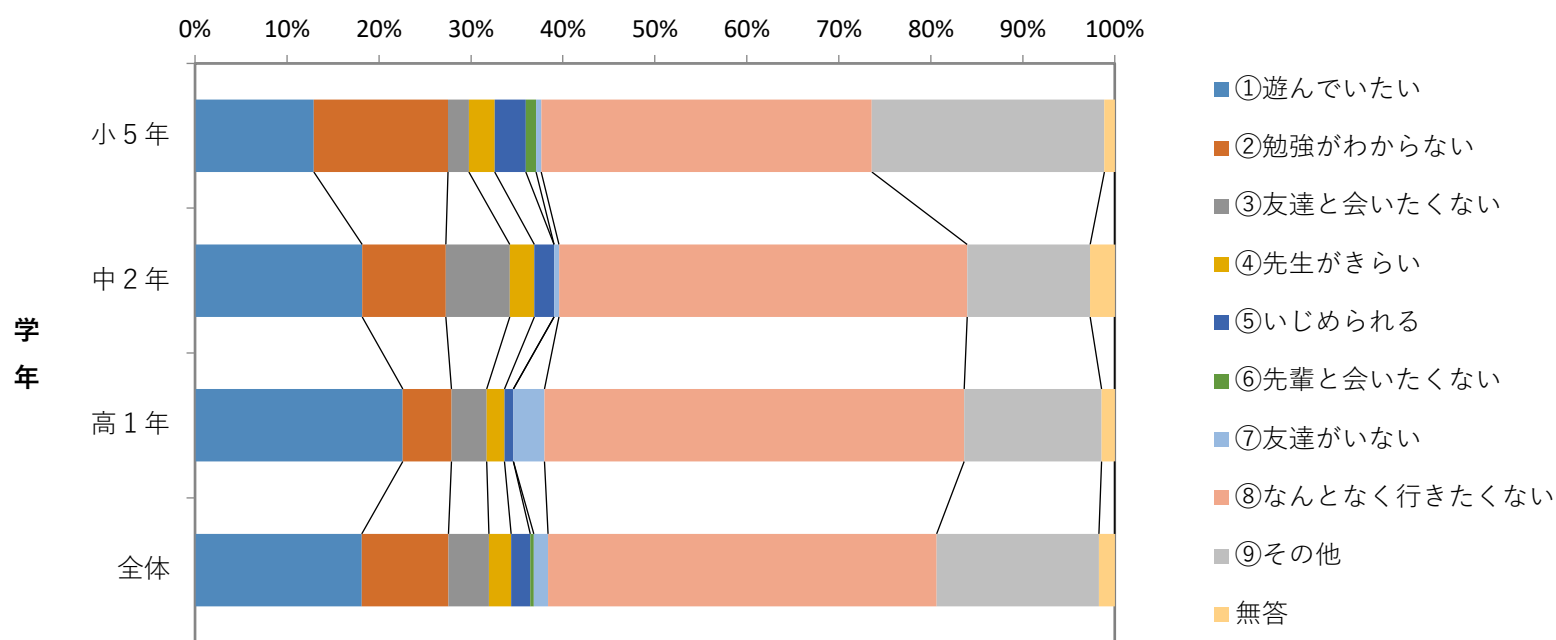


(単位：%)

	①	②	③	無答	合計
小5年	5.8	54.6	38.6	1.0	100.0
中2年	9.4	55.9	33.6	1.0	100.0
高1年	9.1	56.1	33.9	0.9	100.0
全体	8.1	55.6	35.3	1.0	100.0

学校に行きたくないと「いつも思っている」「思ったことがある」と回答した割合は、小5年60% (昨年67%)、中2年65% (昨年62%)、高1年65% (昨年64%)、全体64% (昨年65%)となっており、中2年、高1年で昨年度より増えている。これはコロナ禍前の通常時に行事や部活動をはじめとする全ての活動が戻ったことにより、疲れや負担を感じるようになった子どもが増えていることが一つの要因として考えられる。「いつも思っている」と回答した子どもの割合は8% (昨年9%)と大きな変化はなかったが、オーバーワークにならないように、一人一人の能力や適性に応じた支援や声かけに心がける必要がある。

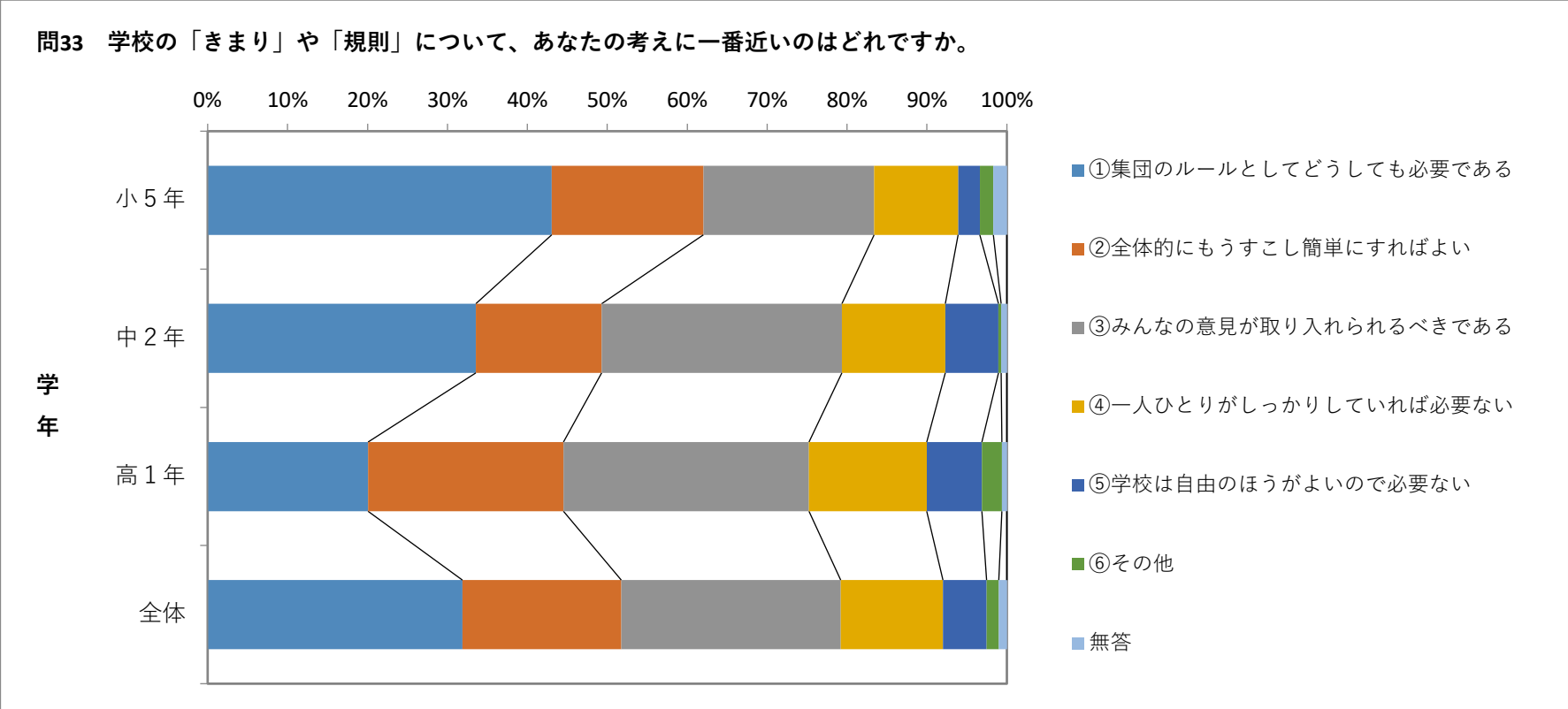
問32 【問31で①②を選んだ、学校に行きたくないと思ったことのある人】学校に行きたくない理由の一番は何ですか。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無答	合計
小5年	12.9	14.6	2.2	2.8	3.4	1.1	0.6	36.0	25.3	1.1	100.0
中2年	18.2	9.1	7.0	2.7	2.1	0.0	0.5	44.4	13.4	2.7	100.0
高1年	22.6	5.3	3.8	1.9	1.0	0.0	3.4	45.7	14.9	1.4	100.0
全体	18.2	9.4	4.4	2.4	2.1	0.3	1.6	42.2	17.6	1.7	100.0

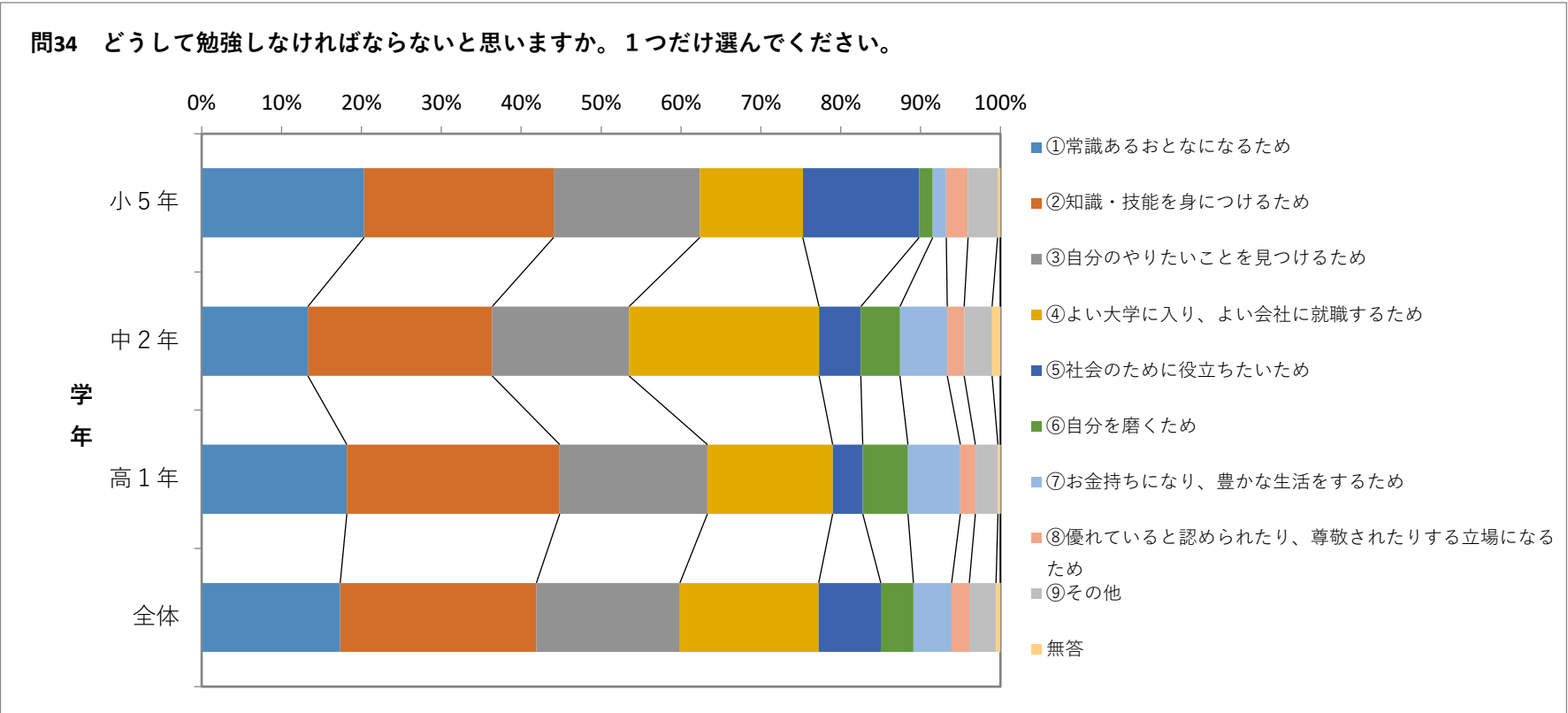
学校に「なんとなく行きたくない」と答えた割合は全体で42% (昨年同様) で、はっきりとした理由なくなんとなく休みたいと思うことはだれにでもあり、ごく自然なことといえる。具体的な理由で最も多かったのは「遊んでいたい」が全体の18% (昨年16%) で、これも誰もが時々思うことである。「勉強がわからない」と回答した9% (昨年同様) の子どもに対しては、各学校での児童・生徒実態をしっかりと把握し、早急に対応していく必要がある。「友達と会いたくない」「先生がきらい」「いじめられる」などの人間関係に関する項目を全て合わせた割合は9% (昨年同様) 程だが、そういった子どもが心地よく生活できる環境を整えていくことが不登校の減少にもつながると考えられる。その他としては、「朝起きることができない」「疲れがたまっている」「嫌いな教科がある」「悪口を言われているか不安」「がんばるのに疲れた」「家から遠い」「課題が終わっていない」「めんどくさい」などの記述が複数あった。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	無答	合計
小5年	43.1	19.0	21.4	10.5	2.7	1.7	1.7	100.0
中2年	33.6	15.7	30.1	12.9	6.6	0.3	0.7	100.0
高1年	20.1	24.5	30.7	14.7	6.9	2.5	0.6	100.0
全体	31.9	19.9	27.4	12.8	5.4	1.6	1.0	100.0

学校の「きまり」や「規則」について、「集団のルールとしてどうしても必要である」と回答した割合が32%と最も高く、「みんなの意見が取り入れられるべきである」と回答した割合が27% (昨年29%) となっている。学校の「きまり」や「校則」についての考え方に多少の変化はあるものの、小牧市の子どもたちの多くは、みんなで気持ちよく学校生活を送ったり、様々な活動を円滑に進めたりするためにある程度の「きまり」や「規則」は必要であると考えている子どもが多い。その他として「必要なものとそうでないものがある」「時代に合わせて少しずつ変えていくべき」「自由はもう少し欲しいが、信用できなくなるので簡単に変えないでほしい」「必要か否かではなく、どれほど校則に従順であるかが重視されるのが問題」「まずきまりを守ったうえで必要なことを変えていく」などの記述があった。

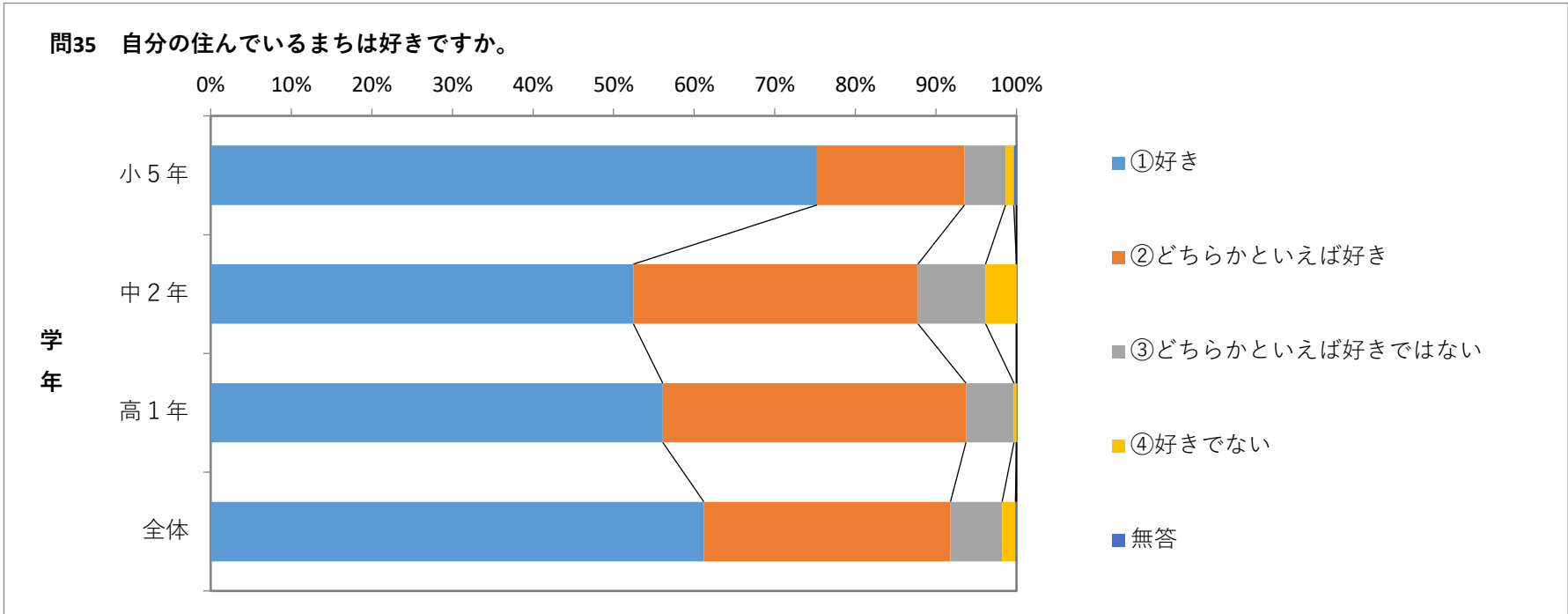


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無答	合計
小5年	20.3	23.7	18.3	12.9	14.6	1.7	1.7	2.7	3.7	0.3	100.0
中2年	13.3	23.1	17.1	23.8	5.2	4.9	5.9	2.1	3.5	1.0	100.0
高1年	18.2	26.6	18.5	15.7	3.8	5.6	6.6	1.9	2.8	0.3	100.0
全体	17.3	24.6	18.0	17.3	7.8	4.1	4.8	2.2	3.3	0.6	100.0

どうして勉強しなければならないと思うかという問いに対して、今年度も「知識・技能を身につけるため」と答えた割合が、全体で 25%と最も高かった。続いて割合が高かったのは「自分のやりたいことを見つけるため」18% (昨年19%)、「常識あるおとなになるため」17% (昨年16%)、「よい大学に入り、よい会社に就職するため」17% (昨年19%) という順になっており、勉強が将来社会人として自立し豊かな生活を送るために必要なものであると考えていることがわかる。近年経済格差による様々な問題がよく話題になっているが、「お金持ちになり、豊かな生活をするため」と回答する割合は5% (昨年同様) 程しかいなかった。「社会のために役立ちたいため」と回答した割合は、全体で8%程で、学年別では小5年15%、中2年が5%、高1年が4%と学年が上がるほど低い割合となった。その他には、「自分のやりたい夢をかなえるため」「様々な視点を持ち自分の人生をよりよくするため」「努力することができるようになるため」などの記述が見られた。

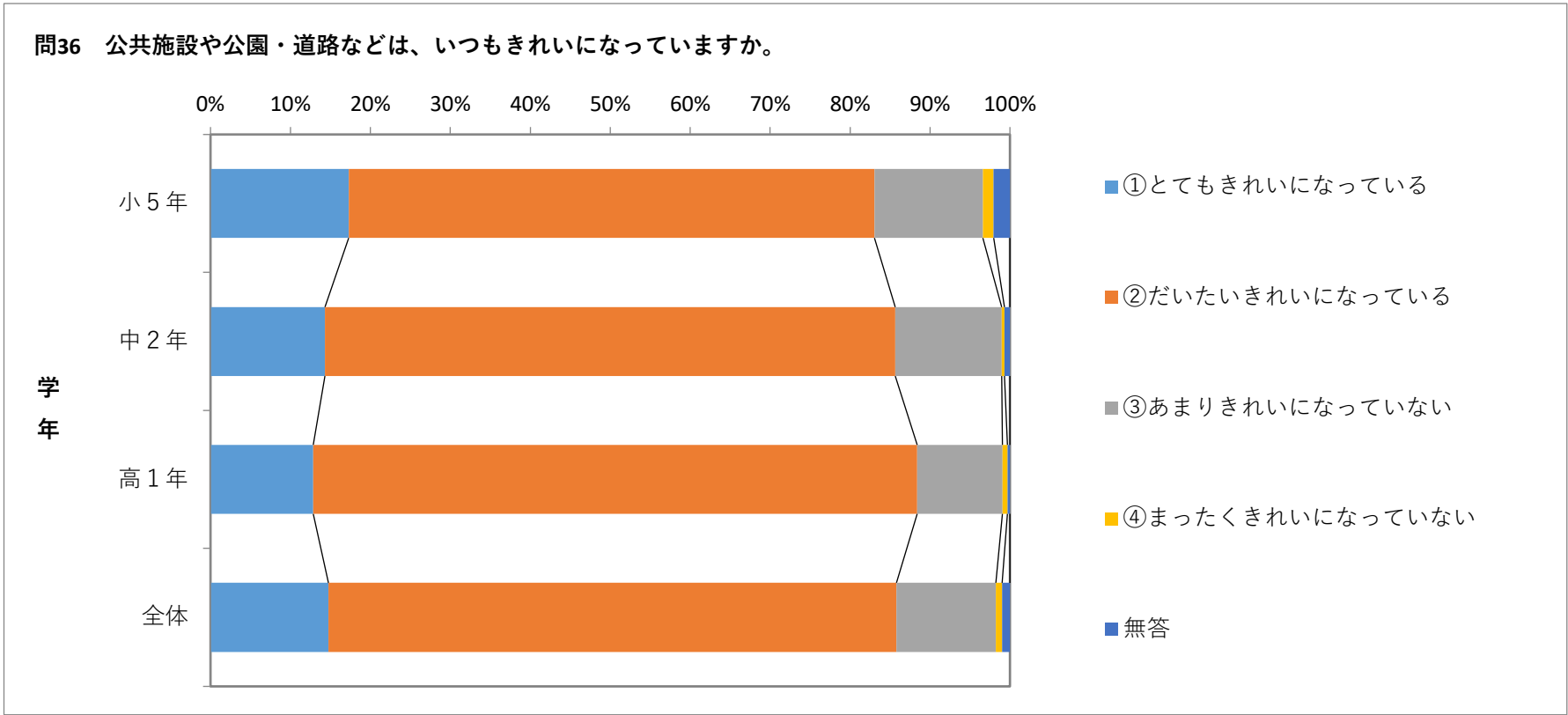
6 地域に関すること



(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	75.3	18.3	5.1	1.0	0.3	100.0
中2年	52.4	35.3	8.4	3.8	0.0	100.0
高1年	56.1	37.6	6.0	0.3	0.0	100.0
全体	61.2	30.6	6.4	1.7	0.1	100.0

自分の住んでいるまちが「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合92%（昨年94%）となり、昨年度より若干減少したものの子どもたちの自分が住んでいるまち（地域）への満足度は高くなっている。その中でも地域で過ごす時間が多くお祭りなどの地域行事に参加する機会の多い小5年は「好き」と回答した割合が75%と中2年の52%、高1年の56%に比べて非常に高くなっている。一方「どちらかという好きでない」「好きでない」と回答した割合が全体で8%（昨年6%）と少数ながらいたので、今後も子どもたちにとって魅力ある街づくりを計画的に進めていく必要がある。

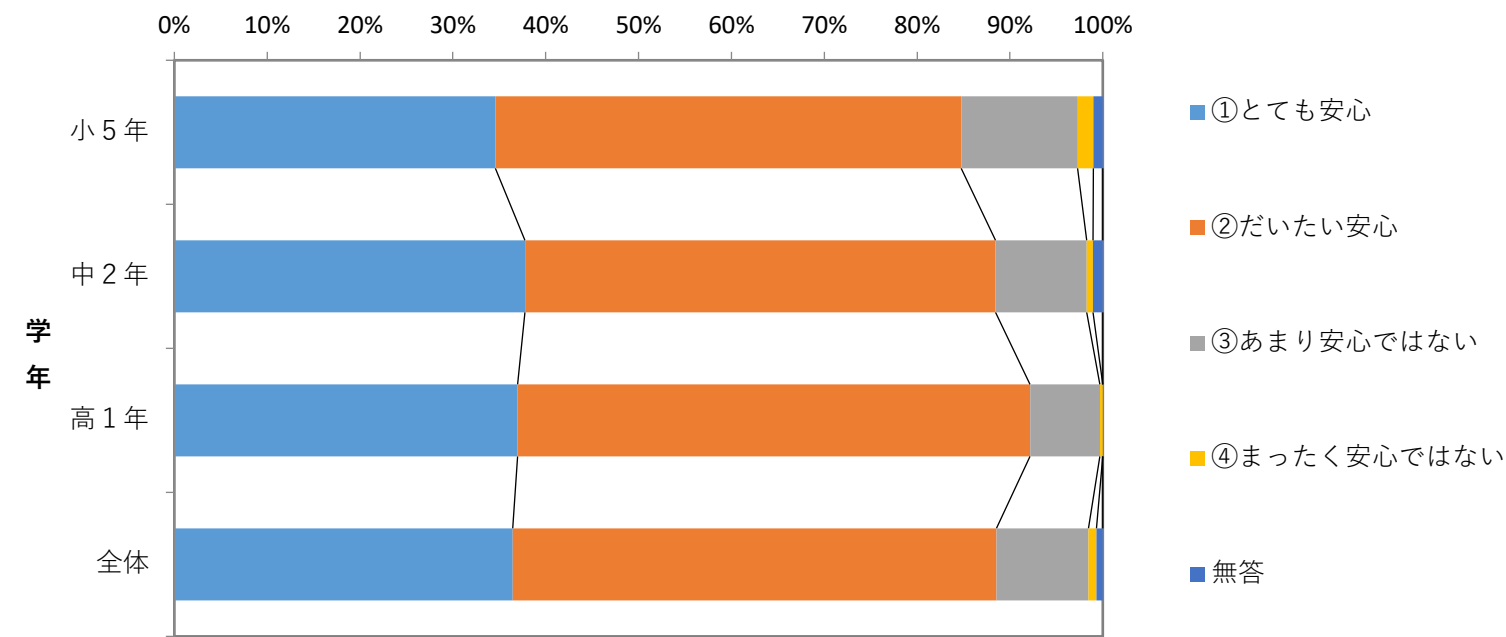


(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	17.3	65.8	13.6	1.4	2.0	100.0
中2年	14.3	71.3	13.3	0.3	0.7	100.0
高1年	12.9	75.5	10.7	0.6	0.3	100.0
全体	14.8	71.0	12.4	0.8	1.0	100.0

自分たちのまわりの公民館や公園・道路などを「とてもきれいになっている」「だいたいきれいになっている」と感じている子どもの割合は全体で86%（昨年82%）となり、多くの子どもたちが自分たちのまわりの施設や道路などの整備や清掃が行き届いていると感じている。一方「あまりきれいになっていない」「まったくきれいになっていない」と答えた割合は全体で13%（昨年17%）で、学年別にみると小5年15%（昨年22%）、中2年14%（昨年同様）、高1年11%（昨年14%）となっており、地域の公民館や公園などをよく利用し、実際にきれいになっていないと感じる施設や道路を見る機会が多い小5年と中2年の割合が高1年に比べて高かった。公園や道路の清掃・整備状況が改善されたためか、小学生が昨年度より7ポイント大きく減少したのをはじめ、全体としても4ポイント減少している。

問37 いつでもどこでも安心して外出することができますか。

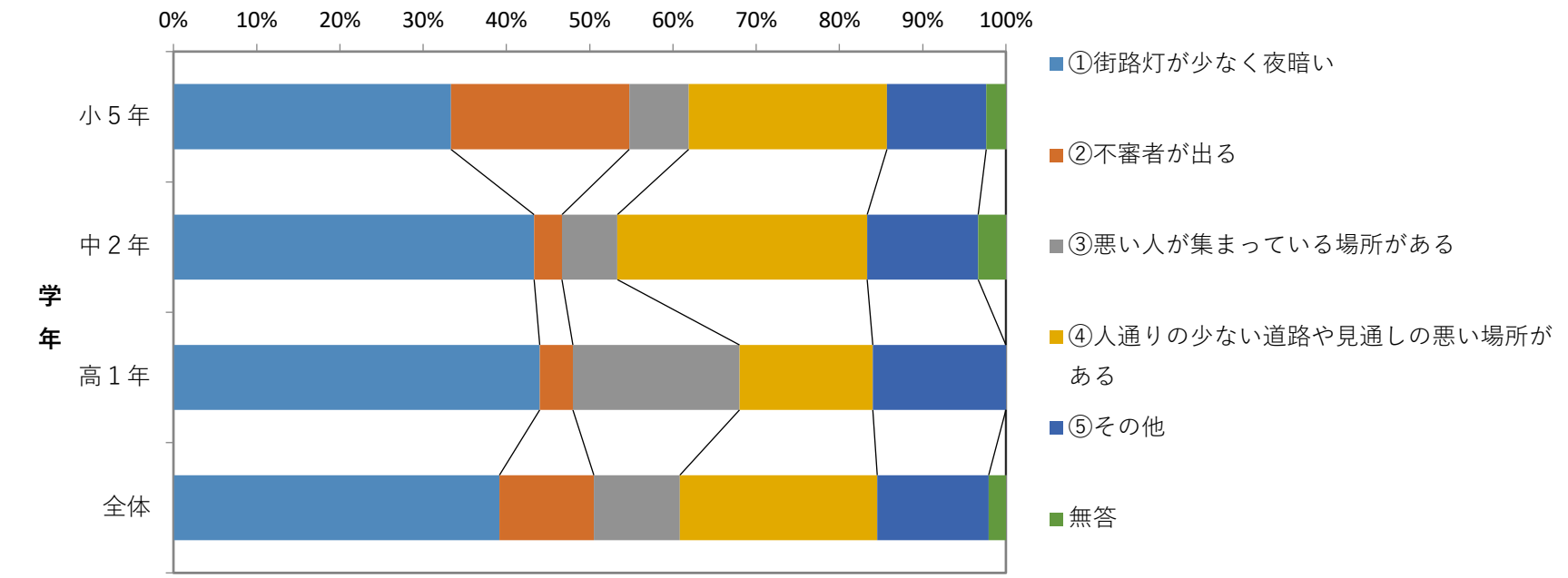


(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	34.6	50.2	12.5	1.7	1.0	100.0
中2年	37.8	50.7	9.8	0.7	1.0	100.0
高1年	37.0	55.2	7.5	0.3	0.0	100.0
全体	36.4	52.1	9.9	0.9	0.7	100.0

外出に対して、「とても安心」「だいたい安心」と回答した割合は全体で89％(昨年86％)と昨年度よりわずかに増加し、多くの子どもたちが地域で安心して生活できていることがわかる。一方「あまり安心ではない」「まったく安心ではない」と答えた子どもは昨年度の13％から11％に若干減少したものの、学年男女別でみると、小5年14％[男子10％:女子18％]、中2年11％[男子9％:女子12％]、高1年8％[男子6％:女子10％]となっており、女子の方がどの学年も割合が高く、その中でも小5年女子の割合が18％と高くなっている。様々な理由で外出に対して強い不安感や警戒感を持っている子どもたちが一定程度いることがわかる。

問38 【問37で③④を選んだ人】安心して外出することができない理由の一番はなんですか。

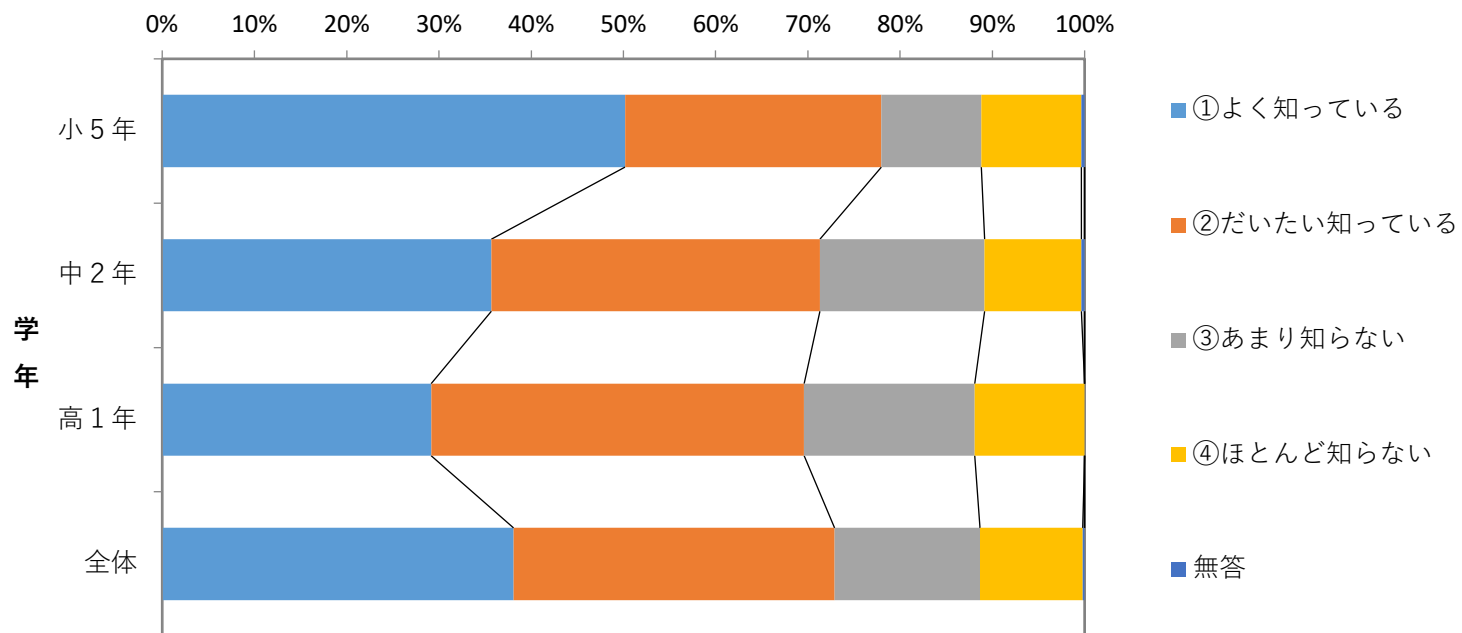


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	無答	合計
小5年	33.3	21.4	7.1	23.8	11.9	2.4	100.0
中2年	43.3	3.3	6.7	30.0	13.3	3.3	100.0
高1年	44.0	4.0	20.0	16.0	16.0	0.0	100.0
全体	39.2	11.3	10.3	23.7	13.4	2.1	100.0

安心して外出できない理由として多かったのは、「街路灯が少なく夜暗い」と回答した割合で39％(昨年40％)となっており、その中で学校や外出時の帰宅時間が日没後になることが多い中2年が43％(昨年56％)、高1年の割合が44％(昨年39％)と高かった。今年度2番目に多かったのは、「人通りの少ない道路や見通しの悪い場所がある」で、全体で24％(昨年20％)と昨年度より増加している。「不審者が出る」と回答した割合は全体で11％(昨年10％)となっているが、その中で小5年の割合が21％と特に高かった。「悪い人が集まっている」と回答した割合も学年間で大きな差があり、20％と最も高かった高1に対して小5年・中2年は7％だった。これは高1年の行動範囲や行動時間の拡大により、見かける機会が増えているからだと考えられる。

問39 隣に住んでいる人を知っていますか。

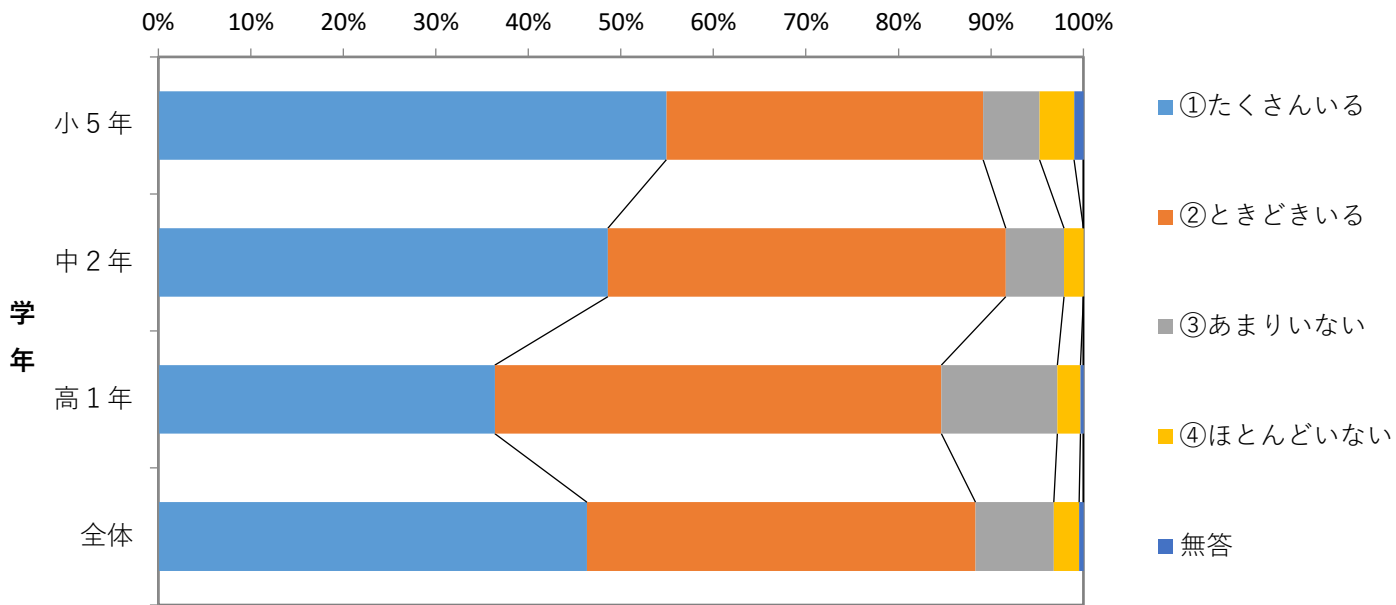


(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	50.2	27.8	10.8	10.8	0.3	100.0
中2年	35.7	35.7	17.8	10.5	0.3	100.0
高1年	29.2	40.4	18.5	11.9	0.0	100.0
全体	38.1	34.8	15.8	11.1	0.2	100.0

隣に住んでいる人を「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は全体で73% (昨年76%) で、学年別でみると小5年78% (昨年81%)、中2年71% (昨年同様)、高1年70% (昨年74%) となっており、近隣地域で活動する機会の多い小学生の割合が高かった。「あまり知らない」「ほとんど知らない」と答えた全体の割合は27% (昨年24%) で、学年別に見ると小5年22% (昨年19%)、中2年28% (昨年29%)、高1年30% (昨年26%) となっている。その中で「ほとんど知らない」と回答した割合が全体で 11% と昨年度の9%からわずか2ポイントではあるが増加しているのが気になった。隣近所と関わることなく、孤立していく家庭が増えていくことが心配される。

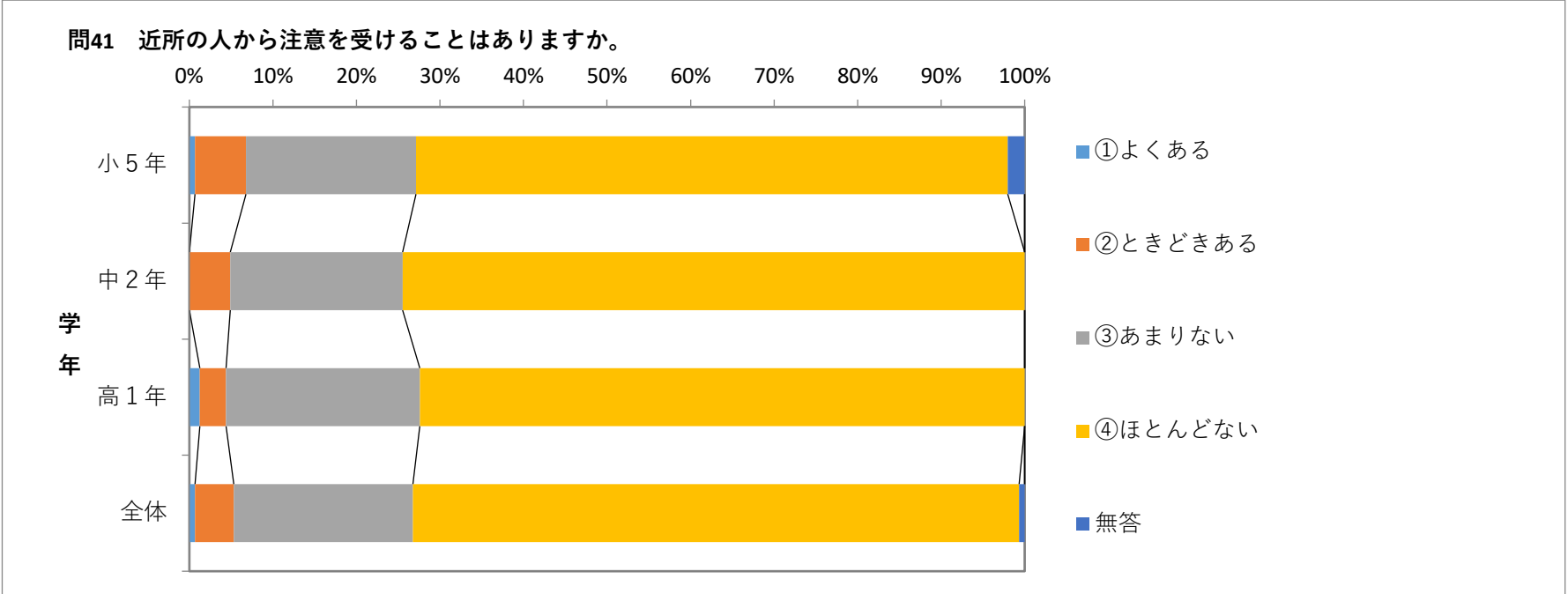
問40 あなたにいつも「おはよう」「こんにちは」などと声をかけてくれる人はいますか。



(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	54.9	34.2	6.1	3.7	1.0	100.0
中2年	48.6	43.0	6.3	2.1	0.0	100.0
高1年	36.4	48.3	12.5	2.5	0.3	100.0
全体	46.3	42.0	8.4	2.8	0.4	100.0

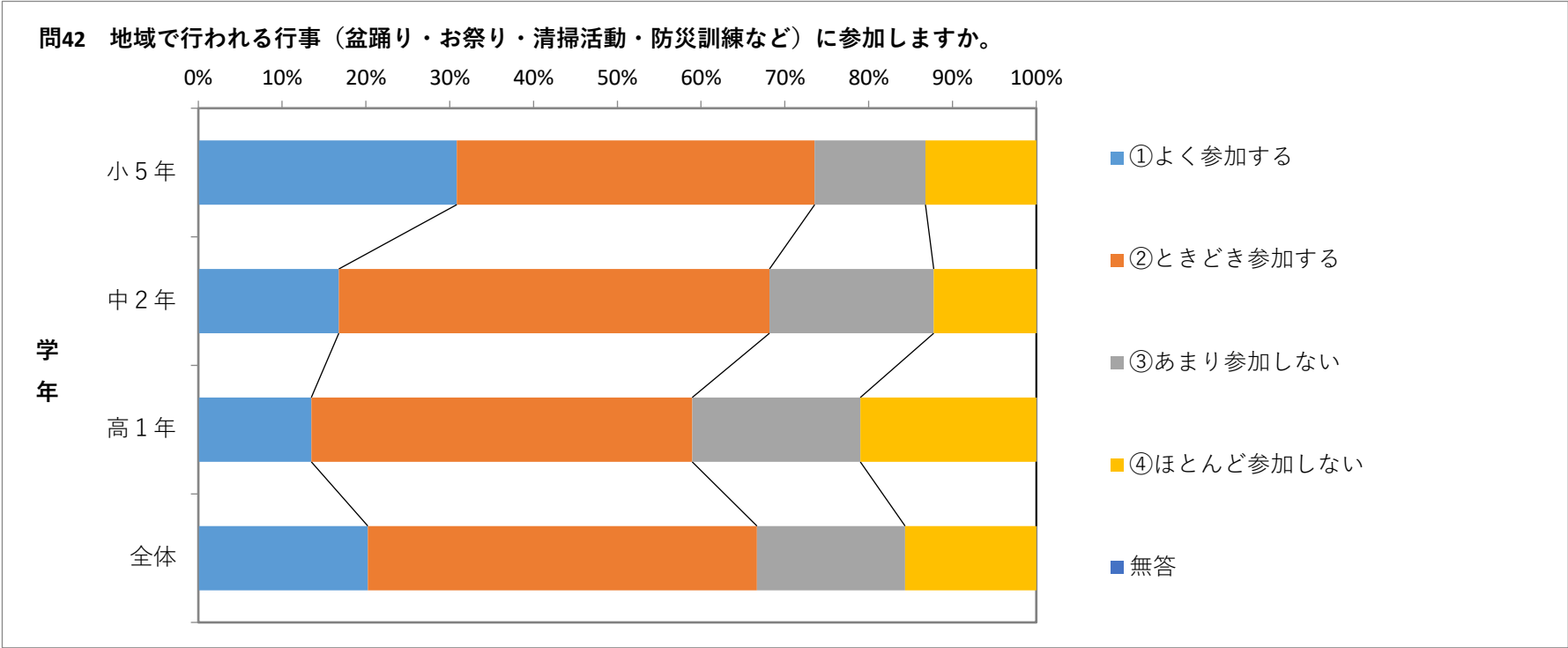
声かけをしてくれる人が「たくさんいる」と答えた全体の割合は46% (昨年43%) で、「ときどきいる」と答えた42% (昨年45%) と合わせると88% (昨年同様) となり、多くの子どもたちがあいさつなどの声かけをしてくれる大人たちに見守られていることがわかる。学年別で「たくさんいる」と回答した割合は小5年55% (昨年46%)、中2年49% (昨年44%)、高1年36% (昨年40%) とどの学年も高い割合を示しており、これはあいさつ運動や通学路での見守り活動に多くの地域の方々が参加し、子どもたちへの温かい声かけを続けている成果といえる。一方「ほとんどいない」と回答する子どもも3% (昨年4%) とわずかではあるが毎年いるので、そういった子どもを一人でも減らしていけるよう、あいさつ運動を中心とした人と人との心を結ぶ活動をさらに継続・充実させていく必要がある。



(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	0.7	6.1	20.3	70.8	2.0	100.0
中2年	0.0	4.9	20.6	74.5	0.0	100.0
高1年	1.3	3.1	23.2	72.4	0.0	100.0
全体	0.7	4.7	21.4	72.6	0.7	100.0

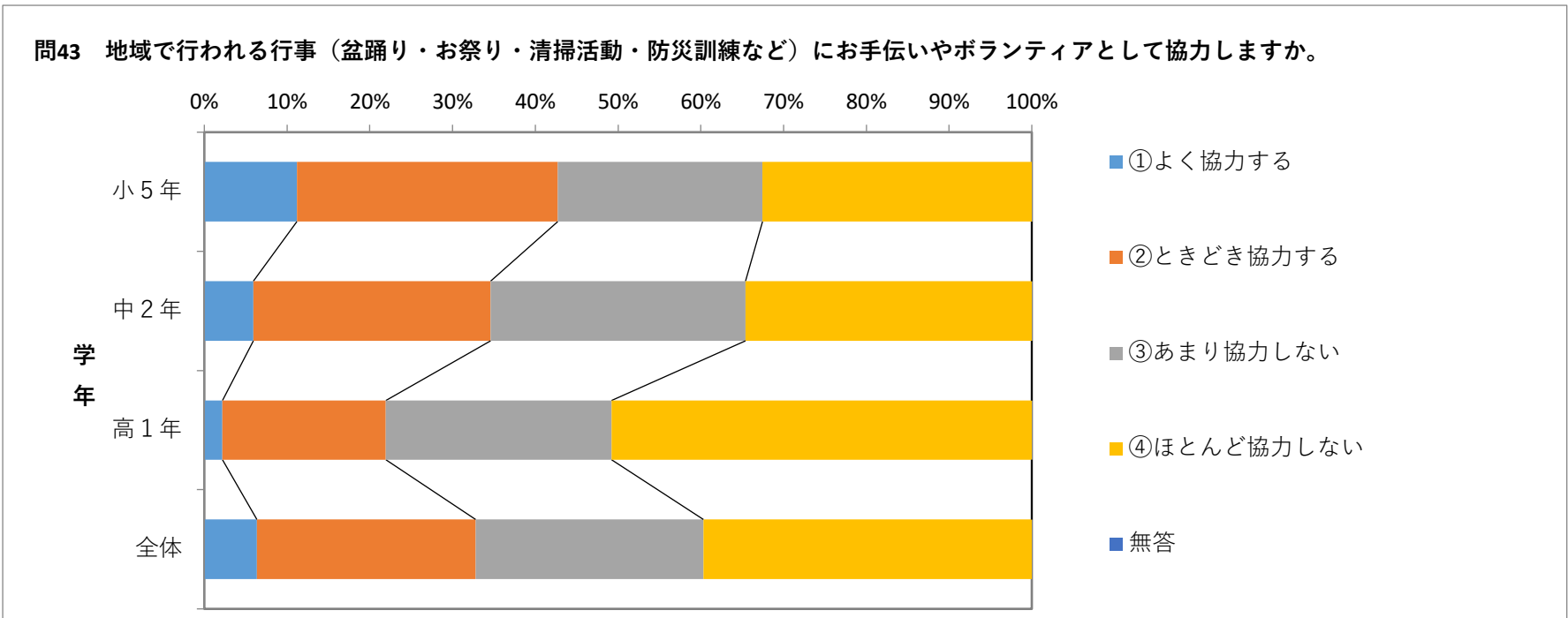
近所の人から注意を受けることが「あまりない」「ほとんどない」と答えた子どもの割合は今年度も94%（昨年93%）と非常に高い割合を示し、その中で注意を受けたことが「ほとんどない」と回答した割合を学年別に見てみると、小5年71%、中2年75%、高1年72%となっている。注意されることが「よくある」「ときどきある」を合わせてもわずか5%（昨年同様）ほどにとどまり、この結果は地域の大人が近所の子どもを注意することがほとんどないことを表している。不用意に子どもたちを注意したことがトラブルの原因となることも多くなっているため、他人の子どもを注意しにくいかもしれないが、子どもたちに善悪の判断ができるように教え諭していくのは大人たちの責任でもある。大人たちが子どもに注意することを躊躇する雰囲気や、社会全体で変えていかなければならない。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	合計
小5年	30.8	42.7	13.2	13.2	0.0	100.0
中2年	16.8	51.4	19.6	12.2	0.0	100.0
高1年	13.5	45.5	20.1	21.0	0.0	100.0
全体	20.2	46.4	17.7	15.7	0.0	100.0

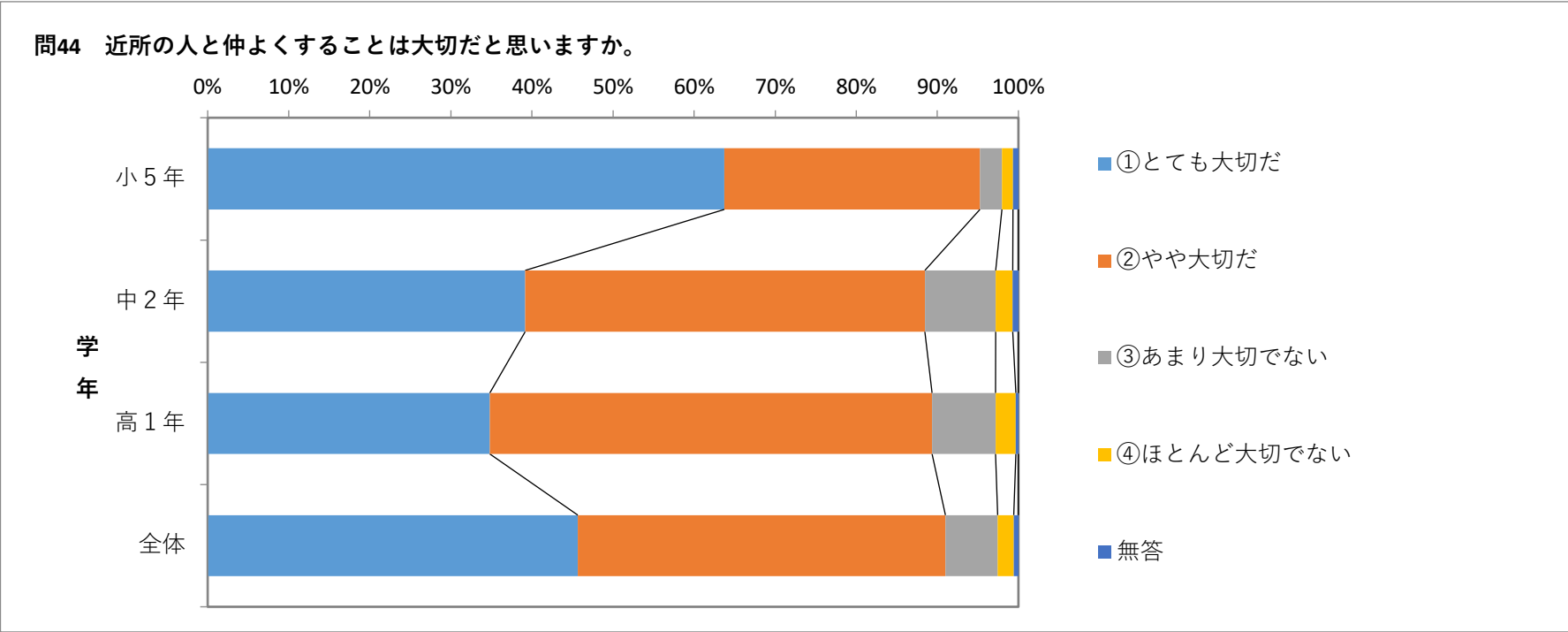
地域の行事に「よく参加する」と回答したのは全体で20%（昨年23%）、学年別では小5年31%（昨年32%）、中2年17%（昨年20%）、高1年14%（昨年17%）という割合となっており、地域の行事がほぼコロナ禍前と同じように行われるようになったにもかかわらずすべての学年で減少している。「ほとんど参加しない」と回答した割合は全体で16%（昨年同様）、学年別では小5年13%、中2年12%、高1年21%となっており、特に高1年で、地域行事への参加率が低いことがわかる。地域の絆を深めるために、より幅広い年齢の子どもたちが今まで以上に参加したいと思えるような、魅力ある地域行事にしていく必要がある。



(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	11.2	31.5	24.7	32.5	0.0	100.0
中2年	5.9	28.7	30.8	34.6	0.0	100.0
高1年	2.2	19.7	27.3	50.8	0.0	100.0
全体	6.3	26.4	27.6	39.7	0.0	100.0

地域で行われる行事にお手伝いやボランティアとして企画や運営に参加しているかどうかという設問に対し、「よく協力する」「ときどき協力する」と回答した割合は33%（昨年31%）で昨年度より増加した。学年別では小5年が43%（昨年34%）、中2年は35%（昨年33%）、高1年は22%（昨年27%）となっており、高1年の減少が目立った。「ほとんど協力しない」と回答した割合は全体で40%（昨年43%）とわずかに減少したが、学年別で見ると小5年33%（昨年41%）、中2年35%（昨年43%）、高1年51%（昨年44%）となっており、高1年の半数が協力していないことがわかる。高校生になると部活動、行動範囲の拡大、休日の過ごし方など、小・中学生の時とは生活スタイルが大きく変化することが影響していると考えられるが、ボランティア・お手伝いとして参加する意識を中学生のジュニア奉仕団や高校生のココボラ等を中心に高めていきたい。

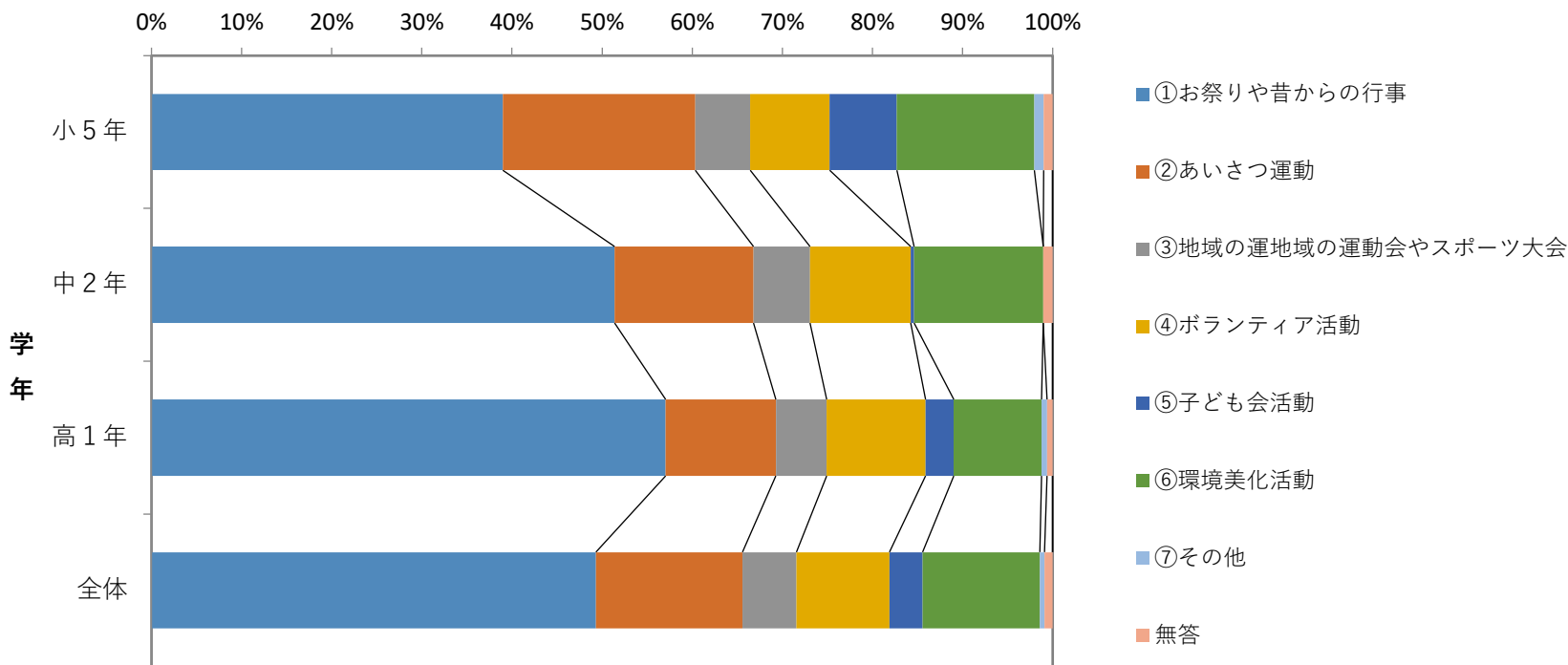


(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	63.7	31.5	2.7	1.4	0.7	100.0
中2年	39.2	49.3	8.7	2.1	0.7	100.0
高1年	34.8	54.5	7.8	2.5	0.3	100.0
全体	45.7	45.3	6.4	2.0	0.6	100.0

近所の人と仲よくすることを「とても大切だ」「やや大切だ」と答えた割合を合わせると91%（昨年92%）となり、ほとんどの子どもたちが、近所の人と円滑な人間関係を築いていくことの大切さを感じている。男女別でも、男子の91%（昨年92%）、女子も91%（昨年92%）と、今年度も男女による大きな意識の違いは見られなかった。その中で「とても大切だ」と回答した割合が高かったのは、近隣地域が生活基盤となっている小学生の64%で、昨年度の59%から5ポイント増加している。一方「ほとんど大切でない」と回答した子どもが2%ほどおり、その中には家庭や本人へのサポートを必要としている子どもがいる可能性もある。近所の人とのコミュニケーションを積極的にとることによって良好な関係性を築くことができるよう支援していく必要がある。

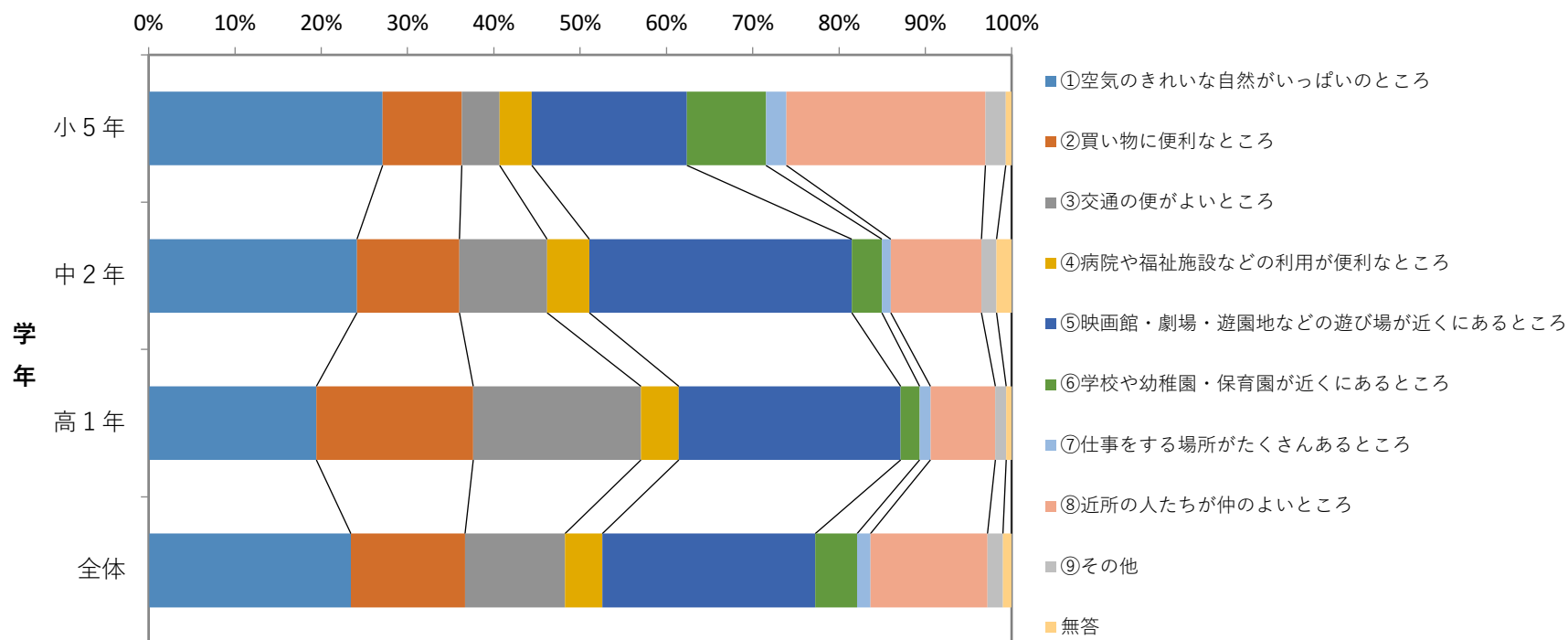
問45 地域をよくするために、一番大切にしたい活動はなんですか。



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無答	合計
小5年	39.0	21.4	6.1	8.8	7.5	15.3	1.0	1.0	100.0
中2年	51.4	15.4	6.3	11.2	0.3	14.3	0.0	1.0	100.0
高1年	57.1	12.2	5.6	11.0	3.1	9.7	0.6	0.6	100.0
全体	49.3	16.2	6.0	10.3	3.7	13.0	0.6	0.9	100.0

地域をよくするために一番大切にしたい活動として、「お祭りや昔からの行事」と回答した割合が49％(昨年同様)と最も高かった。内訳を学年別に見てみると小5年が39％(昨年34％)だったのに対し、中2年が51％(昨年同様)、高1年が57％(昨年61％)となっており、小学生のころに比べると地域の行事になかなか参加できない中高生の割合が高くなっている。子どもたちにとって地域の「お祭りや昔からの行事」が、いつまでも思い出に残る特別なものになっていることが、今年度の地域の夏祭りや盆踊り、市民祭りなどの賑わいなどからもわかる。2番目に多かったのは「あいさつ運動」の16％(昨年18％)で、3番目に多かったのは「環境美化活動」の13％(昨年11％)だった。

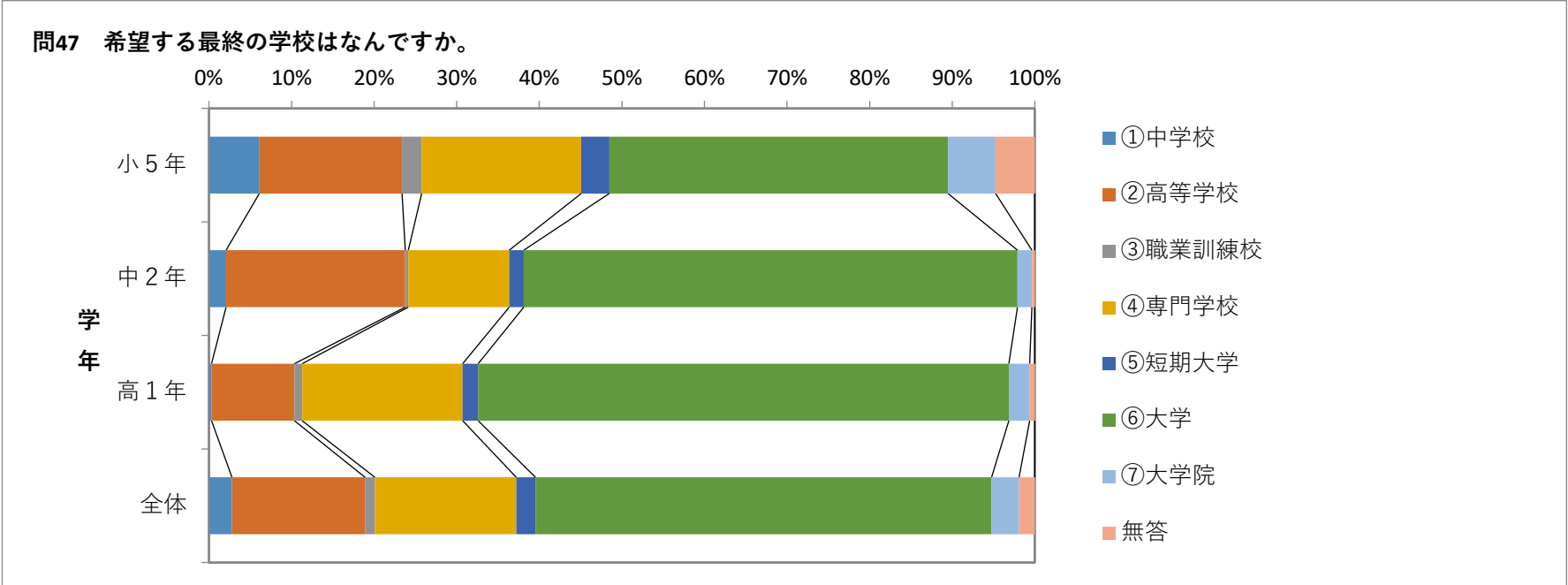
問46 あなたは、どんなところに一番住みたいですか。



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無答	合計
小5年	27.1	9.2	4.4	3.7	18.0	9.2	2.4	23.1	2.4	0.7	100.0
中2年	24.1	11.9	10.1	4.9	30.4	3.5	1.0	10.5	1.7	1.7	100.0
高1年	19.4	18.2	19.4	4.4	25.7	2.2	1.3	7.5	1.3	0.6	100.0
全体	23.4	13.2	11.6	4.3	24.7	4.9	1.6	13.6	1.8	1.0	100.0

「映画館・劇場・遊園地などの遊び場が近くにあるところ」に住みたいと答えた割合が25％(昨年24％)と最も多く、内訳を学年別で見ると、小5年18％(昨年同様)、中2年30％(昨年29％)、高1年26％(昨年同様)となっており、中高生は自分たちが楽しめる施設が近くにあることを望む傾向にある。次に多かったのは「空気のきれいな自然がいっぱいのところ」の割合で、全体で23％(昨年26％)、学年別では小5年27％(昨年35％)、中2年24％(昨年23％)、高1年19％(昨年21％)となっており、小学生が最も自然を重視する傾向にある。3番目に多かったのは「近所の人たちの仲の良いところ」で、これも学年差が大きく、生活圏が自分が住んでいる地域が中心の小5年の23％(昨年19％)に対して、中2年11％(昨年9％)、高1年8％(昨年9％)と大きな差があった。行動範囲が広がる中高生は、生活の利便性を重視する傾向にある。

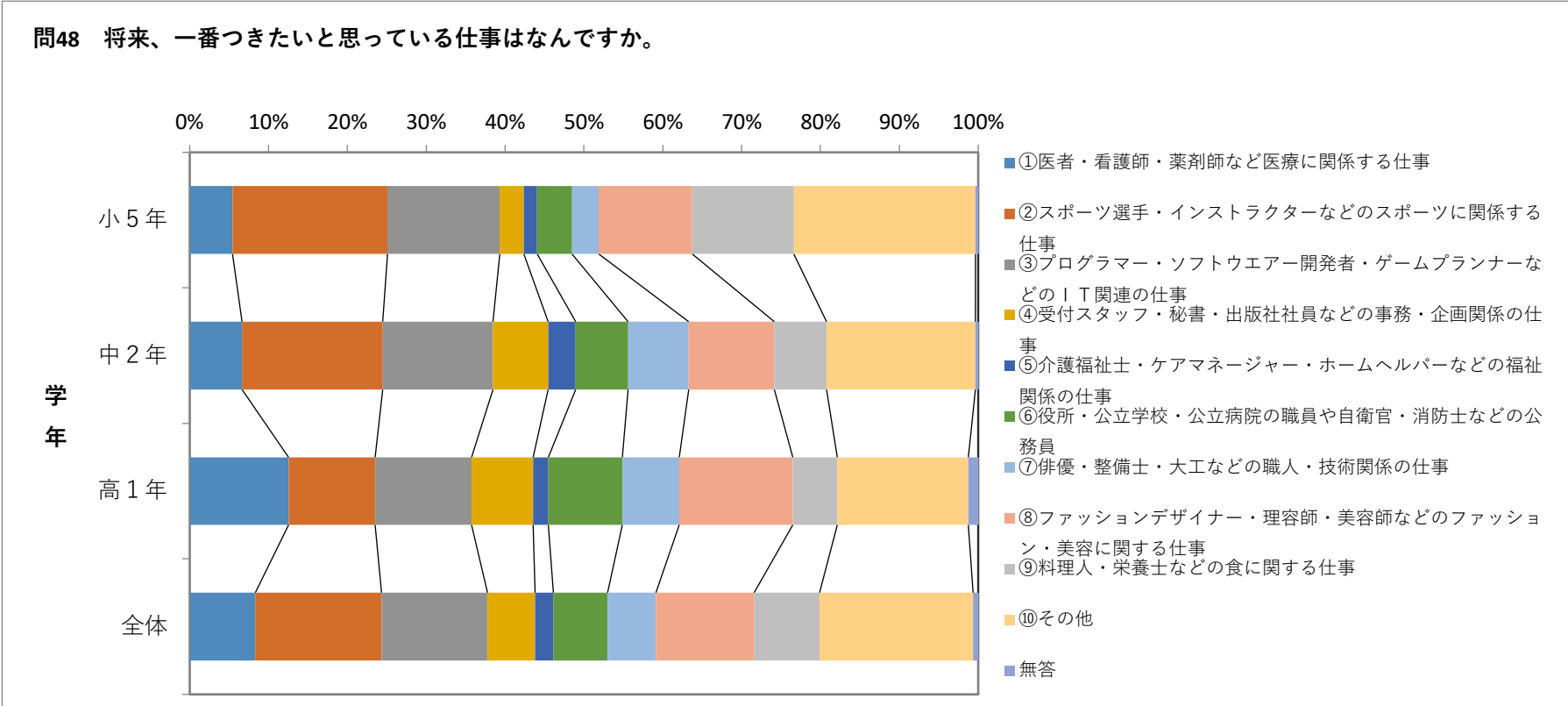
7 将来に関すること



(単位：％)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無答	合計
小5年	6.1	17.3	2.4	19.3	3.4	41.0	5.8	4.7	100.0
中2年	2.1	21.7	0.3	12.2	1.7	59.8	1.7	0.3	100.0
高1年	0.3	10.0	0.9	19.4	1.9	64.3	2.5	0.6	100.0
全体	2.8	16.1	1.2	17.1	2.3	55.2	3.3	1.9	100.0

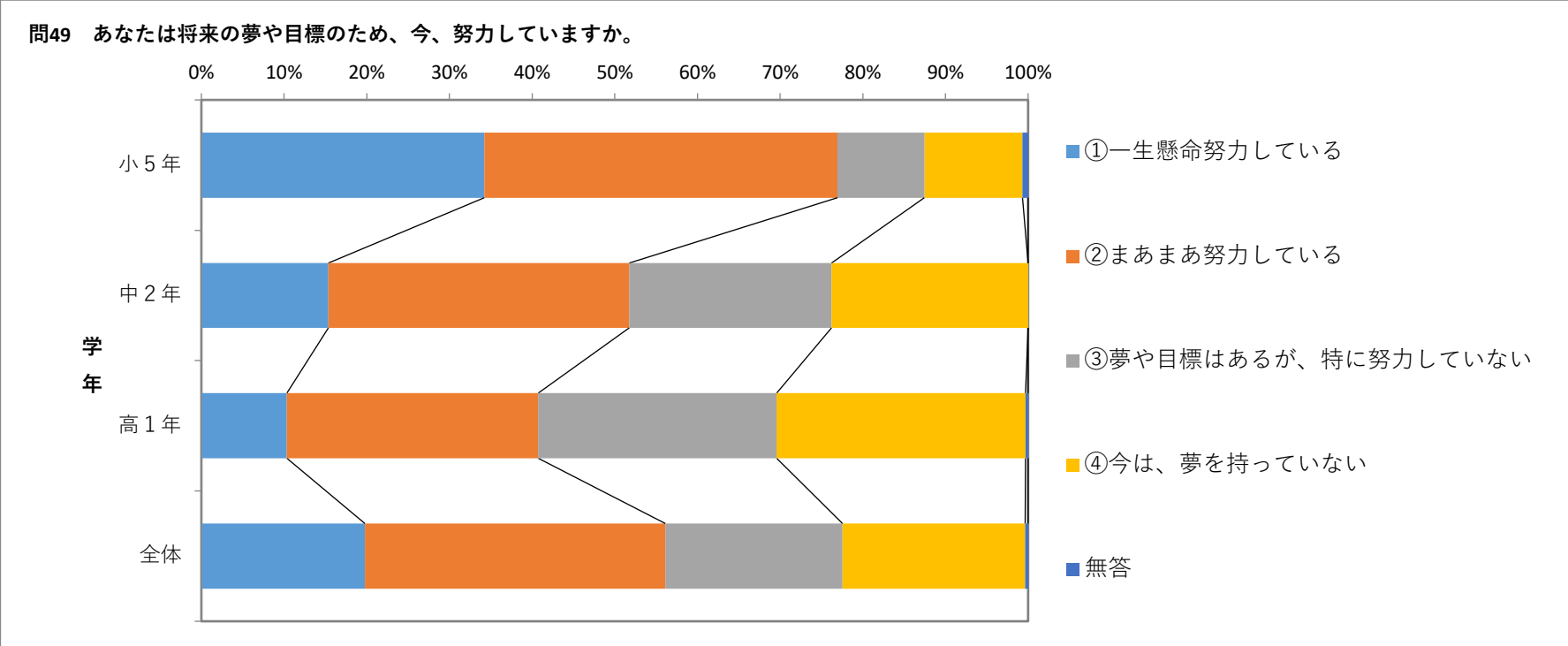
希望する最終学校を「大学」と答えた割合は全体の55％(昨年53％)で、その内訳を学年別で見ると、小5年41％(昨年40％)、中2年60％(昨年同様)、高1年64％(昨年61％)となっており、学年が上がるにつれて大学進学を希望する割合が高くなっている。これは、中高生は具体的な進路選択の場面が増え、自分の進路をより真剣に考えるようになってきていることの表れの一つだと考えることができる。2番目に多かったのは「専門学校」で17％(昨年20％)、次いで「高等学校」が16％(昨年同様)となり、中学校卒業後に95％(昨年96％)の子どもたちが上級学校を希望していることがわかる。



(単位：％)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	5.4	19.7	14.2	3.1	1.7	4.4	3.4	11.9	12.9	23.1	0.3	100.0
中2年	6.6	17.8	14.0	7.0	3.5	6.6	7.7	10.8	6.6	18.9	0.3	100.0
高1年	12.5	11.0	12.2	7.8	1.9	9.4	7.2	14.4	5.6	16.6	1.3	100.0
全体	8.3	16.0	13.4	6.0	2.3	6.9	6.1	12.4	8.3	19.4	0.7	100.0

今年度回答数が多かった将来つきたいと思っている仕事は、「スポーツに関する仕事」16％(昨年同様)「IT関連の仕事」13％(昨年10％)「ファッション・美容に関する仕事」12％(昨年同様)「医療に関する仕事」8％(昨年11％)「食に関する仕事」8％(昨年7％)の順になった。将来つきたい仕事については男女で大きな違いがあり、男子は「スポーツ関係の仕事」26％(昨年27％)「IT関連の仕事」22％(昨年17％)が多く、女子は「ファッション・美容に関する仕事」23％(昨年22％)「医療に関する仕事」12％(昨年15％)が多かった。将来つきたいと思う仕事は、世の中の情勢により毎年上位の順位が入れ替わっている。その他では「保育士」「イラストレーター」「動物に関する仕事」「農業」「弁護士」「ウェディングプランナー」など多種多様な職業が記述されていた。

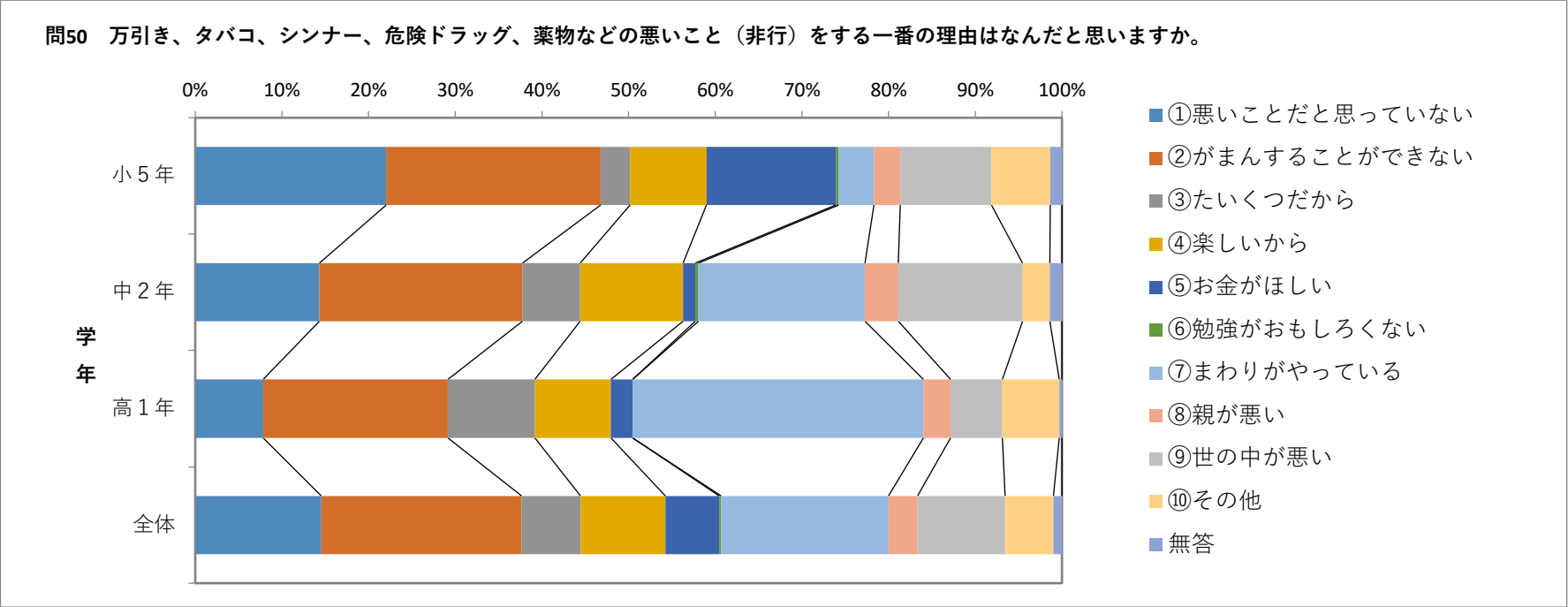


(単位：%)

	①	②	③	④	無答	合計
小5年	34.2	42.7	10.5	11.9	0.7	100.0
中2年	15.4	36.4	24.5	23.8	0.0	100.0
高1年	10.3	30.4	28.8	30.1	0.3	100.0
全体	19.8	36.3	21.4	22.1	0.3	100.0

将来の夢や目標の実現のために、「一生懸命努力している」と回答した割合は小5年34% (昨年33%)、中2年15% (昨年17%)、高1年10% (昨年15%)となっており、中2年、高1年は昨年度より減少したが、小5年はわずかであるが増加している。「まあまあ努力している」を加えた割合は、小5年で77% (昨年76%)、中2年で52% (昨年58%)、高1年で41% (昨年51%)と、学年が上がるにつれ低い割合となっている。「今は、夢を持っていない」と回答した割合は、小5年の12%に比べて、中2年24%、高1年30%と学年が上がるにつれ高くなっているが、これは小学生が憧れとしての夢を描いているのに対して、自己理解が深まる中高生は実現可能な夢を探し始めることが一つの要因となっていると考えられる。AIの急激な進歩により、今後今までになかった職業が生まれるなど職種も大きく変化していくと考えられる。そんな時代の変化に柔軟に対応する力を身に着けるために、小さな努力を積み重ねる習慣を身に付けさせたい。

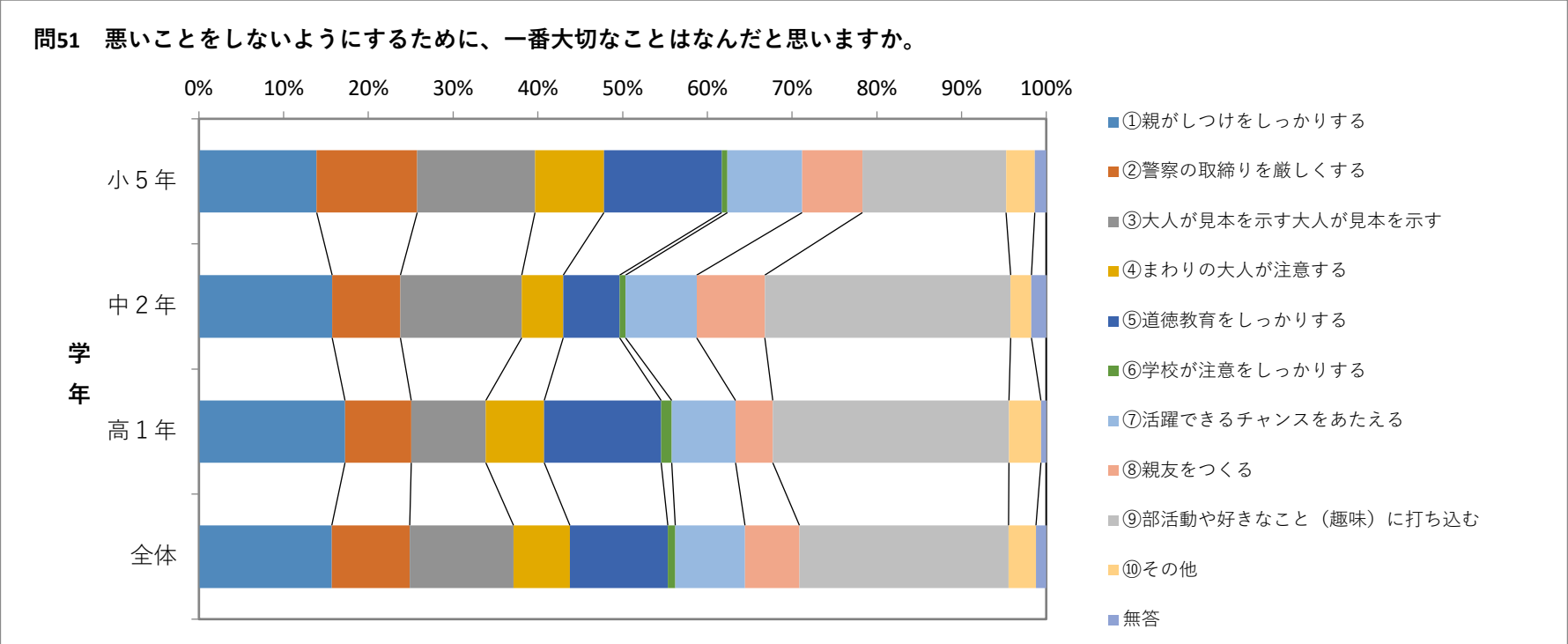
8 少年非行や社会認識に関すること



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	22.0	24.7	3.4	8.8	14.9	0.3	4.1	3.1	10.5	6.8	1.4	100.0
中2年	14.3	23.4	6.6	11.9	1.4	0.3	19.2	3.8	14.3	3.1	1.4	100.0
高1年	7.8	21.3	10.0	8.8	2.5	0.0	33.5	3.1	6.0	6.6	0.3	100.0
全体	14.6	23.1	6.8	9.8	6.2	0.2	19.3	3.3	10.1	5.6	1.0	100.0

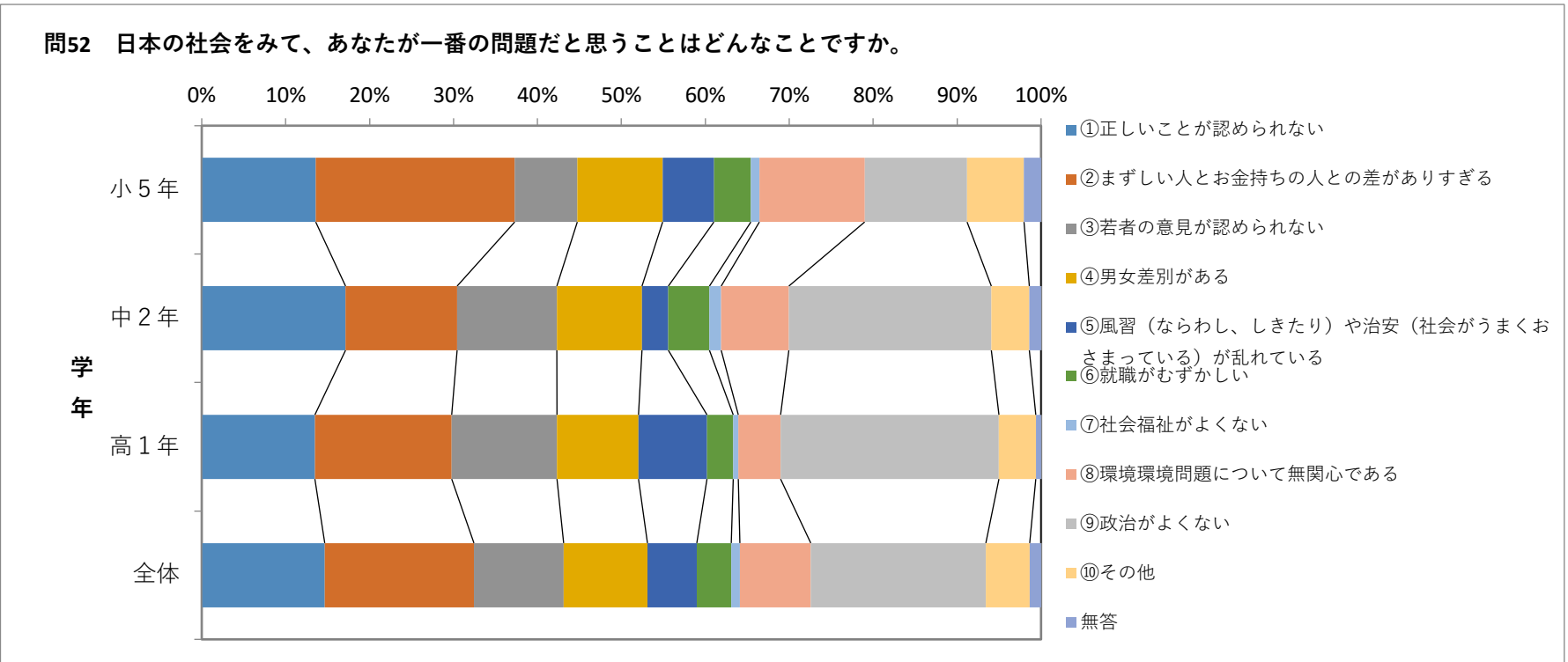
非行の理由を「がまんすることができない」と答えた割合が全体で23% (昨年同様)と最も多く、次いで「まわりがやっている」が19% (昨年16%)、「悪いことだと思っていない」15% (昨年17%)と続いている。このことから、子どもたちは環境や家庭の影響ではなく本人自身の問題として捉えている傾向が強いことがわかる。それでも、「世の中が悪い」と答えた割合は全体で10% (昨年同様)おり、非行に走る原因を単純に本人自身の問題としてだけでなく、環境や育ち方などの様々な要因に目が向けられるようになっている子どももいる。「親が悪い」と回答した割合はわずか3% (昨年2%)ほどで、回答した多くの子どもたちが親との関係が良好であるからだと考えられる。その他には「現実から逃げるため」「かっこいいと思っている」「認められていると感じられない世の中だから」「ストレスの発散」「周りの人に助けを求めることができないから」「疎外感をもっているから」など様々な記述が見られた。



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	13.9	11.9	13.9	8.1	13.9	0.7	8.8	7.1	16.9	3.4	1.4	100.0
中2年	15.7	8.0	14.3	4.9	6.6	0.7	8.4	8.0	29.0	2.4	1.7	100.0
高1年	17.2	7.8	8.8	6.9	13.8	1.3	7.5	4.4	27.9	3.8	0.6	100.0
全体	15.7	9.2	12.2	6.7	11.6	0.9	8.2	6.4	24.7	3.2	1.2	100.0

悪いことをしないために大切だと思うこととして「部活動や好きなこと(趣味)に打ち込む」と答えた割合が全体で25%と(昨年24%)最も多く、次いで「親がしつけをしっかりとる」の16% (昨年14%)、「大人が見本を示す」の12% (昨年17%) の順になった。子どもたちは、非行の防止のためには部活動や趣味などに打ち込みストレスを上手に発散すると同時に、両親やまわりの大人達からの支えも必要だと感じている。また、子どもたちも最近の社会全体のモラルの低下を感じているのか「道徳教育をしっかりとる」と回答した割合が12% (昨年10%)あり、4番目に高かった。その他には、「自分をしっかりと見つめなおす」「みんながほかの人を大切にする」「居場所をつくる」「現実的な知識を身につけさせ未来を想像できるようにする」などの記述があった。

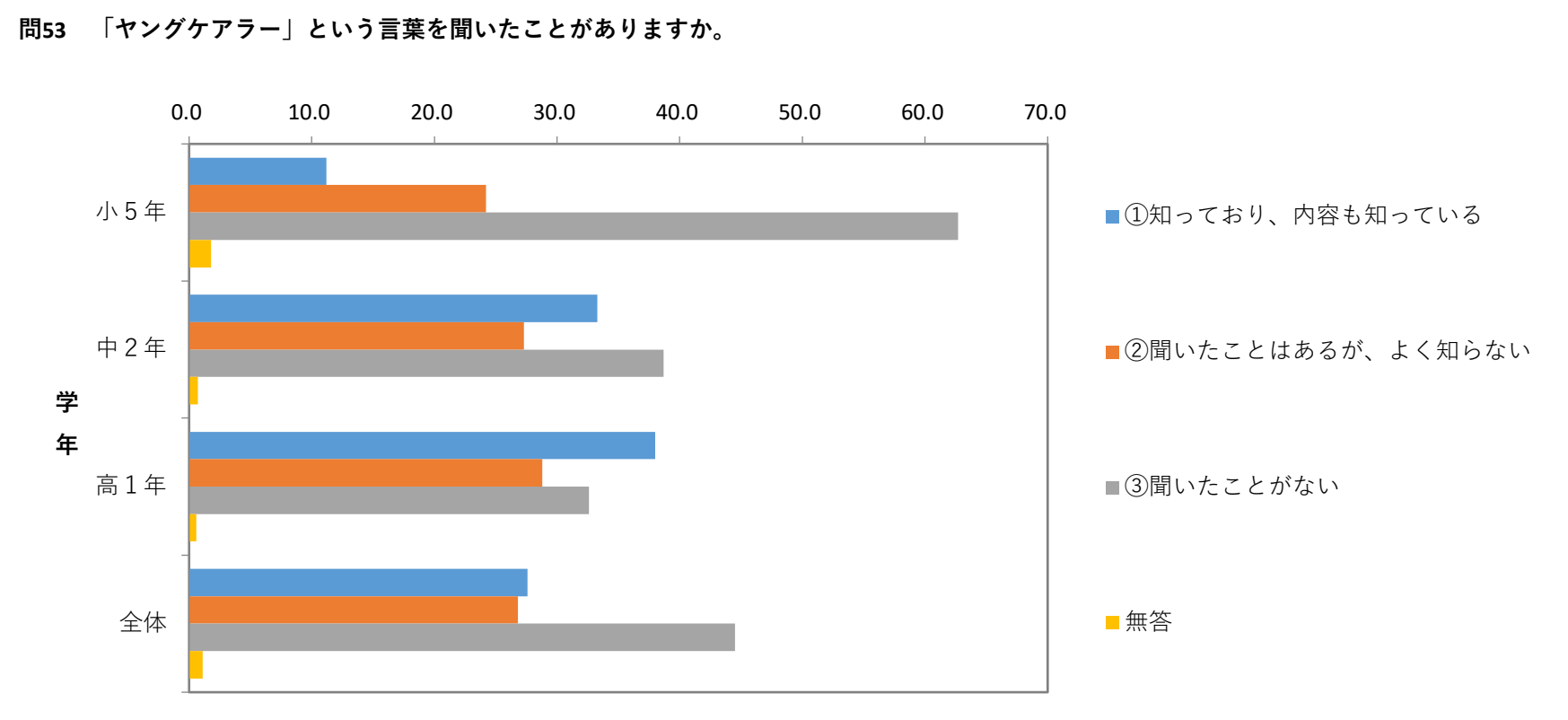


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無答	合計
小5年	13.6	23.7	7.5	10.2	6.1	4.4	1.0	12.5	12.2	6.8	2.0	100.0
中2年	17.1	13.3	11.9	10.1	3.1	4.9	1.4	8.0	24.1	4.5	1.4	100.0
高1年	13.5	16.3	12.5	9.7	8.2	3.1	0.6	5.0	26.0	4.4	0.6	100.0
全体	14.7	17.8	10.7	10.0	5.9	4.1	1.0	8.4	20.9	5.2	1.3	100.0

日本の社会で問題だと思うこととはという問いに対して、「政治がよくない」が21% (昨年25%)と最も高い割合となっている。これを学年別でみると小5年12%、中2年24%、高1年26%と学年が上がるにつれ高い割合となり、成長とともに社会や政治への関心が高まっていることがわかる。次いで多かったのが「まずしい人とお金持ちの差がありすぎる」と回答した割合の18% (昨年19%) で、3番目が「正しいことが認められない」の15% (昨年13%) だった。「男女差別がある」と回答したのは10% (昨年11%) で、ジェンダー問題がテレビや新聞でよく取り上げられるているが、子どもたちはそれほど男女差別を感じていない傾向にあることがわかる。その他には、「正しいことをした人が損をして、悪いことをした人が得をすること」「介護士の給料を上げていない」「一人一人が政治への思いがなく、ダメ出ししかしないこと」「ネット民の民度が低いこと」「何でも批判すること」などの記述があった。

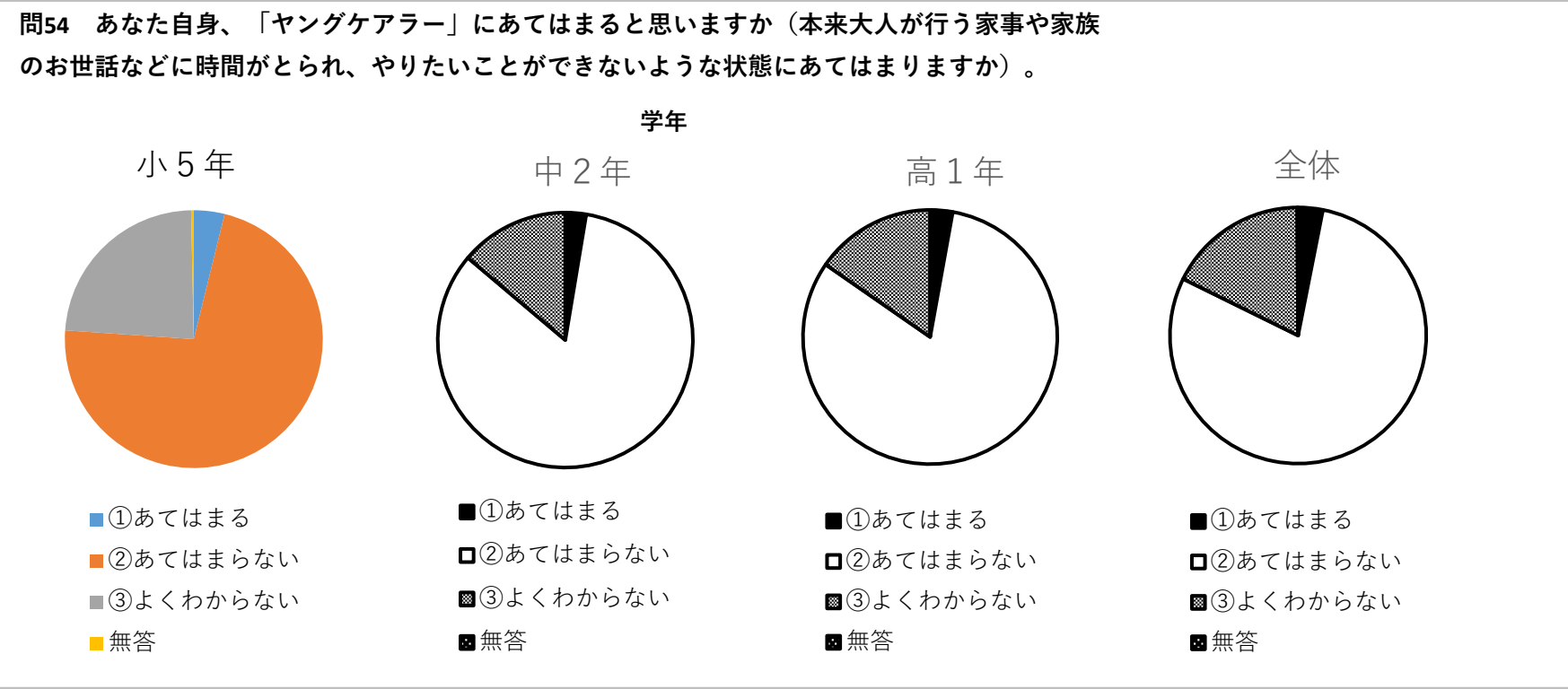
9 ヤングケアラーに関すること



(単位：%)

	①	②	③	無答	合計
小5年	11.2	24.2	62.7	1.8	100.0
中2年	33.3	27.3	38.7	0.7	100.0
高1年	38.0	28.8	32.6	0.6	100.0
全体	27.6	26.8	44.5	1.1	100.0

「ヤングケアラーという言葉を知ったことがありますか」という問いに対して、「知っており、内容についても知っている」と回答した割合は全体として28% (昨年21%) という結果となっている。それを学年別にみると、小5年が11% (昨年10%)、中2年が33% (昨年23%)、高1年が38% (昨年30%) となっており、学年が上がるにつれ認知度も上がっている。「聞いたことがあるが、よく知らない」と回答した割合を含めると54% (昨年45%) となっており、ヤングケアラーに対する認知度が昨年度より上がっている。ヤングケアラーについては自己認識をすることが重要であることから、認知度をあげるための周知啓発を引き続き行っていく必要がある。

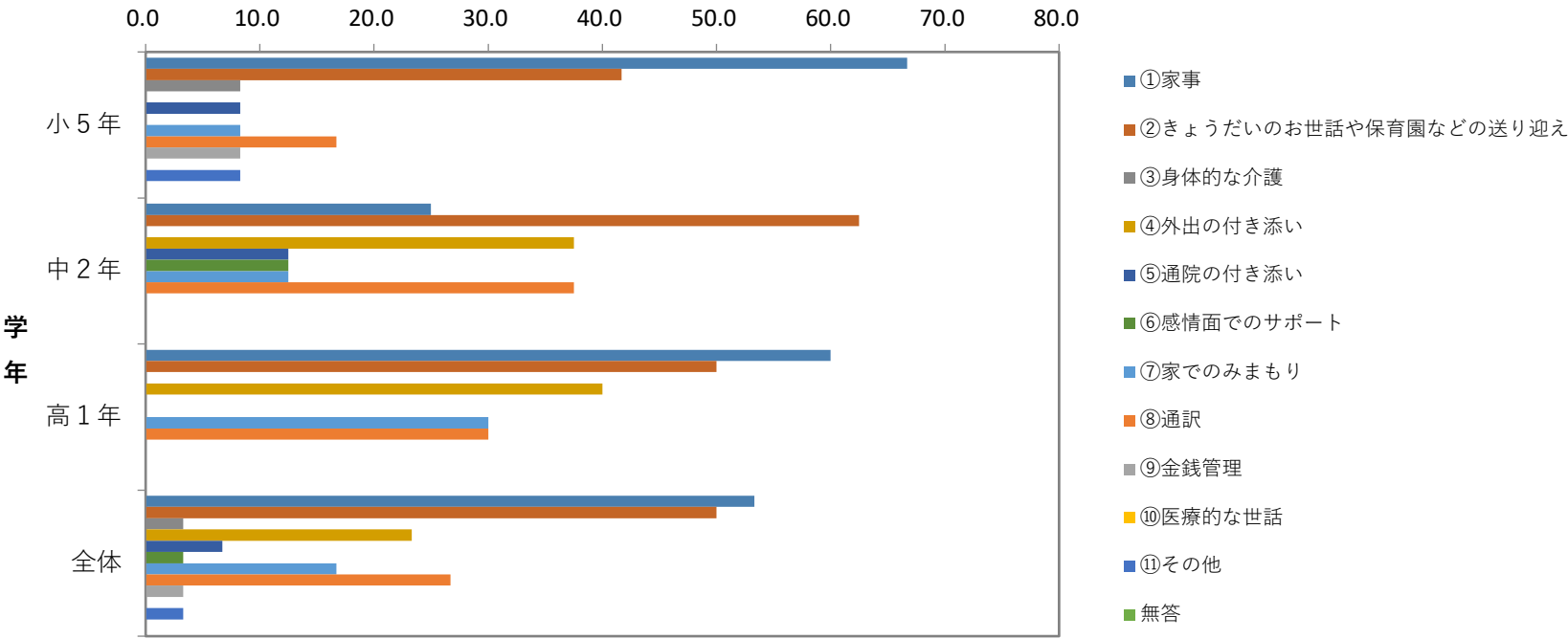


(単位：%)

	①	②	③	無答	合計
小5年	3.8	72.2	23.6	0.3	100.0
中2年	2.6	83.5	13.8	0.0	100.0
高1年	2.8	81.8	15.3	0.0	100.0
全体	3.1	79.2	17.6	0.1	100.0

ヤングケアラーに「あてはまる」と答えた割合は全体で3% (昨年同様) で、学年別に見ると小5年が4% (昨年2%)、中2年が3% (昨年同様)、高1年が3% (昨年2%) となっており、どの学年もほぼ同じ割合となっている。小5年が4%と高くなっているが、後の設問の回答と併せてみると、お手伝いとヤングケアラーの区別がはっきりしていないと思われる者も何名かいた。小学生のヤングケアラーの実態を正確につかむためには学校の先生への調査も合わせてすることが必要だと考えられる。

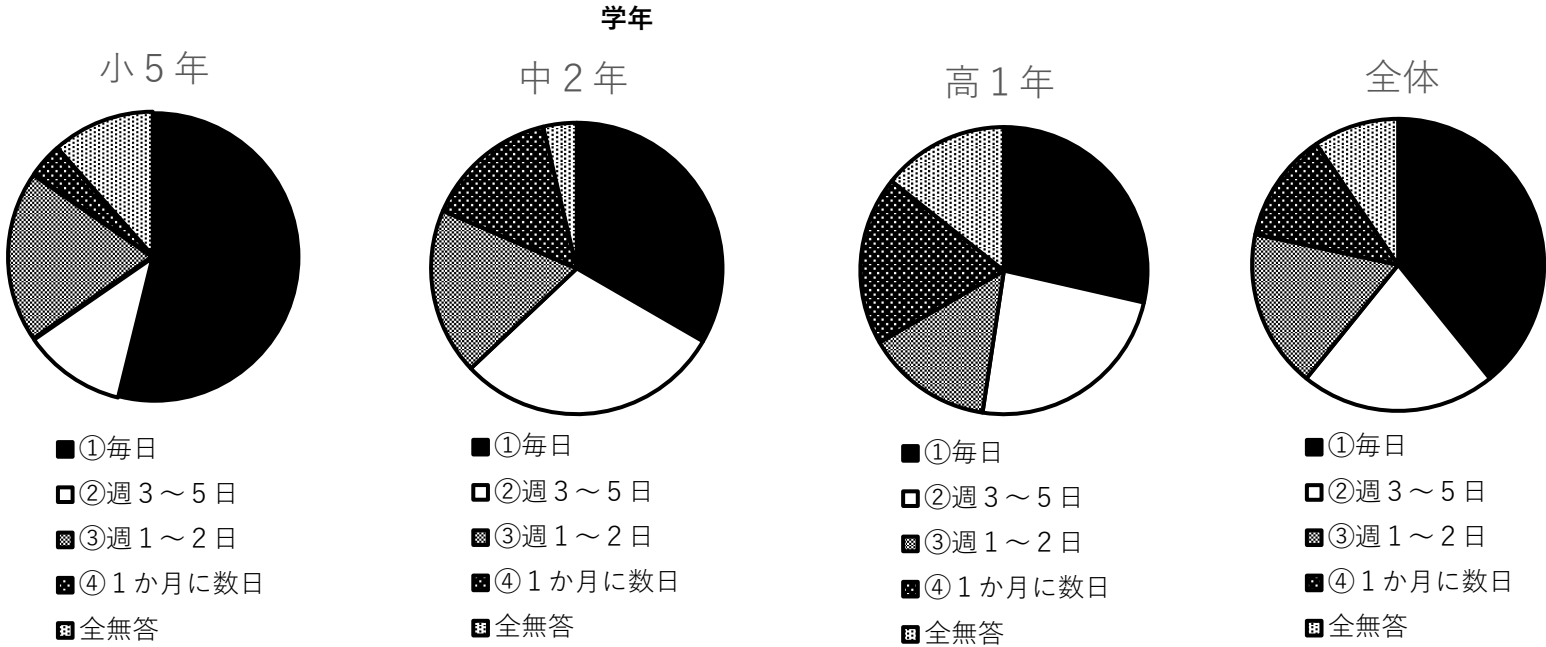
問55 【問54で「あてはまる」と回答した人】あなたがやっているお世話の内容について教えてください。（複数回答可）



(単位：%)												
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	無答
小5年	69.6	43.5	4.3	8.7	4.3	0.0	17.4	8.7	4.3	0.0	4.3	0.0
中2年	33.3	40.0	0.0	26.7	6.7	13.3	20.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
高1年	44.4	38.9	0.0	22.2	0.0	0.0	27.8	33.3	0.0	0.0	0.0	5.6
全体	51.8	41.1	1.8	17.9	3.6	3.6	21.4	23.2	1.8	0.0	1.8	1.8

複数回答可で質問したお世話の内容として、「家事」と回答した割合が52%、「きょうだいのお世話や保育園などの送り迎え」と回答した割合が41%と高かった。また、学年によってお世話をしている内容に違いがあり、特に中高生は「外出の付き添い」(中2年27%:高1年22%)、「通訳」(中2年高1年共に33%)といずれも小5年の9%より高い割合となった。「通訳」と回答した割合が高かったのは、外国籍の児童生徒の多い本市の特徴と考えられる。

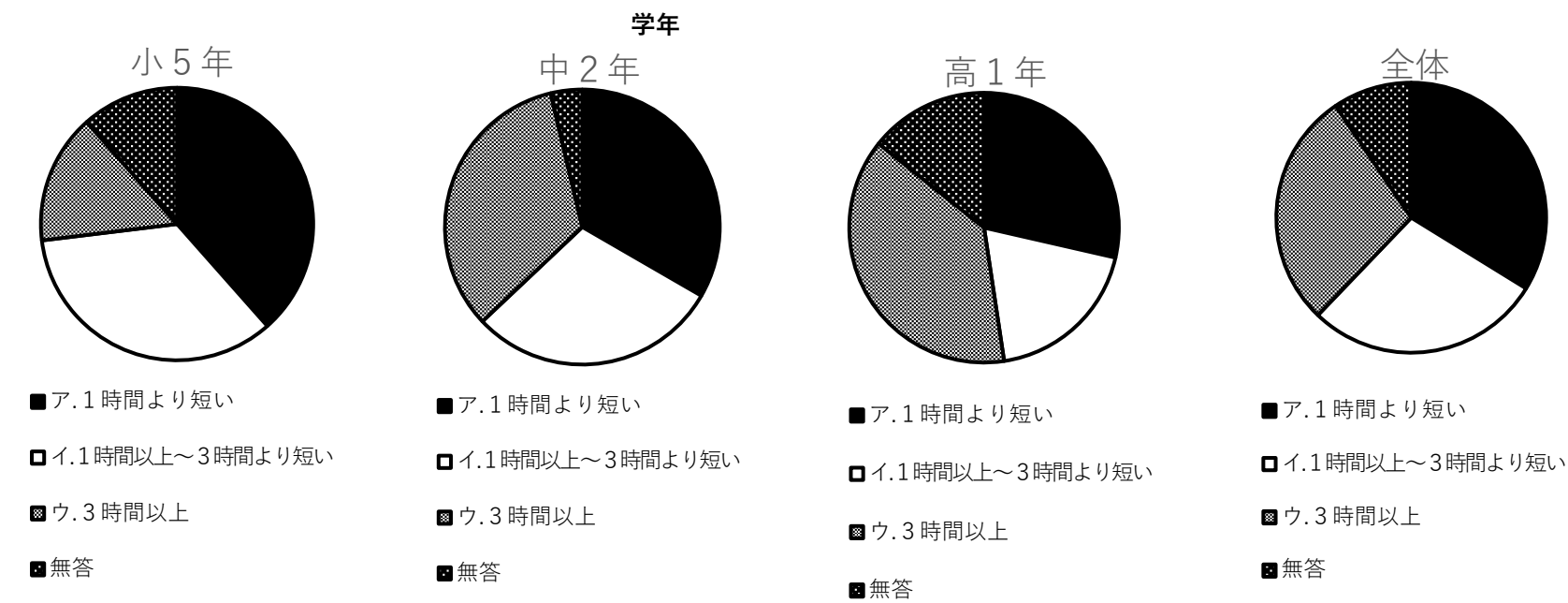
問56 お世話をしている日数を教えてください。また、一日にどれくらいお世話をしていますか。時間数を教えてください。



(単位：%)						
	①	②	③	④	無答	合計
小5年	53.8	11.5	19.2	3.8	11.5	100.0
中2年	33.3	29.6	18.5	14.8	3.7	100.0
高1年	28.6	23.8	14.3	19.0	14.3	100.0
全体	39.2	21.6	17.6	12.2	9.5	100.0

お世話している日数について、「毎日」と答えた割合は小5年が54%(昨年60%)、中2年が33%(昨年65%)、高1年が29%(昨年70%)、全体として39%(昨年65%)であり、どの学年でも「毎日」と答えた割合が一番高かったが、昨年度と比べると大きく減少していた。その分「週3～5日」が昨年度の17%から22%、「週1～2日」が昨年度の10%から18%へと増加している。サンプル数が少ないため年度により大きな差が生じるが、継続して調査して傾向を把握する必要がある。いずれにしろヤングケアラーにあてはまる子どもたちは、学業等に何らかの影響を及ぼしている可能性がある。

問56 お世話をしている日数を教えてください。また、一日にどれくらいお世話をしていますか。時間数を教えてください。



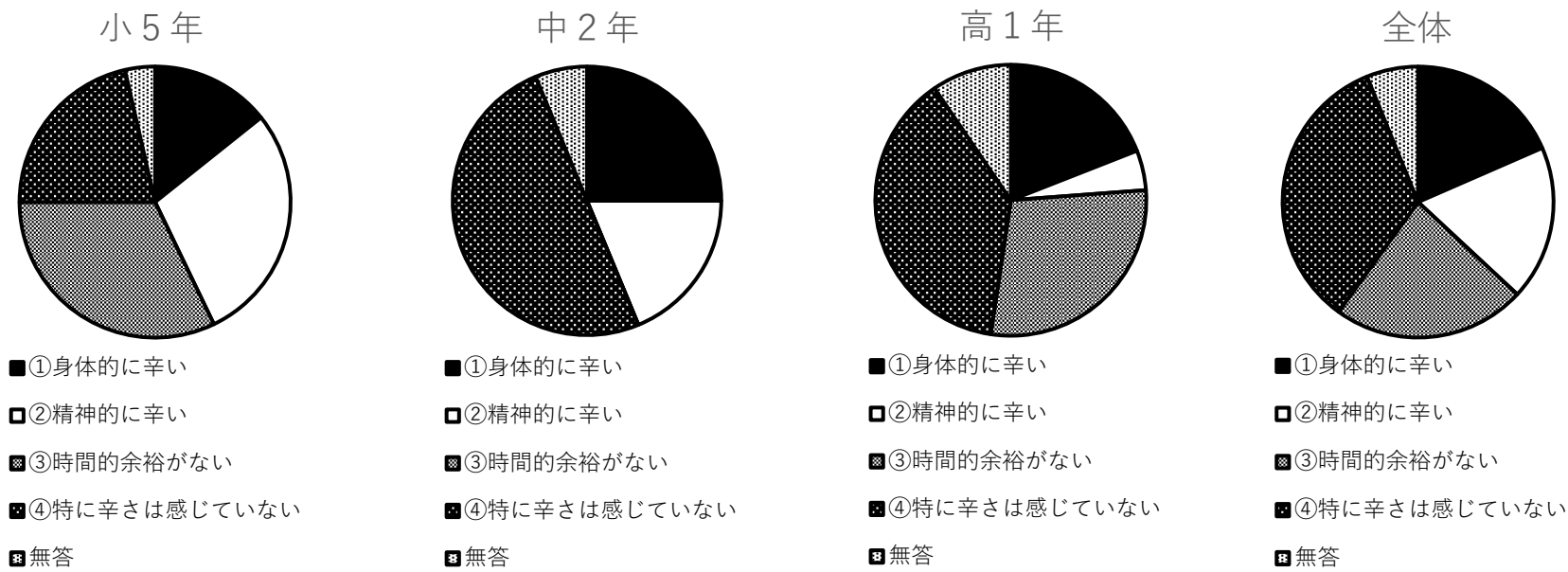
(単位：%)

	ア	イ	ウ	無答	合計
小5年	38.5	34.6	15.4	11.5	100.0
中2年	33.3	29.6	33.3	3.7	100.0
高1年	28.6	19.0	38.1	14.3	100.0
全体	33.8	28.4	28.4	9.5	100.0

一日にお世話をしている時間が「3時間以上」回答した割合は、小5年が15% (昨年7%)、中2年が33% (昨年18%)、高1年が38% (昨年15%)であり、全体として28% (昨年14%)となっており、長時間お世話をする子どもの割合は昨年度よりどの学年も大幅に増えている。その分「1時間より短い」と回答した割合は昨年の40%から34%に、「1時間以上3時間より短い」と回答した割合は昨年度の35%から28%へ減少している。

問57 お世話をすることに辛さを感じていますか。

学年 (複数回答可)

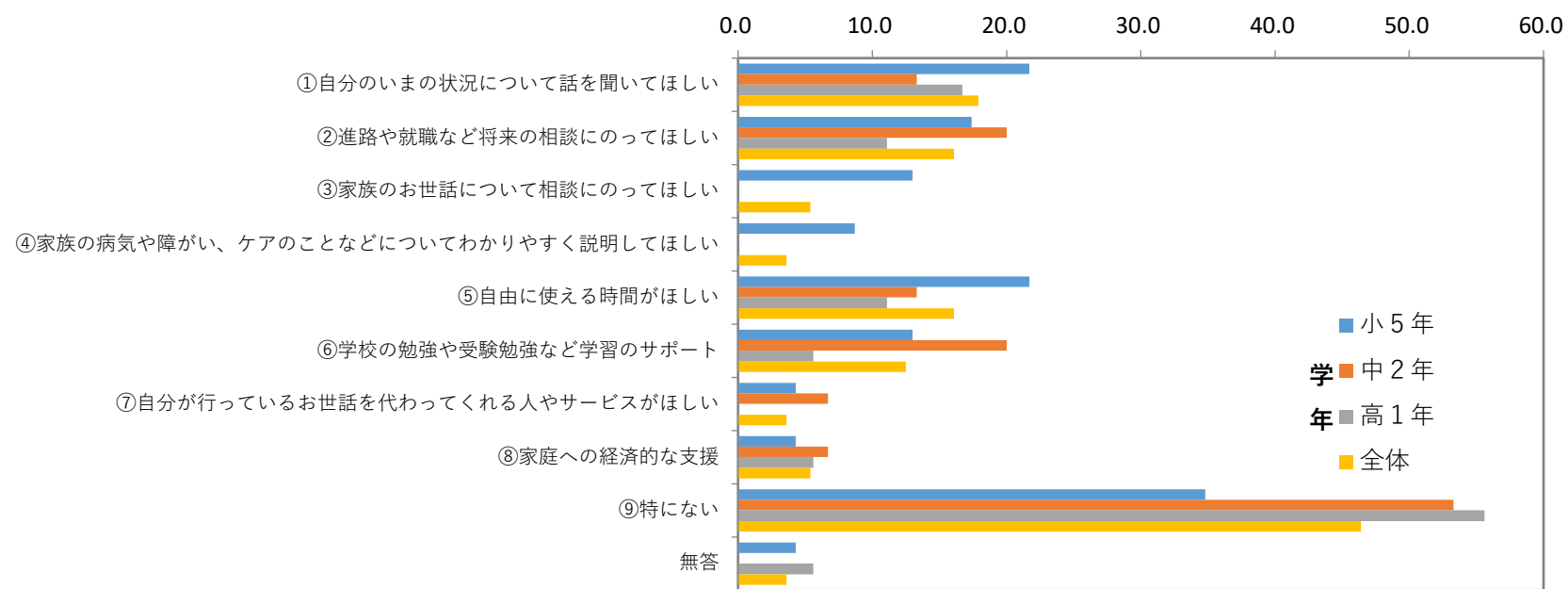


(単位：%)

	①	②	③	④	無答
小5年	17.4	34.8	39.1	26.1	4.3
中2年	26.7	20.0	0.0	53.3	6.7
高1年	22.2	5.6	33.3	44.4	11.1
全体	21.4	21.4	26.8	39.3	7.1

お世話することに辛さを感じていますかという問いに対して、「特に辛さを感じていない」と回答した割合は39% (昨年51%)だったが、昨年度と比べると大きく減少している。辛さを感じているという中で「時間的余裕がない」と回答した割合が27% (昨年17%)で最も多く、「身体的に辛い」が21% (昨年19%)、「精神的に辛い」が21% (昨年14%)といずれも増加しており、自分がヤングケアラーであると自認しているこどもの多くが何らかの辛さを感じていることがわかる。学年別の特徴を見ると、中2年で「時間的余裕がない」と回答した者は一人もおらず、高1年では「精神的に辛い」と回答した割合が6%と少なかった。

問58 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。 （複数回答可）



	（単位：％）									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無答
小5年	21.7	17.4	13.0	8.7	21.7	13.0	4.3	4.3	34.8	4.3
中2年	13.3	20.0	0.0	0.0	13.3	20.0	6.7	6.7	53.3	0.0
高1年	16.7	11.1	0.0	0.0	11.1	5.6	0.0	5.6	55.6	5.6
全体	17.9	16.1	5.4	3.6	16.1	12.5	3.6	5.4	46.4	3.6

助けてほしいこと・支援をしてほしいことについては学年ごとにより異なり、小5年は「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」が22%と高く、中2年は「進路や就職など将来の相談にのってほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が20%、高1年は「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が17%となっている。上記の結果からヤングケアラーの支援については、本人の多様な意向に寄り添いながら、横断的、組織的に取り組む必要があると考えられる。

小牧市少年センター

調査対象

① 小学校5年生 男子 ② 小学校5年生 女子 ③ 中学校2年生 男子
④ 中学校2年生 女子 ⑤ 高校1年生 男子 ⑥ 高校1年生 女子

質問内容	回答
（問）「このように、我が国は、国際社会に貢献するべく努力を怠りません。また、我が国の発展と世界の平和の達成には、経済的・政治的・文化的な相互理解が不可欠であり、そのためには、国際交流の促進が極めて重要である」と述べておられます。この点について、貴会ではどのような考えをお持ちでしょうか。	（答）日本は、国際社会に貢献し、世界平和の達成のために、国際交流の促進を重視して取り組んでまいりました。これは、我が国の外交政策の基本の一つであります。貴会においても、国際交流の促進を通じて、我が国の発展と世界の平和の達成に貢献することを目的として活動されているものと認識しております。

- 1 -

8 自分専用のスマートフォンを持っていますか。

① 持っている

② 持っていない→→→質問13へ

【携帯電話やスマートフォンを持っている人のみ答えてください。】

9 携帯電話やスマートフォンを持ったのは、いつごろからですか。

① 小学校4年生より前

② 小学校4年生～5年生

③ 小学校6年生～中学校1年生

④ 中学校2年生～3年生

⑤ 高校1年生

10 ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいスマートフォンを使っていますか。

① 1時間以内 ② 1時間以上～2時間以内 ③ 2時間以上～3時間以内

④ 3時間以上～4時間以内 ⑤ 4時間以上～5時間以内

⑥ 5時間以上 ⑦ わからない

11 スマートフォンなどを夜間に利用することについてどう思いますか。一番当てはまるものを1つだけ選んでください。

① 特に何も考えていない

② 迷惑になるから時間を決めて（例えば9時以降は）使用を控えている

③ 相手から連絡があると返事をしなくてはいけないから、地域全体で時間を決めて使用禁止にして欲しい

④ 自分のことだから、自分のルールに従って使用している

⑤ 家庭で親と話し合って使用のルールを決めている

⑥ その他

（具体的に記入：

）

12 スマートフォンを通して知り合った人と会ったことがありますか。

① 会ったことがある

② 会う約束をしたが、相手が来なかった

③ 会う約束をしている

④ 会う約束をしたが、行かなかった

⑤ 会ったことは無い

⑥ 会ったことは無いが、友達である

⑦ その他（

）

【この後は全員の人答えてください。】

13 インターネットで、一番多く利用していることは何ですか。

① 家族との連絡・おしゃべり

② 友達との連絡・おしゃべり

③ インターネットで情報を集める

④ ゲームをする

⑤ 音楽を聴く

⑥ 掲示板などに書き込み

⑦ ブログ、ツイッターなどを見る

⑧ 知らない人とラインする

⑨ 動画を見る

⑩その他（

）

14 あなたはインターネットのSNS（LINE・TikTok・YouTube・インスタグラム・フェイスブックなど）に自分のプロフィールや写真・動画などを投稿したことがありますか。

① よく投稿する

② ときどき投稿する

③ ほとんど投稿しない

④ 一度も投稿したことがない

⑤ その他（

）

15 今、あなたが一番悩んでいることはどんなことですか。

- [illegible]

16 悩みごとを一番相談するのはだれですか。

- ① お父さん ② お母さん ③ おじいさん ④ おばあさん ⑤ 兄弟姉妹
⑥ 先生 ⑦ 友達 ⑧ 先輩 ⑨ カウンセラーなど専門の人
⑩ その他()

17 「死にたい」と思ったことはありますか。

- ① ない ② 少しある ③ ある ④ よくある

18 友達（顔を見て話ができる）は何人くらいいますか。

- ① いない → → 質問 20 へ ② 1 ～ 2 人 → → 質問 19 へ
③ 3 ～ 4 人 → → 質問 19 へ ④ 5 人以上 → → 質問 19 へ

【18で②③④を選んだ人のみ答えてください。】

19 あなたと友達の関係について、一番当てはまるものはどれですか。

- ① 何でも話せる友達
② いっしょにいと楽しい友達
③ 困ったとき頼りになる友達
④ なんとなくいっしょにいる友達
⑤ 自分を大切にしてくれる友達
⑥ その他 ()

20 ネット上で知り合った友達は何人くらいいますか。

- ① いない → → 質問 2 2 へ ② 1 ～ 2 人 → → 質問 2 1 へ
③ 3 ～ 4 人 → → 質問 2 1 へ ④ 5 人以上 → → 質問 2 1 へ

【20 で②③④を選んだ人のみ答えてください。】

21 あなたとネット上の友達の関係について、一番当てはまるものはどれですか。

- ① 何でも話せる（伝え合える）友達
② 交流していると楽しい友達
③ 困ったとき頼りになる友達
④ なんとなくつながっている友達
⑤ 自分を大切にしてくれる友達
⑥ その他（ ）

【この後は全員の方が答えてください。】

22 今回の自分にとって、一番大切なことはなんですか。

- ① 笑顔を心がけること ② 社会のことをもっと知ること
③ 社会のルールやマナーをしっかり守ること ④ 自分の意見をしっかり持つこと
⑤ 思いやりを持つこと ⑥ 友達と元気に遊ぶこと ⑦ 色々な体験をすること
⑧ まわりのことを考えて行動すること ⑨ 協力したり助け合ったりすること
⑩ その他（ ）

23 あなたにとって、家族（家庭）として一番大切だと思うことはなんですか。

- ① みんなそろって食事をする ② 両親の仲が良い ③ いろいろな話ができる
④ 家族そろって旅行する ⑤ 信頼できる ⑥ 安心できる
⑦ 自分の好きなようにできる ⑧ きちんとしつけができる
⑨ その他（ ）

24 あなたが家にいるときの気持ちに一番近いのはどれですか。

① ホットして落ち着ける ② まあまあ落ち着ける ③ 少しイライラする
④ あまり家の中にいたくない
⑤ その他（ ）

25 あなたの生活や行動を一番注意してくれるのはだれですか。

① お父さん ② お母さん ③ おじいさん ④ おばあさん ⑤ 兄弟姉妹
⑥ 先生 ⑦友達 ⑧ 先輩 ⑨ 近所の人
⑩ その他（ ）

26 あなたが両親から一番注意を受けることはなんですか。

① あいさつの仕方 ② 食事時のマナー ③ 携帯やスマホのこと
④ 家に帰る時間 ⑤ 整理整頓 ⑥ 勉強のこと
⑦ 遊びのこと ⑧友達のこと ⑨ お金の使い方
⑩ その他（ ）

27 あなたが一番行っているお手伝い（家事）はなんですか。

① 自分の部屋の掃除 ② 自分の部屋以外の掃除 ③ 食事の準備や手伝い
④ 食事のかたづけ ⑤ 風呂の掃除 ⑥ 庭の植物の水やり
⑦ 庭の掃除 ⑧ 家のための買い物 ⑨ ゴミ出し
⑩ その他（ ）

28 あなたにとって、お父さんはどのような人ですか。一番当てはまるものを1つだけ選んでください。

① 生き方の手本となる ② 尊敬できる ③ 友達ようである
④ やさしい ⑤ 厳しい ⑥ 自分の話をよく聞いてくれる
⑦ 自分のことをよく理解してくれる ⑧ うっとうしい
⑨ その他（ ）

29 あなたにとって、お母さんはどのような人ですか。一番当てはまるものを1つだけ選んでください。

① 生き方の手本となる ② 尊敬できる ③ 友達ようである
④ やさしい ⑤ 厳しい ⑥ 自分の話をよく聞いてくれる
⑦ 自分のことをよく理解してくれる ⑧ うっとうしい
⑨その他（ ）

「少年の生活意識と行動」の実態調査Ⅱ

小牧市少年センター

この調査は、自分のこと、家庭生活・家族などについてたずねたものです。この調査結果は、みなさんのこれからの生活に役立てていきたいと思います。回答はすべて1つだけ選んで、あてはまる項目の番号を○で囲んでください。回答で「その他」を選んだ場合は、この問題用紙に具体的に書いてください。

調査対象

1 あなたの学年、性別について答えてください。

- ① 小学校5年生 男子 ② 小学校5年生 女子 ③ 中学校2年生 男子
④ 中学校2年生 女子 ⑤ 高校1年生 男子 ⑥ 高校1年生 女子

質問内容

2 先生は、あなたのことをわかってくれていると思いますか。

- ① 思う ② どちらかといえば思う
③ どちらかといえば思わない ④ 思わない

3 どんな先生に一番教えてもらいたいですか。

- ① おもしろくて親しみやすい先生 ② わかりやすい授業をしてくれる先生
③ 児童・生徒の意見を大切にしてくれる先生 ④ 児童・生徒を差別しない先生
⑤ 尊敬できる先生 ⑥ 児童・生徒のめんどろを見てくれる先生
⑦ その他 ()

4 学校に行きたくないと思ったことはありますか。

- ① いつも思っている ② 思ったことがある ③ 思ったことはない → → 質問6へ
→ 質問5へ → 質問5へ

【4で①②を選んだ、学校に行きたくないと思ったことのある人のみ答えてください。】

5 学校に行きたくない理由の一番は何ですか。

- ① 遊んでいたい ② 勉強がわからない ③ 友達と会いたくない
④ 先生がきらい ⑤ いじめられる ⑥ 先輩と会いたくない
⑦ 友達がいらない ⑧ なんとなく行きたくない
⑨ その他 ()

【この後は全員の方が答えてください。】

6 学校の「きまり」や「規則」について、あなたの考えに一番近いのはどれですか。

- ① 集団のルールとしてどうしても必要である
② 全体的にもうすこし簡単にすればよい
③ みんなの意見が取り入れられるべきである
④ 一人ひとりがしっかりしていれば必要ない
⑤ 学校は自由のほうがよいので必要ない
⑥ その他 ()

7 どうして勉強しなければならないと思いますか。1つだけ選んでください。

- ① 常識あるおとなになるため ② 知識・技能を身につけるため
③ 自分のやりたいことを見つけるため ④ よい大学に入り、よい会社に就職するため
⑤ 社会のために役立ちたいため ⑥ 自分を磨くため
⑦ お金持ちになり、豊かな生活をするため
⑧ 優れていると認められたり、尊敬されたりする立場になるため
⑨ その他（ ）

8 自分の住んでいるまちは好きですか。

- ① 好き ② どちらかといえば好き
③ どちらかといえば好きではない ④ 好きでない

9 公共施設や公園・道路などは、いつもきれいになっていますか。

- ① とてもきれいになっている ② だいたいきれいになっている
③ あまりきれいになっていない ④ まったくきれいになっていない

10 いつでもどこでも安心して外出することができますか。

- ① とても安心 →→→質問12へ ② だいたい安心 →→→質問12へ
③ あまり安心ではない→→→質問11へ ④ まったく安心ではない→→→質問11へ

【10で③④を選んだ人のみ答えてください。】

11 安心して外出することができない理由の一番はなんですか。

- ① 街路灯が少なく夜暗い ② 不審者が出る
③ 悪い人が集まっている場所がある
④ 人通りの少ない道路や見通しの悪い場所がある
⑤ その他（ ）

【この後は全員の方が答えてください。】

12 隣に住んでいる人を知っていますか。

- ① よく知っている ② だいたい知っている
③ あまり知らない ④ ほとんど知らない

13 あなたにいつも「おはよう」「こんにちは」などと声をかけてくれる人はいますか。

- ① たくさんいる ② ときどきいる ③ あまりいない ④ ほとんどいない

14 近所の人から注意を受けることはありますか。

- ① よくある ② ときどきある ③ あまりない ④ ほとんどない

15 地域で行われる行事（盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など）に参加しますか。

- ① よく参加する ② ときどき参加する
③ あまり参加しない ④ほとんど参加しない

16 地域で行われる行事（盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など）にお手伝いやボランティアとして協力しますか。

- ① よく協力する ② ときどき協力する
③ あまり協力しない ④ほとんど協力しない

17 近所の人と仲よくすることは大切だと思いますか。

- ① とても大切だ ② やや大切だ
③ あまり大切にない ④ ほとんど大切にない

18 地域をよくするために、一番大切にしたい活動はなんですか。

- ① お祭りや昔からの行事 ② あいさつ運動 ③ 地域の運動会やスポーツ大会
④ ボランティア活動 ⑤ 子ども会活動 ⑥ 環境美化活動
④ その他（ ）

19 あなたは、どんなところに一番住みたいですか。

- ① 空気のきれいな自然がいっぱいのところ ② 買い物に便利なところ
③ 交通の便がよいところ ④ 病院や福祉施設などの利用が便利なところ
⑤ 映画館・劇場・遊園地などの遊び場が近くにあるところ
⑥ 学校や幼稚園・保育園が近くにあるところ
⑦ 仕事をする場所がたくさんあるところ
⑧ 近所の人たちが仲のよいところ
⑨ その他（ ）

20 希望する最終の学校はなんですか。

- ① 中学校 ② 高等学校 ③ 職業訓練校 ④ 専門学校
⑤ 短期大学 ⑥ 大学 ⑦ 大学院

21 将来、一番つきたいと思っている仕事はなんですか。

- ① 医者・看護師・薬剤師など医療に関する仕事
- ② スポーツ選手・インストラクターなどのスポーツに関する仕事
- ③ プログラマー・ソフトウェア開発者・ゲームプランナーなどのIT関連の仕事
- ④ 受付スタッフ・秘書・出版社社員などの事務・企画関係の仕事
- ⑤ 介護福祉士・ケアマネジャー・ホームヘルパーなどの福祉関係の仕事
- ⑥ 役所・公立学校・公立病院の職員や自衛官・消防士などの公務員
- ⑦ 俳優・整備士・大工などの職人・技術関係の仕事
- ⑧ ファッションデザイナー・理容師・美容師などのファッション・美容に関する仕事
- ⑨ 料理人・栄養士などの食に関する仕事
- ⑩ その他（ ）

22 あなたは将来の夢や目標のため、今、努力していますか。

- ① 一生懸命努力している ② まあまあ努力している
③ 夢や目標はあるが、特に努力していない ④ 今は、夢を持っていない

23 万引き、タバコ、シンナー、危険ドラッグ、薬物などの悪いこと（非行）をする一番の理由はなんだと思いますか。

- ① 悪いことだと思っていない ② がまんすることができない ③ たいくつだから
④ 楽しいから ⑤ お金がほしい ⑥ 勉強がおもしろくない
⑦ まわりがやっている ⑧ 親が悪い ⑨ 世の中が悪い
⑩ その他（ ）

24 悪いことをしないようにするために、一番大切なことはなんだと思いますか。

- ① 親がしつけをしっかりする ② 警察の取締りを厳しくする
③ 大人が見本を示す ④ まわりの大人が注意する
⑤ 道徳教育をしっかりする ⑥ 学校が注意をしっかりする
⑦ 活躍できるチャンスをあたえる ⑧ 親友をつくる
⑨ 部活動や好きなこと（趣味）に打ち込む
⑩ その他（ ）

25 日本の社会をみて、あなたが一番の問題だと思うことはどんなことですか。

- ① 正しいことが認められない ② まずしい人とお金持ちの人との差がありすぎる
③ 若者の意見が認められない ④ 男女差別がある
⑤ 風習（ならわし、しきたり）や治安（社会がうまくおさまっている）が乱れている
⑥ 就職がむずかしい ⑦ 社会福祉がよくない
⑧ 環境問題について無関心である ⑨ 政治がよくない
⑩ その他（ ）

別紙につづきます

「ヤングケアラー」とは、「本来大人が行う家事や家族の世話などを日常적으로こなしている子ども」とされています。具体的な例として以下のように紹介されています。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

30 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。

- ① 知っており、内容も知っている。
- ② 聞いたことはあるが、よく知らない。
- ③ 聞いたことがない

31 あなた自身、「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか（本来大人が行う家事や家族のお世話などに時間がとられ、やりたいことができないような状態にあてはまりますか）。

- ① あてはまる ⇒ 32 へ
- ② あてはまらない ⇒ 質問は以上となります。
- ③ よくわからない ⇒ 質問は以上となります。

※①を選んだ人は、うらにも記載してください。

32 31で「あてはまる」と回答した人にお聞きします。

あなたが行っているお世話の内容について教えてください。

(あてはまる番号すべてに○)

- ①家事(食事の準備、洗濯、掃除など)
- ②きょうだいのお世話や保育園などの送り迎え
- ③身体的な介護(入浴やトイレのお世話、体拭きなど)
- ④外出の付き添い(買い物、散歩の補助) ⑤通院の付き添い
- ⑥感情面でのサポート(話し相手になる、悩みを聞く) ⑦家でのみまもり
- ⑧通訳 ⑨金銭管理 ⑩医療的な世話(薬の管理、たんの吸引など)
- ⑪その他

33 お世話をしている日数を教えてください。また、一日にどれくらいお世話をしていますか。時間数を教えてください。

(日によって異なる場合は最も長かった時間を教えてください。)

- ①毎日
ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上
- ②週3～5日
ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上
- ③週1～2日
ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上
- ④1か月に数日
ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上

34 お世話をすることに辛さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- ①身体的に辛い ②精神的に辛い ③時間的余裕がない
- ④特に辛さは感じていない

35 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- ①自分のいまの状況について話を聞いてほしい
- ②進路や就職など将来の相談にのってほしい
- ③家族のお世話について相談にのってほしい
- ④家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
- ⑤自由に使える時間がほしい ⑥学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
- ⑦自分が行っているお世話を代わってくれる人やサービスがほしい
- ⑧家庭への経済的な支援 ⑨特にない

これで終わりです、ご協力ありがとうございました。